

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

【ビューネクスト】高校版

VIEWnext

2021
October

10

特集

はじめの一手で見えてくる

生徒のための 学習評価

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

鳥取県・私立

青翔開智中学校・高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

世界史

石川県立加賀高校

前田鷹図

数学

京都府・私立東山中学・高校

山本晃弘

Photo Session at Cover

東京都・私立
かえつ有明
中・高校



地域に関心を
持ってもらうには？

目的を達成できる
企画って？

未来を描く！ 創る！
イノベーティブな
生徒たち

第3回

楽しく、でも本質は見失わない！ 「地域」を発信する学校公認 YouTuber

あやね **二宮綾音**さん・3年生(左) / のぞみ **大竹希美**さん・3年生(右)

山形県立米沢東高校

地

域の魅力動画を発信する、山形県立米沢東高校公認 YouTuber「おたみや」。メンバー

の大竹希美さんと二宮綾音さんがアップする動画は、米沢の特産品の紹介や、地域で活躍する人たちへのインタビューなど。2人は、1年生の時から、担任の高橋英路先生の下で地域探究に取り組み、地域活動にも積極的に参加してきた。しかし2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大によって、地域活動の多くが中止に。リアルの場に集まることができなくても、人が結びつき、地域について考えられる場をつくることはできないかと悩んだ2人がたどり着いたのが、YouTubeだった。

ターゲットは中高生。地域活動に参加した際、同世代の参加者の少なさが気になったからだ。だが、二宮さんは、「私も昔は、米沢に興味は持っていなかった」と明かす。

「先生に勧められて地域活動に参加して、いろいろな立場の人がつながりながら地域の問題を解決しようとしていることを、素敵だなど感じました。そうした人たちの活躍、そして地域の魅力や課題を高校生が目

イノベーションの芽を育てる

教師たち



山形県立米沢東高校
3学年担任
高橋英路

生徒と校外をつなぎ、 多様な力を育む

大竹さん、二宮さんは、1年次から地域のお祭りの実行委員として活動したり、大学主催のワークショップに参加したりする中で、外の世界の広さを知りました。すると、2人は、YouTubeチャンネルの開設やイノベーションコンテストへの出場など、自ら新しい挑戦を始めました。地域の行動的な大人たちとの出会いに影響を受けた生徒は、次第に自分の考えを臆せず他者に伝え、行動するようになります。2人はまさに、そうした姿を見せてくれましたし、2人に続くように自ら地域に働きかける生徒も増えています。生徒は、これからの社会で生きるためには、教科学力以外にも様々な力が必要だと気づいています。もっと生徒を校外の多様な人たちとつないでいきたいですし、そのためには、私たち教師も、様々な分野で活躍する校外の人たちとこれまで以上につながる必要があると思っています。

線で発信することで、私のように地域に興味を持つようになる中高生が増えたらいいなと思いました」
これまでに投稿した動画は約40本。動画制作に先立って、2人は校内で生徒対象のアンケートを実施し、どのような動画が人気なのかを調べた。その結果、高校生が支持するのは、ドッキリ企画、ゲーム実況、飲食場面の配信などだと分かった。しかし、大竹さんは、「仮にゲーム実況の動画で中高生から支持を得たとしても、地域の情報が発信できていなければ活動の本来の目的とかけ離れたものになるし、一方で、中高生の嗜好を無視して動画を作ったら、中高生に見てもらえないのでは

ないか」と悩んだという。
「ウケること以上に、本来の目的を大切にして動画を作ろうと2人で話し合いました。そして、どうしても地域と結びつけられない企画は駄目だけど、地元食材に限定した飲食場面の配信など、中高生の好きな要素と地域の情報を融合させられるのであれば採用することにしました」
動画の再生回数は合計で1万回を超え、「見たよ!」と校外外で声をかけられることも多くあり、「自分も地域活動に取り組みたい」と、一歩を踏み出そうとする後輩も増えた。少しずつではあるが、中高生と地域をつなげられているように感じている。同時に、動画

に対する反響が大きくなるにつれ、自分たちは、地域の、米沢東高校の一員なのだ」と実感し、動画内での言動に対する責任感が一層強まった。
「調べて終わるのではなく、YouTubeという発信の場があったことで、自分たちは大きく成長できたと思う」と、2人は口をそろえる。特に自覚するのは、動画に関心を持ってくれた人から、次の企画のアイデアをもらったり、ゲストを紹介してもらったりする、「人を巻き込む力」が向上したことだ。
「将来は公務員になって、防災など、地域になくはない活動の中で、人々がつながりを実感できる

ようなユニークな施策を考えたい」(大竹さん)、「インターンシップなど、高校生や大学生を地域の企業とつなぐコーディネーターとして起業したい」(二宮さん)と、2人の夢はともに、地域を舞台に人をつなげていくことだ。



写真 米沢市役所の職員など、地域の人たちとコラボレーションしながら、高校生目線の楽しい動画で、地域の魅力と課題を伝える。

学校プロフィール
設立 1898(明治31)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約160人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、宮城教育大、山形大、福島大、新潟大などに28人が合格。私立大は、東北学院大、東北福祉大、専修大、東海大、東洋大、日本大などに延べ151人が合格。

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください!

ご推薦いただける際は、右の2次元コードを読み取っていただき、フォームに沿ってご入力いただきますようお願いいたします。



3 特集

はじめの一手で見えてくる

生徒のための学習評価

27 For School Section

- 28 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」
鳥取県・私立青翔開智中学校・高校
- 32 —疑問や課題を解決!実践につながる!— 新課程レポート
新課程1期生入学に向けた観点別評価
- 36 指導変革の軌跡
岡山県立岡山東商業高校
- 40 輝く学年団を訪ねて
宮城県柴田高校 2学年団
- 44 学校危機管理 基礎講座
テーマ いじめの防止と対応

47 For Teacher Section

- 48 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 48 世界史 石川県立加賀高校 前田鷹^{たかと}園
- 52 数学 京都府・私立東山中学・高校 山本晃^{あきひろ}弘
- 56 SDGsの視点で見る大学の学び
- 56 目標1、目標11、目標17 関西大学
社会学部 社会システムデザイン専攻 草郷孝好^{くさごうたかよし}研究室
- 58 目標11 長岡造形大学
造形学部 建築・環境デザイン学科 環境計画・保存コース
渡邊誠介研究室
- 60 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説
トレンド・ワード データサイエンス
- 64 誌上で見学 学びのnext
小論文合同学習会 近畿地区専門高校3校連携

巻頭 未来を描く! 創る! イノベーティブな生徒たち

二宮綾音^{あやね}さん 大竹希美^{のぞみ}さん (ともに3年生)
山形県立米沢東高校

46 データから考える! 指導のnext

ピックアップデータ ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」

72 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本/ (株)協同プレス 編集協力/ (有)ペンダコ 執筆協力/ 佐藤 智、中丸 満、二宮良大、長谷川 潤、岸 隆子、田中秀和、谷口 哲、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

はじめの一手で見えてくる

生徒のための 学習評価

2022年度入学生の教育課程の編成が進んだ今、多くの学校にとっての次なるステップは、学習評価の充実に向けた準備かと思います。『VIEW next』高校版の読者モニターに実施したアンケートによると、半数近くの学校が学習評価に関する研修を実施しているものの、観点別学習状況の評価の実実施計画の策定や試行をしている学校は3割にも満たない状況でした。22年度から実施の新学習指導要領で求められている学習評価は、その構造や評価方法が一見複雑なため、実施まで半年を切った今でも、準備が思うように進んでいないのかもしれませんが、ただ、既に準備に着手されている先生方に話を伺うと、「今回求められている学習評価は、最初の一步を踏み出せば見えてくるものが多い」と、口々におっしゃっていました。もちろん、やみくもに一手を打つのではなく、効果的な一手を打つことが重要です。そこで本特集は、学習評価の改善過程でよく見られる課題に対して有効な一手を、具体的な実践事例を通じてお伝えしてまいります。識者による学習評価のキーワードの解説とともに、本特集を、自校の学習評価の改善・充実にお役立ていただけますと幸いです。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

自校の実情に合わせて、学習評価の充実に向けた「一手」を考える

P.6 実践事例1 北海道札幌南陵高校

シラバスを改訂し、全教師に、学習評価を3観点で行う意識の浸透を図る

P.10 実践事例2 宮城県仙台第三高校

生徒や外部の視点も入った形成的評価が、生徒の学びへの意欲をかき立てる

P.14 実践事例3 福岡県立香椎^{かしい}高校

日々の授業での生徒の様子を最大限評価し、教育目標の実現を目指す

P.18 識者解説

新学習指導要領で求められる学習評価の本質とその実践の要諦

京都大学大学院 教育学研究科 教授 西岡加名恵

P.24 本特集テーマのnext

複数の学校で学習評価を磨き合う SSH8校共同開発「標準ルーブリック」

京都府・京都市立堀川高校 教頭 飯澤 功

自校の実情に合わせて、 学習評価の 充実に向けた 「一手」を考える

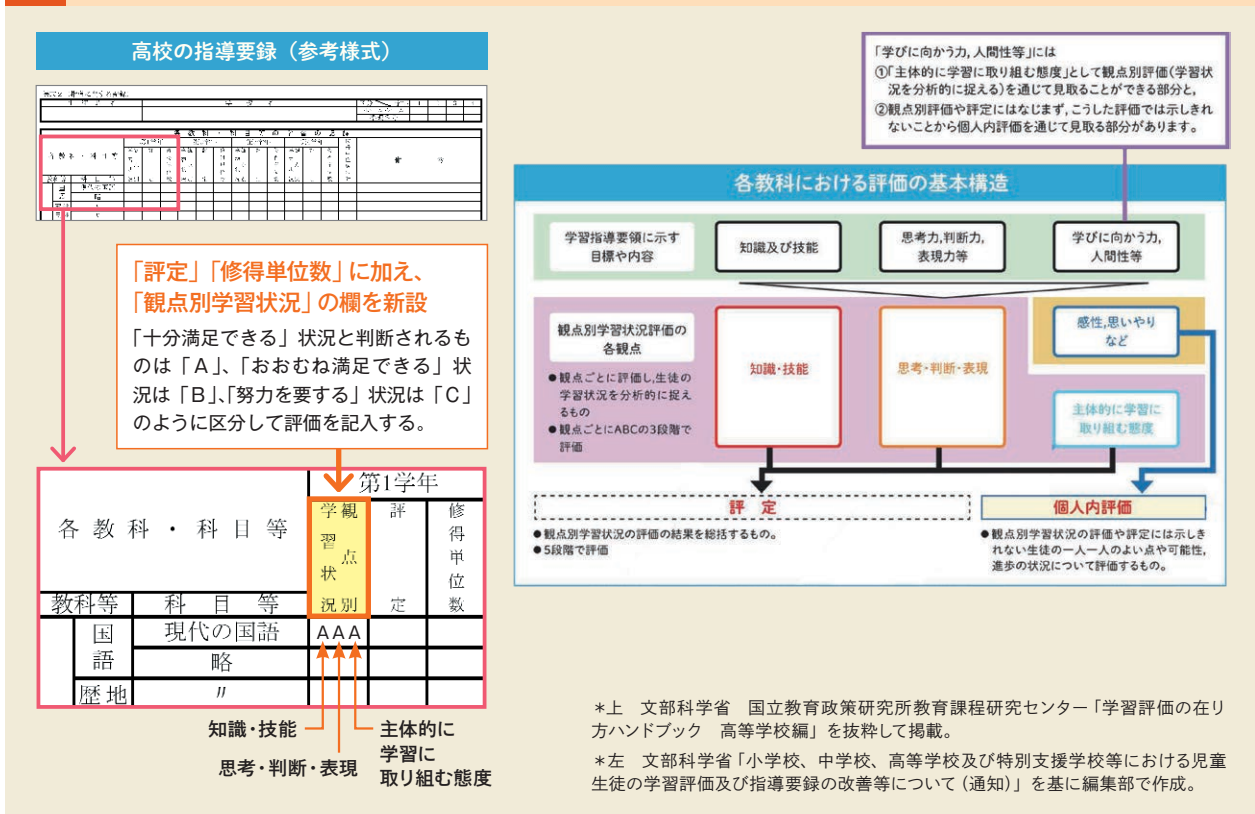
新学習指導要領の実施まで5か月余り。多くの学校にとって共通の課題となっているのが学習評価だが、その準備状況や課題の内容は学校によって異なる。本特集ではまず、新学習指導要領で求められる学習評価の基本事項を押さえた上で、各校が抱える課題とそれに対する「一手」を考える。

新学習指導要領の実施を 学習評価の充実の契機に

新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が3つの柱で整理されたことを踏まえて、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の観点も、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理された（図1）。そして、小・中学校と高校とでは、観点別評価の取り組みに差が見ら

れることを受けて、高校の指導要録にも、「観点別学習状況」を記載する欄が新設された。学習評価の改善の方向性は、生徒の学習改善と教師の指導改善につながるものにしていくことであり、学習評価のさらなる充実に向けては、自校の実情に合わせて、評価のあり方を見直すことが必要だ。学習評価の改善過程において、自校はどのような課題を抱えているのか、次ページで確認されたい。

図1 学習評価の基本構造と指導要録



自校が直面している、学習評価の改善過程における課題は？
「課題への一手」を参考に、本特集を活用いただきたい

1 学習評価の実践にあたって必要な教師のマインドセットをどう図る？

課題への一手

- 評定の根拠が定期考査の結果に偏重していた点を改善するため、学習評価に係る教務内規を、成績不振者に対するものを中心に改訂。 ▶ 〈実践事例1〉北海道札幌南陵高校 P.6
- 大学入試の合格ラインを評価の基準としていた教師の評価観を、目標に準拠した評価へと転換させる研修を実施。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.13

2 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価する？

課題への一手

- 学習した様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求める「パフォーマンス課題」を実施し、「ルーブリック」で「思考・判断・表現」を評価するとともに、振り返りシートに見られる生徒の変容から「関心・意欲・態度」を評価。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.10～11
- 「座席表型の日々の評価表」を使って生徒の授業態度を見取り、「主体的に学習に取り組む態度」の配点の50%を充当。 ▶ 〈実践事例3〉福岡県立香椎高校 P.15～16

3 観点別評価はいつ実施する？

課題への一手

- 単元または題材ごとに3観点の評価規準と評価方法をシラバスに明示。 ▶ 〈実践事例1〉北海道札幌南陵高校 P.8～9
- 各単元において、3観点のうちどの観点を、どのような評価規準で、どのような評価方法を用いて評価するのかを一覧化した「評価計画」を作成。 ▶ 〈実践事例2〉宮城県仙台第三高校 P.13

4 観点別評価を評定にどのようにして総括するか？

課題への一手

- 観点別評価を評定に総括する際の3観点の重みづけは、それぞれ30%から40%の範囲内で各教科で決定。そして、各学期、3観点それぞれをどのような学習活動を通じて、どんな割合で評価するのかを、各教科で定める。 ▶ 〈実践事例3〉福岡県立香椎高校（年間指導計画） P.14～15

連載コーナーで解説 ● 新課程レポート（評定への換算方法は？） P.35

【ポイント】評定への換算方法は、3観点を1:1:1の同じ比率で評価する方法、3観点の重みづけを変える方法に大別される。その上で、各観点の合計点や平均点で評定を出す方法、「A A Bなら5」「A B Aなら4」などと、A B Cの組み合わせによって評定を出す方法、さらに、A B Cの組み合わせではなく、自校の教育目標に照らし合わせていずれかの観点到重みづけをした評点換算表を作成する方法などがある。

「評価観の転換」、「パフォーマンス課題」、「ルーブリック」など、上記の課題に関連する学習評価のキーワードを体系的に理解する

識者解説



新学習指導要領で
求められる学習評価の
本質とその実践の要諦
京都大学大学院 教育学研究科
教授
西岡加名恵

- 1 新学習指導要領における学習評価の考え方 P.18～19
- 2 学習評価の方法の種類 P.19～20
- 3 パフォーマンス課題とは？ その設定のポイント P.20～22
- 4 ルーブリックとは？ その作成手順 P.22～23
- 5 学習評価計画の立て方 P.23

シラバスを改訂し、 全教師に、 学習評価を3観点で行う 意識の浸透を図る

北海道札幌南陵高校

2019年度、授業と評価の改善に着手した北海道札幌南陵高校。教務内規やシラバスの改訂などを通じて、教師の評価観の転換を図ってきた。多面的な評価を行うための環境が整い、20年度からは各教科・科目で、生徒の学習意欲を引き出すための学習評価に挑戦している。

生徒のよい面を見取る
評価の枠組みを整える

札幌市郊外に位置する北海道札幌南陵高校は、1学年4学級の中規模校で、地域の生徒を幅広く受け入れている。そのため、入学者の学力幅は広く、卒業後の進路も

多様だ。

そうした同校に2019年度赴任した柴田健一校長は、新学習指導要領を見据えた授業改善の一層の推進に着手した。課題は、主体的・対話的で深い学びの実現や、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の充実を図ることだっ

たと、柴田校長は振り返る。

「本校の生徒に必要なのは基礎学力の定着であり、その課題に対して、教師は知識・技能の育成を強化する指導を行っていました。そして、目標を達成できない生徒に対して、厳しく指導する場面が少なからずありました。しかし、そうした指導だけでは、生徒は学習に前向きにはなれません。そこで、生徒の基礎学力の定着状況を把握しつつ、学力を多面的に捉え、そのよい点を評価して生徒の学習意欲を高めるという意識を、先生方に浸透させたいと考えました」

柴田校長は、教師が評価観を転換できるように、学習評価の枠組みを整えた。まず、学校経営シラバスを策定し、学校教育目標を踏まえて、育成を目指す生徒像や学校経営方針を示し、評価規準となる目標を明確化した。続いて、定期考査の結果に偏った評定を変えるため、教務内規を改訂した。特に留意したのは、成績不振者に対する指導だ。従来は、仮評定を1に定める際の根拠が明確化されていなかった。

そこで、新しい内規では、学習評価は観点別に行うことを明記し、仮評定1の場合は、観点別評価に基づいた理由書を成績単票とともに、校長に提出することを義務づけた。

「評定がどのような評価に基づいて判定され、今後の指導にどのような見通しを持っているのかを、学校として説明できる体制を整え、形式的な運用にとどまっていた観点別評価を充実させたいと考えました」（柴田校長）

シラバスや授業アンケートを、
授業改善につながる形式に

観点別評価を充実させるため、シラバスも改訂した。シラバスの項目に観点別評価はあったが、そこで説明されている内容は、教科・科目によって異なっていた。そこで、観点ごとに評価対象と、それぞれの評価規準を示すこととした。

教師による学校評価アンケートや生徒への授業アンケートの項目、それらの実施方法も変え

た。教師による学校評価アンケートは、年度末に加え、前期末に中間評価を実施し、自身の指導を振り返る機会を増やした。生徒への授業アンケートは、授業の参加度や理解度といった自己評価の項目に、「シラバスに基づいた授業だった」「教え合いや学び合いの機会があった」など、授業の進め方に関



校長
柴田健一
しばた・けんいち
教職歴36年。同校に赴任して3年目。



進路指導部長
佐藤恭子
さとう・きょうこ
教職歴21年。同校に赴任して10年目。音楽科。



3学年主任
戸枝亮寛
とえだ・あきひろ
教職歴17年。同校に赴任して10年目。数学科。

学校概要

設立 1980(昭和55)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約130人
2021年度進路実績(現役のみ) 4年制大は、札幌学院大、北星学園大、北海道医療大、北海道情報大、北海道文教大、東海大などに延べ36人が合格。短大・専門学校進学67人。就職42人。

する項目を加えて、教科ごとに回答する形式にし、各教科が授業の改善点を把握できるようにした。20年度の1学年からは、「基礎力診断テスト」(*1)の成績による表彰制度を導入。GTZ(*2)がBゾーン以上の生徒を優秀賞として、3段階以上アップした生徒を躍進賞として表彰した。

「基礎力診断テスト」は、1・2学年は年3回、3学年は年2回実施していますが、以前の活用は、GTZを基にした学力下位層の把握と対策にとどまっていました。それを、学力上位層を表彰して評価するとともに、GTZ自体が低くても、成績を伸ばした生徒も表彰することで、教師が生徒の頑張りを認める多面的評価を意識できるようにしました(柴田校長)

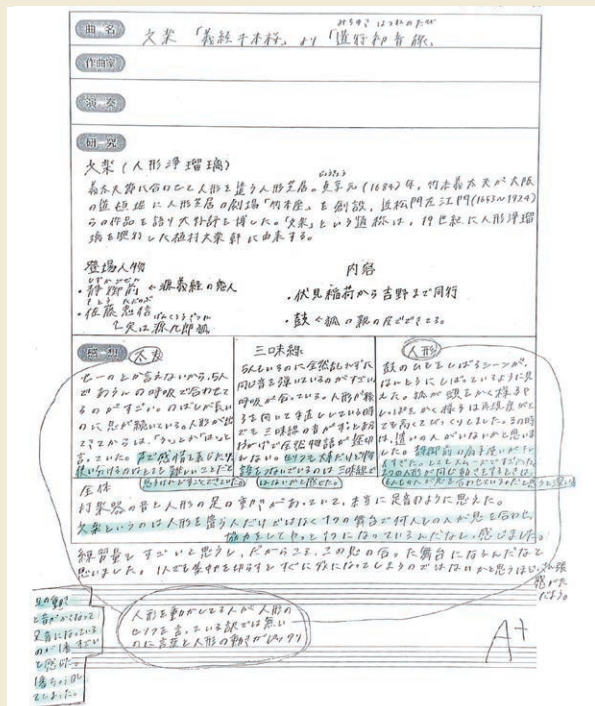
レポートなどの成果物を3観点で評価する音楽の授業

各教科・科目では、授業改善と学習評価の工夫を進めている。進路指導部長の佐藤恭子先生は、以前から担当の音楽科で観

別評価を試行してきた。評価で重視しているのは、生徒の言語表現だ。授業では、歌唱・演奏のスキルや表現力の向上と同様に、音楽の鑑賞力や言語表現力を含めた感性、知識、創造力、音楽を愛する心の育成に力を入れている。そのため、評価も、生徒が理解したことや感じたことを言語化した成果物を基に行っている。

例えば、「鑑賞」では、生徒はオーケストラや歌曲、ミュージカル、文楽などの楽曲を聴き、佐藤先生から楽曲の特徴などの解説を受けた後、レポート(図1)を作成する。「鑑賞」だが、教師の解説以上に、独自に感じ取った点や、考えながら聴いていたことが分かる感想・気づきが書かれていれば、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について加点する。加えて、批判的・分析的視点が盛り込まれていれば、「思考・判断・表現」の

図1 音楽科 3学年「文楽に親しもう」のレポート



マーカーが引かれた部分が、生徒が独自に感じ取れている点として、佐藤先生が評価した箇所。 ※学校資料をそのまま掲載。

*1 ベネッセのアセスメント「進路マップ」の1つで、義務教育範囲も含めた基礎学力を測るマーク式テスト。 *2 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」までの15段階で評価される。基礎力診断テストでは、そのうち「A2」～「D3」で評価される。

図3 数学科 3学年「数学Ⅲ」シラバス(抜粋)

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ		単位数	5
学科	普通科	学年	3	コース	総合	進学 必修 選択
使用教科書	数学Ⅲ Standard		(出版社名) 東京書籍			
副教材等	WIDE 数学Ⅲ					

1 学習の目標

- ①学びに向かう力、人間性等について
 - ・課題に対して積極的かつ粘り強く取り組む姿勢を身につける。
 - ・教え合いの中で理解の深化を図る。
 - ・計画的かつ継続的な学習習慣を身につける。
- ②知識・技能について
 - ・数学的な用語や定義を理解する。
 - ・基本的な計算方法を習熟する。
- ③思考力・判断力・表現力等について
 - ・発展的な課題に対して、既知の知識との相違点を見つけ、関連づけることができる。
 - ・場合分けの必要性を理解し、適当な処理ができる。
 - ・抽象的な課題に対して、思考実験を行い、規則性を見いだすことができる。

2 学習の進め方

- (1) 講義形式の授業を基本とします。
- (2) 毎週、課題を出します。週末を利用して家庭学習をすること。
- (3) 課題の中から小テストを行います。

3 評価の観点

	授業姿勢	提出物	小テスト	考査	割合	
a: 主体的に学習に取り組む態度	10	10	10		30	
b: 知識及び技能			10	40	50	
c: 思考力・判断力・表現力等				20	20	
	割合	10	10	20	60	100

4 確認事項(必要な教材・道具、授業に臨む姿勢等)

- (1) 教科書・ノート・ワークを毎時間用意すること。
- (2) ノートは他の科目と分けて使用すること。(ルーズリーフは可)
- (3) 鉛筆の他に2色のペンを利用すること。(例:赤と青)
- (4) 提出物は期日を守る。

5 学習の計画(どのような内容をどの時期に学ぶか)

時間	学習内容	主な観点	時間	学習内容	主な観点
1	オリエンテーション、授業態勢、絶対値	a	64	前期期末考査返却	a
2	複素数の極と変、実数値、共役の性質	ab	65	標準の方程式	ab
3	複素数と極形式	ab	66	法線の方程式	ab
4	原点を中心とする回転	ab	67	平均値の定理	ab
5	ド・モアールの定理	ab	68	関数の増減、極大・極小	ab
6	ド・モアールの定理の利用	ab	69	関数の増減、極大・極小②	ab
7	複素数と図形①	ab	70	関数の最大・最小	ab
8	複素数と図形②	ab	71	関数のグラフ①	ab
9	複素数と図形③	ab	72	関数のグラフ②	ab
10	2次曲線(放物線)	ab	73	第2次導関数と極値	ab
11	2次曲線(楕円)	ab	74	方程式と不等式への応用	ab
12	2次曲線(楕円②)	ab	75	速度・加速度	bc
13	2次曲線(双曲線)	ab	76	近傍値	bc
14	2次曲線(双曲線②)	ab	77	不定積分(基本)	ab
15	2次曲線の平行移動	ab	78	積分(基本)	ab
16	2次曲線と直線	ab	79	部分積分	ab
17	漸近変数表示	bc	80	分数関数の積分	ab
18	サイクロイド	bc	81	定積分(基本)	ab
19	極座標と極方程式	ab	82	置換積分	ab
20	極座標と極方程式②	ab	83	偶関数・奇関数の積分	ab
21	分数関数	ab	84	積分法②	ab

数学科のシラバスでは、資質・能力の3つの柱を学習の目標として示し、観点別に評価対象の配点を記載。さらに、学習の計画には、各授業での学習内容と、その授業で評価する主な観点を示している。

※学校資料を抜粋して掲載。

む時間としている。1人で問題を解く生徒もいるが、生徒同士で教え合う中で、できなかった問題が解けるようになったり、他者に教えることで理解がさらに深まったりする体験を積み重ねるうちに、生徒はおのずと学習意欲を高めていくという。

「問題演習の間、私は教室中を回って、頑張っている生徒に声をかけたり、生徒のよい発言を拾って全体に広めたりしています。教師が生徒の言動を積極的に評価す

ることで学習意欲を高める様子が見られますが、私が見えていないところでも、生徒同士が学び合い、認め合う中で、自己肯定感を高めているのを感じます」(戸枝先生)

授業では、生徒の学習意欲を高める指導と評価の実践こそが重要だと、柴田校長は強調する。

「大切なのは、生徒が前向きに学習に取り組むようになることであり、観点別評価はそのための手段の1つだと考えています。生徒を多面的に見取れているか、思考

力や主体性などを伸ばすには、どのような工夫が必要なのか、常日自分の指導を問い続けることこそが、学習評価の充実に向けて重要な点ではないでしょうか」

基礎学力との相関を測り、評価観の転換を後押ししたい

今後、観点別評価の結果とGIZの相関を分析し、観点別評価の意義を明確にすることで、教師が前向きに授業改善に取り組む後押

しをした」と、柴田校長は言う。「どのような評価を受けた生徒が、GIZを上げているのか、その相関を明らかにすることが、既に観点別評価に取り組んでいる教師を勇気づけることにもなると考えています」

ICTを活用した授業実践と、評価の工夫も課題に挙げる。今後、生徒1人に1台ずつ配備されるタブレット端末を活用して、どのような授業を行うとよいのか、それが評価にどのような影響を及ぼすのか、22年度中に研修を積み重ねながら検討する予定だ。

「新学習指導要領の実施に向けて、一步一步、準備を進めてきました。多面的評価の必要性も浸透してきましたが、まだ全教師が同じ意識を持つていないわけではありません。生徒の学習意欲や自己肯定感を高めるための授業改善も、これからは本番です。今後は、教師同士が学習評価のあり方について議論をする機会を一層設けるなど、教師一人ひとりが自身の評価の妥当性を検討できる環境を整えたいと考えています」(柴田校長)

生徒や外部の視点も 入った形成的評価が、 生徒の学びへの意欲を かき立てる

宮城県仙台第三高校

「生徒主体」「知的好奇心の喚起」「考える仕かけ」を授業設計の3観点として設定し、授業改善、学習評価の実践を進めてきた宮城県仙台第三高校。全教師が所属する研究組織で、各教科が行う取り組みを共有し、新たな学びと評価を教師と生徒に定着させてきた。今、その成果を整理し、新学習指導要領に対応した学習評価のあり方を構築しようとしている。

全教師が所属する研究組織で、教科を超えて取り組みを共有

宮城県仙台第三高校は、SSHの指定を受けた2010年度から、課題探究の充実とともに、授業改善と学習評価の実践を一体化させて進めてきた。「生徒主体」「知的

好奇心の喚起」「考える仕かけ」を授業設計の3観点とし、主体的・対話的で深い学びの具現化を追求。15年度には、全教師が所属する「SSH―授業づくり研究センター」(以下、SJセンター)を設置し、教科を超え、協働して改革に取り組む体制を整えた(＊1)。18年度

からは、学校教育目標の改定、育成を目指す資質・能力の設定などを、全教師参加の議論により推進し、新学習指導要領を見据えた学校づくりを図っている。それらの改革の成果は、21年度「全国高等学校総合文化祭」の化学部門最優秀賞の受賞を始め、学内外で活躍する生徒の姿に表れている。主幹教諭の伊東秀輝先生は、こう語る。

「本校では、独自に設定した授業設計の3観点を基に、授業のあり方を考え、教科学習での探究的な学びの実施、探究学習の充実、課題の設定の工夫、ルーブリックによる生徒の自己評価・相互評価など、新たな取り組みに挑戦し、それらの実践を校内で共有してきました。新学習指導要領に基づく授業や学習評価も、これまでの実践を土台に組み立てようとしています」

章末問題を利用した
パフォーマンス課題を実施

現在の学習評価の実践について、2つの教科を例に見ていく。数学科では、各章の終了時にパ

フォーマンス課題を実施し、「思考・判断・表現」の到達度を測っている。グループで章末問題に取り組んだ後、1人ずつ割りあてられた問題の解法を発表するという課題で、教師は発表を撮影した動画を見て、ルーブリックによる評価を行う(図1)。教務部長の穀田浩美先生は、次のように話す。

「数学科では、「反転授業を実施し、生徒が『思考・判断・表現』をする活動に重点を置いていきます。それらの到達度を測るとともに、大学入試で求められる記述力を育成するために、1問にじっくり取り組み、解法を記述させるパフォーマンス課題を行いたいと考えました。授業中にその時間を捻出する方法に悩みましたが、他教科でのICTの活用などを参考に、1時間の授業でできる方法を考え、実施に踏み切りました」

課題後には、生徒は振り返りシートの記入をする。「空間図形を複数の観点から考えられ、問題を解く楽しさを感じた」といった感想に加え、「最も分かりやすく、簡素な方法をすぐに思い出すこと

*1 『VIEW21』高校版 2016年10月号 P.10～14 参照。



菅原 佑介
理数科部長
すがわら・ゆうすけ
教職歴17年。同校に赴任して8年目。理科（化学）。



前田 宏美
理数科部長
まえだ・ひろみ
教職歴18年。同校に赴任して4年目。英語科。



田中 恵太
理数科部長
たなか・けいた
教職歴18年。同校に赴任して11年目。理科（生物）。



渡部 敦
センター長
わたなべ・あつし
教職歴22年。同校に赴任して7年目。地理歴史公民科。



伊東 秀輝
研究センター副センター長
いとう・ひでき
教職歴25年。同校に赴任して14年目。国語科。



榎田 浩美
主幹教諭・教務部長
えのくた・ひろみ
教職歴27年。同校に赴任して4年目。数学科。



佐々木 克敬
校長
ささき・かつり
教職歴33年。同校に赴任して3年目。

学校概要
設立 1963（昭和38）年
形態 全日制/普通科・理数科/共学
生徒数 1学年約320人
2021年度入試合格実績（現役のみ）
国立大は、北海道大、東北大、宮城教育大、山形大、筑波大、千葉大、東京農工大、横浜国立大、九州大などに212人が合格。私立大は、東北医科薬科大、東北学院大、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに延べ427人が合格。

SSH2期目の現在は、普通科・理数科ともに学校設定科目を設置して、課題研究を実施している。理数科の2年次の「SS課題研究I」では、35時間を1単元として年間指導計画を立てている（P.12図2）。生徒は、数人から成る班に所属し、前期は文化祭でのポスター発表、後期は校内の分野別

形成的評価を重視し、生徒のより深い探究を支援

ができるよう、努力したい」「他者に伝わるように、表現力の向上を目指したい」などと、自身の学習の見通しを立てる生徒も多い。そうした振り返りから、生徒の1年間分の変容を見取り、「関心・意欲・態度」の評価の資料としている。

発表会を目標に、自分たちで設定した課題に取り組み。評価は、各班の探究担当教師が中心となっていく。毎週班ごとに提出するノートや、各自の取り組みを見取り、ポスターや分野別発表会の内容をルーブリックを使って評価する。理数科部の菅原佑介先生は、形成

的評価を大事にしていると語る。「探究学習の目的を考えれば、成果発表に向けて、よい点を褒め、不十分な点を指摘する形成的評価こそが、生徒をより深い探究に導くために重要です。成果物の総括的評価も、ルーブリックを生徒に事前に提示していますから、教師

図1 数学科 章末問題を利用したパフォーマンス課題 実践例

実施時期 各章の終了時 **問題** 章末問題 **時間数** 解答1時間、発表1時間
方法 ① 生徒は事前に章末問題に取り組み、分からない点などを把握しておく。
② 1時間目/4人グループで章末問題に取り組み、1人ずつ解答を作成する。
③ 2時間目/1人ずつ、その場で指定された問題の解答を3分間で解説する。
その際、発表者の顔と解法・解答を撮影（撮影者は、発表者と同じグループの生徒）。
④ 解説終了後、発表者は自己評価を行う。同じグループの3人も発表の評価を行う。
⑤ ③④をほかの3人も行う。
ルーブリック 4項目を計10点満点で評価。生徒・教師ともに同じルーブリックを使用。
(例)「数学I」の「空間図形の計量」のパフォーマンス課題のルーブリック

		3点	2点	1点
3点	数学的表現	自分の考えを数学用語・数学記号を用いて説明している。また、その表現方法が簡潔明瞭である。	自分の考えを数学用語・数学記号を用いて説明している。	自分の考えを数学用語・数学記号を用いて説明していない。または、数学用語・数学記号を用いてはいるが、間違っている。
3点	論理的思考	「図形と計量」の「三角比」の単元で学習した内容を用いて、根拠を明らかにしながら一貫性のある説明をしている。	「図形と計量」の「三角比」の単元で学習した内容を用いて説明しているが、根拠の説明が曖昧である。	「図形と計量」の「三角比」の単元で学習した内容を用いずに説明している。または、「三角比」を用いているが、根拠が間違っている。
2点	答案作成	日本語を適切に使い、論証の流れが読みやすい。図表を用いた分かりやすい説明になっている。	日本語が不自然であり、数式が羅列されているだけで、説明不足である。レイアウトが見にくい。	
2点	プレゼンテーション力	答案を棒読みするだけでなく、他者に対して分かりやすい言葉で適切に説明している。	答案の棒読みが目立ち、他者に対して分かりやすい言葉で説明することがあまりできていない。	

※学校資料を基に編集部で作成。

図2 理数科 2年次「SS課題研究I」の活動内容・評価方法、他科目との関連

- ◎概要 生徒数人で班を組み、研究対象を決め、先行研究や対象の観察を行った上で、目的を設定。仮説を立て、材料と方法の検討、条件制御をした上で実験等を行い、結果の整理・考察を繰り返す。前期は文化祭でのポスター発表、後期は分野別発表会で成果を発表する。
- ◎評価対象（指導要録に記載）【前期】 毎時提出するノート（班）、取り組み（個人）、ポスターのでき栄え（班）、ポスターの口頭発表（個人）【後期】 前期の評価、毎時提出するノート（班）、取り組み（個人）、スライドのでき栄え（班）、口頭発表（個人）。外部発表への参加は加点。
- （形成的評価） 毎時の担当教師とのやり取り、文化祭・外部発表などでの聴衆からのフィードバック
- ◎主な関連科目 「SS 英語表現Ⅱ」 特に理数分野・科学に関して、自分の考えや必要な情報を英語で発信できる実践力をつける。「SS プレゼンテーションスキル」日本語・英語による口頭発表、ポスター発表のためのプレゼンテーション能力の向上、言語能力獲得への資質や態度を育成する。
- ◎年間計画（2021年度／簡略化して掲載）

回	内容	評価対象	
1	オリエンテーション		
2～4	実験ターム①	ノート(班)、取り組み(個人)	
前期	三高探究の日／スライドで研究概要を発表(3分間)	振り返りシート(個人)、聴衆の生徒による評価(班)	
	5～11	実験ターム①	ノート(班)、取り組み(個人)
	夏季休業(ポスターの作成)		
	12	実験ターム①	ノート(班)、取り組み(個人)
13～16	ポスター発表(個人)／教師3人の前で口頭発表	ポスターのでき栄え(班)、口頭発表(個人)	
文化祭／ポスター発表(班)			
後期	17	実験ターム②・課題の再設定	ノート(班)、取り組み(個人)
	GSフェスタ／ポスター発表		
	18～23	実験ターム②	ノート(班)、取り組み(個人)
	冬季休業(スライドの作成)		
	24～27	オンライン発表会(班)／マレーシアのマラヤ大学の学生の前で英語で発表	振り返りシート(個人)
	28～30	分野別発表会(班)／1年生の前で口頭発表	スライドのでき栄え(班)、口頭発表(個人)、1年生による評価(班)
31～35	実験ターム②	ノート(班)、取り組み(個人)	

6月「SS英語表現Ⅱ」パフォーマンス課題
課題研究の概要を、関心の低い人に英語で説明するという設定で発表。説明の補助として、英語のスライドも作成。2分間で発表し、その場で出される英語の質問に答える(知識・技能、思考・判断・表現の評価)

12月「SS英語表現Ⅱ」パフォーマンス課題
オンライン発表会で発表する内容を発表。質疑応答も行う(知識・技能、思考・判断・表現の評価)

「オンライン発表会」のフィードバック
「Google サイト(*2)」に「発表スライド」と「共有ドキュメント」を貼っておき、オンライン発表会後に聴衆から英語での感想や質問を書いてもらう。発表者(生徒)は、1週間以内に英語で返信する(主体的に学習に取り組む態度の評価)

課題研究は3年次の「SS 課題研究Ⅱ」に引き継がれ、5月の「三高探究の日」に、班ごとに課題研究の成果をポスターにまとめて口頭発表する。そして、前期末までに個人で日本語と英語の論文を作成する。

※学校資料を基に編集部で作成。

と生徒、相互が納得する形で評価できています」

「SS 課題研究Ⅰ」は、「SS 英語表現Ⅱ」や「SS プレゼンテーションスキル」とカリキュラムを連携させ、評価も密接なかわり

を持たせている。例えば、「SS 英語表現Ⅱ」では、1月に実施する海外大学とのオンライン発表会の前に、本番と同じ内容を発表するパフォーマンス課題を行う。英語の知識・技能の評価のほか、教師

は、「相手が内容を理解できるか」という観点でフィードバックし、本番を想定した質疑応答も行う。生徒は、その評価を踏まえて発表内容を見直し、本番に臨む。理科

目の関係を次のように説明する。

「生徒は、各科目で学んだことを統合させてポスターや発表の内容を作り上げていきます。その過程で、3科目それぞれの専門性にかかわる部分を評価し、その結果を踏まえて適切に支援することで、学びがさらに深まっています。そうした学びのサイクルが、複数の科目がかかわることにより重層的に回り、生徒を成長させていると感じています」

ほかの生徒や聴衆の反応が 生徒を次の学びに向かわせる

生徒主体の学びに向けて、同校が特に重視するのは、ほかの生徒や聴衆からの評価だ。例えば、英語科では、生徒が探究をテーマに各7分程度のスピーチを行い、聞き手の生徒がコメントを書き、ベストスピーカーを投票で決める活動を行っている。ベストスピーカーに選ばれた生徒に、教師が「すごいね」と声をかけたところ、「完璧なスピーチにしたいので、修正してから原稿を提出してもいいですか」

*2 ウェブサイトを無料で作成することができるツール。

図3 学習評価に関する校内研修とねらい

◎校内研修は、6月、9月、12月に実施。全教師が参加。

2020.9 文部科学省の担当者を講師に、観点別学習状況の評価の具体と、実施にあたっての留意点に関するオンライン研修を実施。

▶大学入試を基準としている教師の評価観の転換を促す。

2021.6 国立教育政策研究所の担当者を講師に、観点別学習状況の評価の実践に関するオンライン研修を実施。▶教師に3観点評価への意識づけを図る。

2021.9 各教科で単元の評価計画を作成するグループワークを実施(下図は研修の資料)。現行の4観点評価から3観点評価にするための授業づくりを検討。▶課題や疑問点を洗い出すとともに、教科内で評価規準の目線合わせを行う。

2021.12 新学習指導要領を見据えた研究授業を全クラスで実施。▶3観点評価を踏まえた授業展開ができるのかを検証。年度末までに、新しい教科書での指導案と学習評価の計画を作成する。

評価計画 地理歴史 歴史総合		国民国家と明治維新			
第2章【9時間】					
評価規準	・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなど、政治変遷の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察し表現して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し表現して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。				
学習テーマ	評価の観点			評価方法	評価規準
	知識技能	思考判断表現	主体的関与		
市民革命：アメリカ独立革命とフランス革命を比較	○			ワークシート 定規検査	合衆国憲法や人権宣言の史料を読み取り、市民革命後の社会がどのように変化してきたかを理解している。
民族国家の成立 ● ヨーロッパではなぜナポレオンがフランスを統一したのかを考察		○		ワークシート	民族国家が成立した時代背景やその影響を多角的、多角的に考察し表現している。
民族国家の成立 ● ヨーロッパ諸国はなぜ統一がうまくいかなかったのかを考察			○	ワークシート	オスマン帝国を軸として、アジア諸国の民族国家形成が阻まれた理由を多角的、多角的に考察し、表現して適切に主張を提示し、他の諸国の発展と影響を説明しよう

※学校資料を基に編集部で作成。

と、自ら改善を申し出たという。「SS課題研究Ⅰ」では、海外大学とのオンライン発表会後、共有サイトに、聴衆から意見や質問を書き込んでもらった。すると、自分の研究に真摯に向き合ってくれた外国人に研究の意図がしっかりと伝わるようにと、生徒は必死に英語を駆使して返信していた。英語科の前田宏美先生は、評価における教師の役割をこう指摘する。「自分の発信に対する、ほかの生

徒や聴衆の率直な言葉に、生徒は動かされるのでしよう。学習を動的で具体的なフィードバックができるかが重要だと考えています。そして、本校の生徒は応用力があるため、他者のよい例を見て、生徒は主体的に取り組みます。教師はそのような活動を生み出し、ファシリテートします。探究学習で外部の発表会などの参加を奨励しているのも、全国のよい探究モデル

を見たり、多様な他者から評価を受けたたりすることがねらいです」

教科内で議論し、評価方法と評価規準をすり合わせる

新学習指導要領に基づく学習評価に関しては、20年度から校内研修で共通理解を深めてきた(図3)。力を入れたのは、教師の評価観の転換だ。同校には難関国立大学志望者が多いため、それらの大学の合格ラインを基準に評価する意識が教師間に浸透していた。それを、教科・科目で設定した学習目標に準拠し、その到達度によって評価する意識へと転換することが、教科内で評価方法や評価規準をすり合わせるためのスタートラインになると考えた。

今年9月の研修では、各教科で「評価計画」(図3)を作成するグループワークを行い、観点別学習状況の評価の意義を共有。12月には、同評価を踏まえた授業展開を検証する研究授業を全クラスで実施し、その成果を踏まえて、年度末までに評価方法を決定する予定だ。

また、評定の算出方法は、教務部が提示した考え方の例を基に、教科内で検討中だ。S J センター長の渡部敦先生は、こう説明する。「評価方法は、教科間で共通する部分もあれば、教科特性に応じて異なる部分もあります。9月の研修では、教務部が単元の評価計画の例を提示し、教科内で評価方法や評価規準の目線合わせを行うことに重点を置きました。そうすることによって、教科特性に応じた公平な評価につながると考えます」

今後、パフォーマンス課題が、全教科・科目で実施されるようになれば、生徒の負担を考え、教科間での量や時期の調整が必要になる。そして、定期考査のあり方を検討することも考えなければならぬ。と、佐々木克敬校長は語る。「パフォーマンス課題を適切に行えば、その積み重ねで測りたい力の到達度を評価できます。そうすると、定期考査の位置づけも見直す必要があるでしょう。前例にとらわれず、これまでの実践と生徒の実態を踏まえて、本校の学びをさらに進化させていきます」

日々の授業での 生徒の様子を 最大限評価し、 教育目標の実現を目指す

福岡県立香椎高校

2015年度から、全教科・科目において観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）を実施している福岡県立香椎高校。

22年度より実施される新学習指導要領を見据え、

19年度からは、3観点による観点別評価に取り組んでいる。

定期考査以外の学習活動にも重きを置き、

積極的に見取り、生徒を次の学びに向かわせる

同校の学習評価の実践について聞いた。

年間指導計画で 観点別評価の全体像を示す

福岡県立香椎高校は、2015年度から、全教科・科目において観点別評価を実施している。「加

点法」の考え方で同評価を行い、最終的には評定に結実させてい

る。具体的には、定期考査の配点を100点、定期考査以外の学習活動の配点を100点とし、合計200点満点（3学期はそれぞれ配点50点とし、100点満点）で各学期の評価を行う。定期考査以外の学習活動とは、主に生徒が授業中に行う学習活動を指し、そこ

で生徒が発揮した資質・能力を主に評価し、点数として加算する。

15年度に教務部長として観点別評価の実施に尽力し、今年度から教頭として勤務する松尾勝之先生は、当時の思いを次のように振り返る。

「これまで私たちは、定期考査の結果を重視し、学習過程における活動や成果にはあまり目を向けていませんでした。しかし、そうした学校による生徒の評価と、職場や地域で活躍できているかどうかという社会での評価との間にずれを感じる教師は、私を含めて少なくなかったのではないでしょう。定期考査の実施時点での学力を評価することに加えて、生徒の日々の学習活動を評価することで、社会による生徒の評価に近づくことができ、また、定期考査の結果が振るわない生徒に対してもよいところを見つけて評価することで、生徒の学びの意欲を高めることができると考えました」

現在の同校の観点別評価は、各教科で科目別に作成する年間指導計画（**図1**）に基づいて行われる。

年間指導計画では、まず、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点それぞれについて、何ができるようになることを目指しているのかを「評価規準」として定める（**図1**の①）。

観点別評価を評定に総括する際の3観点の重みづけは、それぞれ30〜40%の範囲内で各教科で決定する（**図1**の②）。そして、各学期、3観点それぞれをどのような学習活動を通じて、どんな割合で評価するかを、各教科で定める（**図1**の③）。

さらに、3観点の評価規準について、それぞれの到達度を、「評価基準」として単元、指導内容ごとに定める（**図1**の④）。また、同校は、読解力などの教科横断的に求められる資質・能力の育成や、そのために必要な主体的・対話的で深い学びの実現などを、教科・科目共通の目標として掲げ、その達成に向けてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善やICT活用を推進しており、各単元でどのような指導上の配慮や工夫

を行うおとししているのかも、年間指導計画に記載する(図1の⑤)。生徒主体の活動を中心とした授業展開にすることで、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価しやすくしている。



教頭
松尾勝之
まつお・かつゆき
教職歴27年。同校に赴任して通算14年目。数学科。

教務部長
伊原豊
いはら・ゆたか
教職歴26年。同校に赴任して8年目。地理歴史・公民科。

教務課長
西岡賢吾
にしおか・けんこ
教職歴10年。同校に赴任して5年目。数学科。

学校概要

設立 1921(大正10)年
形態 全日制/普通科・フッショナルデザイナー科
生徒数 1学年約320人
2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、九州工業大、福岡教育大、熊本大、大分大、神戸市外国語大、北九州市立大、福岡女子大などに73人が合格。私立大は、芝浦工業大、東洋大、立命館大、関西大、関西学院大、西南学院大などに延べ749人が合格。

日々の授業の中で生徒を丁寧に見取る

定期考査に加えて、パフォーマンス課題や小テスト、振り返りシート、授業態度などを通じて生徒を多面的に見取る、同校の学習評価は、授業のあり方にも影響を与えている。

21年度、同校の全教科・科目が、授業態度を「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象とし、同観点の配点の50%を充てている。教師は、グループワークなどで生徒を見取っていくことになるが、1コマの授業内で40人の生徒全員を見取るのは容易ではない。松尾教頭は、全員ではなく、印象に残った生徒の簡単な言動の記録だけを残しておけばよいと説明する。

「座席表型の日々の評価表(P.16図2)を使い、ルーブリックで示した基準を超えた生徒にA(基準に満たなければC)をつけ、その理由を簡単にメモしておきます。それ以外の生徒の評価は、通常の基準を満たしているとしてBとします。教師の評価者としての

視線をAまたはCの評価となる生徒の発見に絞ることで、教師が授業をしっかりや進めながら、『主体的に学習に取り組む態度』を評価できるようにしたのです。また、

面談などで、生徒に『君は、この日の授業でこんな発言をしていたからAにしたんだよ』と、過去の記録に基づいて評価の結果を説明すると、生徒は、『授業での努力

図1 年間指導計画

令和3年度年間指導計画										通し番号 (6-13)																																																																																																										
教科	科目	単位数	指導学年	指導教科	職	氏名	印																																																																																																													
数学	数学ⅡB	6	2	数Ⅱ(理)	教諭																																																																																																															
教科書(出版社):改訂版高等学校数学ⅡB(数研出版)		副教材(出版社):4プロセス 数学Ⅱ+B(数研出版)																																																																																																																		
1	生きて働く「知識・技能」の習得(知)	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成(慧)				「主体的に学習に取り組む態度」の育成(慧)																																																																																																														
	【何を理解しているか、何ができるか】	【理解していること、できることをどのように使うか】				【どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか】																																																																																																														
2	評価規準	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的に発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。				数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。																																																																																																														
	年間指導目標	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、日常の事象等を数学的な表現を用いて簡潔・明確・的確に表現したり、数学的な表現を解釈したり、互いに自分の考えを表現し伝えあったりする態度の育成を図る。				主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的・協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。																																																																																																														
3	遠慮教育の観点	生徒が互いに認め合う姿勢を育むとともに、理解できたという経験から自信、分かってもらえたという経験から自己存在感を感じるように指導する。																																																																																																																		
	観点	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資料</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>合計(点)</th> <th>比率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期考査</td> <td>150</td> <td>0</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>200</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>知能・技能</td> <td>60</td> <td>60</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>150</td> <td>30.0</td> </tr> <tr> <td>各学期</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>130</td> <td>26.0</td> </tr> <tr> <td>態度</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>35</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>35</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>各学期</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>20</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>50</td> <td>10</td> <td>435</td> <td>87.0</td> </tr> <tr> <td>各学期</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>50</td> <td>35</td> <td>15</td> <td>200</td> <td>40.0</td> </tr> </tbody> </table>				資料	a	b	c	d	e	合計(点)	比率(%)	定期考査	150	0	50	0	0	200	40.0	知能・技能	60	60	30	0	0	150	30.0	各学期	40	40	20	20	10	130	26.0	態度	0	0	35	0	0	35	7.0	各学期	0	0	15	5	0	20	4.0	合計	250	60	65	50	10	435	87.0	各学期	100	100	50	35	15	200	40.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方法</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(知)</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(慧)</td> <td>20</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(情)</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(意)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>(行)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(体)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>						方法	a	b	c	d	e	(知)	30	0	10			(慧)	20	10				(情)	0	7	0	0	0	(意)	0	0	0	0	15	(行)	0	0	0	0	0	(体)	0	0	0	0
資料	a	b	c	d	e	合計(点)	比率(%)																																																																																																													
定期考査	150	0	50	0	0	200	40.0																																																																																																													
知能・技能	60	60	30	0	0	150	30.0																																																																																																													
各学期	40	40	20	20	10	130	26.0																																																																																																													
態度	0	0	35	0	0	35	7.0																																																																																																													
各学期	0	0	15	5	0	20	4.0																																																																																																													
合計	250	60	65	50	10	435	87.0																																																																																																													
各学期	100	100	50	35	15	200	40.0																																																																																																													
方法	a	b	c	d	e																																																																																																															
(知)	30	0	10																																																																																																																	
(慧)	20	10																																																																																																																		
(情)	0	7	0	0	0																																																																																																															
(意)	0	0	0	0	15																																																																																																															
(行)	0	0	0	0	0																																																																																																															
(体)	0	0	0	0	0																																																																																																															
4	指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 質・能力(観点)をバランスよく育むこと ● 基礎力・基盤力(基礎)をしっかりと育成すること ● 基礎力・基盤力(基礎)を育成する上で、基礎力・基盤力(基礎)が育たない状態を避けること ● 基礎力・基盤力(基礎)が育たない状態を避けるために、基礎力・基盤力(基礎)を育成する上で、基礎力・基盤力(基礎)を育成すること 																																																																																																																		
	学 考 査	<p>単元及び指導内容</p> <p>中間考査 (B) 図形と方程式 (5)点と直線 (内) 軌跡と領域 (B) 第1章 (1)評語)内と直線の図形を考察し、方程式を用いて問題を解く</p> <p>1学期 期末考査 (B) 図形と方程式 (5)点と直線 (内) 軌跡と領域 (B) 第1章 (1)評語)内と直線の図形を考察し、方程式を用いて問題を解く</p>				<p>観点</p> <p>(知) 図形を用いて、平面上の線分を分ける点、分ける点の位置などを表すことができる。ベクトルの演算やその関係性を理解することができる。</p> <p>(慧) 内や直線の方程式を使い、図形のもつ性質を理解する。</p> <p>(情) 図形と方程式のもつ性質を使い、様々な問題を方程式を使って論理的に考察しようとしている。</p>				<p>反省及び改善等 (反省を書いた課題を見直し、その解決に向けた改善策を記入する)</p>																																																																																																										

※学校資料をそのまま掲載。

図2 座席表型の日々の評価表

※学校資料をそのまま掲載。

をちゃんと見てもらえていて、うれしいです』とさらに授業に集中するようになります」(松尾教頭)

日々の観点別評価の結果は表計算ソフトに入力し、点数化する。入力するセルにはあらかじめすべてBを入力しておき、A、Cの結果となった生徒の該当のセルのみ、評価の結果を変更することで作業を簡略化している。

教務課長で数学科の西岡賢吾先生は、自身の授業内で「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する工夫を、次

のように説明する。

「数学の授業では、身近な事象を考察したり、会話文から必要な情報を抜き出して立式したりするなど、暗記した定理・公式にあてはめるだけでは解けない問題を出すようにしています。そうした問題を解く際に見られる生徒のユニークな視点なども座席表型の日々の評価表に記録して、『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の評価につなげていきます。また、授業では毎回、前時の学習内容に関連する例題について、当番の生徒が教師役(スモールティーチャー)になって解説する時間を設けています。その活動も、パフォーマンス課題(図3)として、『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の評価の対象にしています」

教務部長で地理歴史・公民科の伊原豊先生も、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を測るため、授業に多様な活動を取り入れている。

「各単元に、ペアやグループで取り組むパフォーマンス課題を盛

図3 パフォーマンス課題の実践例

科目	実践事例
現代文B	教科書の題材に即した新聞記事や入試の小論文の過去問題の課題文を用いて、400字程度の小論文を書かせたり、その内容をプレゼンテーションさせたりした。
地理B	熱帯林が減少するとどのような影響があるのか、また、減少しないようにするためにはどのような取り組みがあるのかを、グループで考察し、発表させた。
数学I・A	実生活と直結するような事象を題材としたパフォーマンス課題を実施し、生徒の記述から思考力を評価した。また、生徒に練習問題の解答を発表させ、思考力や表現力を評価した。
化学基礎・化学	単元ごとに学習内容を1枚ポートフォリオにまとめさせ、提示したループリックに沿って、思考力などを評価した。

※学校資料を基に編集部で作成。

り込んでいます。最近では、ペアで原子力発電のメリットとデメリットを整理した上で、自分の考えをワークシートに記入し、発表させました。ワークシートはいったん回収し、私が評価をした後、生徒に返却しました。ワークシートにはあらかじめループリックを記載していたので、生徒は私の評価とともにワークシートの記述内容を見直しました。また、地理Bでは、定期考査の振り返りシートを、『主体的に学習に取り組む態度』の評価の資料としています(図4)。

定期考査のポイントを振り返りな

評価の改善には
教師同士の対話が不可欠

現在、同校では、パフォーマンス

ス課題や小テスト、振り返りシート、授業態度といった、定期考査以外の評価対象ごとのABC評価を表計算ソフトに入力し、得点化している。それに定期考査の結果を加えて科目ごとに合計得点を算出し、得点率80%以上は5、65%以上80%未満は4などと評定に換算している。既に観点別評価を実施して7年目となり、観点別評価や評価と一体化した授業のあり方についての理解は校内に浸透しているが、それでもなお、改善の余地が残されているという。

「例えば、数学における『主体的に学習に取り組む態度』の評価では、毎回の授業の振り返りシートの評価点が同観点の配点の約30%を占めます。ただ、『最初はこうだったけれど、今はこうなった』と、学習への取り組みの変化を客観視して記述するのが苦手な生徒もいます。しかし、うまく書けていないから成長がないと言うわけではなく、生徒に話を聞いてみると、数学的な見方や考え方が深まっていることが分かることもあります。生徒の成長を見取る、

より適切な方法を追究する必要があります」(西岡先生)

21年度は、特に「主体的に学習に取り組む態度」について、各教科会で評価標準の明確化に時間をかけているという。「分からない単語や熟語があった時に、自ら調べ、書いたり音読したりを繰り返して覚えようとしている」「自分の理解が不十分なところを解決するために、教師や仲間相談している」などと、「主体的に学習に取り組む態度」の表出を判断でき

る生徒の言動を言語化し、生徒に提示することを目指している。

「評価は、仕組みを作ったら終わりというものではありません。3学期には、観点別評価の年度総括会を行い、今年度の授業と評価は学校教育目標の達成に結びつくものだったのか、大きな視点で話し合います。特に、担当教師数が少ない教科・科目は、その教師の教育観で授業・評価のあり方が決まりがちですから、学校全体で指導と評価について話し合い、その

実態を振り返ることが大切です」(伊原先生)

同校では、昨年度まで、教科によって家庭学習での課題の提出状況を「主体的に学習に取り組む態度」の評価項目に入れていた。しかし、教科会などで「家庭学習に取り組めるかどうかは、家庭の状況によって異なるのではないか」などの声が上ががり、今年度は「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象から外している。

「本校では現在、生徒の自己評価は、評定の対象としていません。生徒の自己評価を軽視しているというわけではなく、教師が、『君は自分で思っている以上にできていますよ』『次はこの点に気をつけて学習してみよう』などと、生徒のよいところを見取り、次の学習に向かわせる声かけの材料として生徒の自己評価を活用しています。今後、生徒一人ひとりの状況に合わせて指導や評価へと変わっていくことでしよう。生徒の学力や気質の変化を見逃さず、評価のあり方も改善し続けたいと思います」(松尾教頭)

図4 定期考査の振り返りワークシート

令和3年度1学期期末考査3年地理B リフレクション(振り返り)シート

- 1 スイスの移牧とはどのような農業か説明しなさい。
- 2 従成栽培とは何か、**熟練**、**出磨期**という言葉を用いて説明しなさい。
- 3 三圃式農業とはどのような農業か説明しなさい。
- 4 近代以降の混合農業で、根菜や牧草を導入した理由を答えよ。
- 5 フィールドロットとは何をどのように飼育しているのか、**濃厚飼料**という言葉を用いて説明しなさい。
- 6 次の表は日本の農業の変遷についてまとめたものである。1～9に該当する語句を答えよ。

戦前	地主制の下、稲作と(1)が中心。戦後、農材の民主化、農業経営の合理化を目指して(2)が行われ、自作農中心の経営へ移行した。1942年の(3)制度は戦後も引き継がれ、米はすべて政府が買い入れることで農家の所得の安定を図った。
1960年代	高度経済成長により、農産物と畜産物の所得格差が広がり若者の就職者が減少、兼業化も進行した。
1970年代	米の消費量が減少したため、食料自給率の増加に対して(4)政策を実施した。
1990年代	1991年、(5)・(6)の輸入自由化。1993年、米の関税による外米(タイ米など)の緊急輸入をきっかけに、1995年(3)制度は廃止(米の市場開放)。1999年には米の関税化開始。
2000年代	2001年、おき、生いだけ、いくき(7)アジアの高品質向けに、高品質の日本農産物の輸出が増加。2009年、(8)法が改正され、農業生産法人(一般企業など)による農業への参入規制が緩和された。(9)(農太洋経済連携協定)の今後注目される中、JA(農協)改革も進行。
- 7 フェアトレードとはどのような取り組みをするのか、**農産物**、**生産者**という言葉を使って説明しなさい。
- 8 フードマイレージとは何か説明しなさい。
- 9 トレーサビリティとは何か説明しなさい。

今回の考査を振り返り、どこができなかったのか、なぜできなかったのかを分析してみよう。

1 農業的・企業的農業 点/20点 2 世界各地の農業 点/40点
3 日本の農業 点/20点 4 食料問題 点/14点

3年組 番氏名 _____ 評価A・B・C _____

※学校資料をそのまま掲載。

新学習指導要領で 求められる 学習評価の本質と その実践の要諦

京都大学大学院 教育学研究科 教授
西岡加名恵

新学習指導要領で改善が求められている学習評価、特に観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の充実は、生徒の学習にどのような影響をもたらすのか。2022年度入学生を迎えるにあたって押さえておくべきポイントを、教育評価を専門とする研究者が解説する。

京都大学大学院
教育学研究科 教授
西岡加名恵

にしおか・かなえ

専門は教育方法学（カリキュラム論、教育評論）。文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」委員などを歴任。著書に『教科と総合学習のカリキュラム設計…パフォーマンス評価をどう活かすか』（図書文化）、編著に『高等学校教科と探究の新しい学習評価』（学事出版）など、多数。



1 新学習指導要領における学習評価

「深い理解」を評価し、
生徒の学びの意欲を高める

新学習指導要領について、先生方とまず確認したいのは、大きく転換した目標観です。これまで、

知識・技能は、個別のものとして習得される傾向がありました。しかし、これからは、知識・技能を互いに関連づけたり、構造化したりしながら深く理解し、実社会で使いこなせるものとして習得する

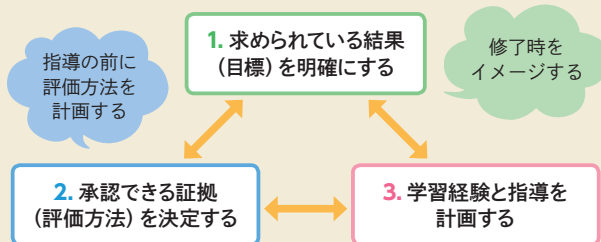
ことを目標としています。つまり、知識・技能を使う時に必要な思考力・判断力・表現力の育成が目指されています。

そのため、新学習指導要領では、そうした目標観の転換に伴う評価観の転換も求められていると言えます。それがすなわち、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点での評価です。

この観点別評価は、自動車の運

転免許の取得の過程で考えるとイメージしやすいと思います。交際ルールや運転マナー等の知識の習得はペーパーテスト等で、基本的な運転技術の習得状況は教習所内での教習で評価しますが、学んだ知識や技能を使いこなす運転ができるかどうかは、実際に路上に出て運転する路上検定で評価します。そのように、知識・技能の習得状況はペーパーテストで、思考力・判断力・表現力の発揮は複数

図1 「逆向き設計」の3つの段階



※ Grant・ウィギンズ、ジェイ・マクタイ『理解をもたらすカリキュラム設計』（日本標準）の内容を基に西岡教授が作成。

の知識や技能を総合して使いこなすことを求めるパフォーマンス課題で評価するというように、観点ごとに多様な方法で評価するのが観点別評価です。

観点別評価を充実させるためには、どのような目標に対してどの評価方法を用いるのかを明確にすることが求められます。そして、目標と評価方法の対応を考える上で参考になるのが、「逆向き設計」(図1)です。これまで、評価方法は、指導が終わった後で検討されがちでしたが、単元末や学年末・卒業時などにおける指導のねらいが達成された状態からさかの

2 様々な方法で生徒を評価

多様な評価方法を
使いこなして3観点を評価

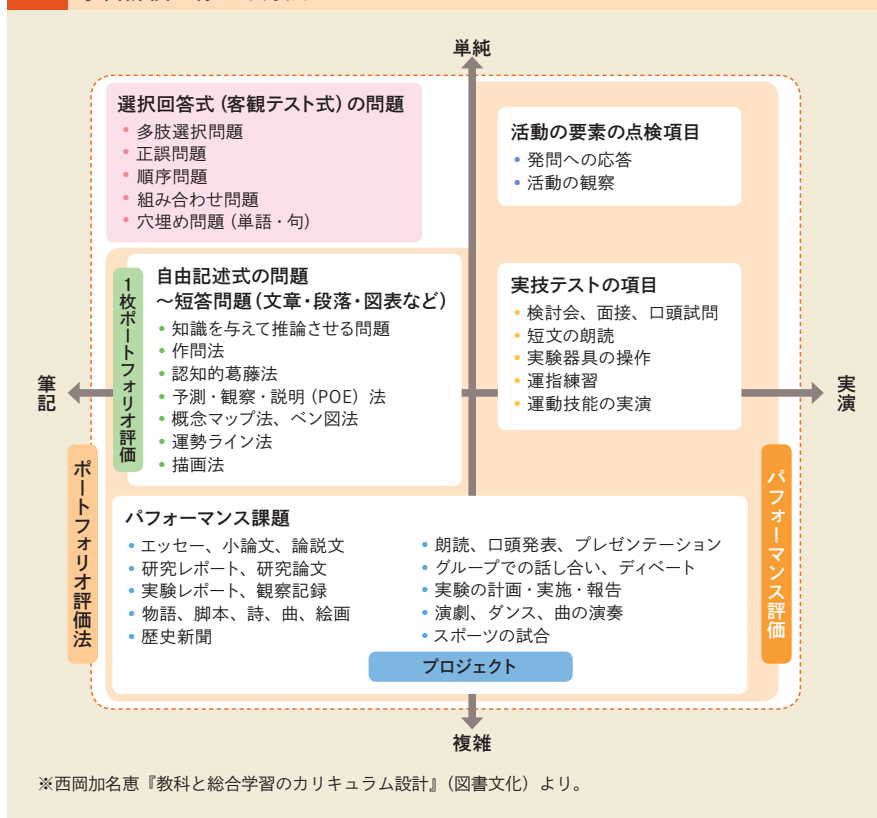
資質・能力を、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点でバランスよく評価するためには、様々な

ぼり、指導計画と評価方法を指導の前段階で構想しておくという考え方です。「実践事例3」福岡県立香椎高校(P.14~17)は、年間指導計画で目標、指導、評価を年度当初に一体的に計画し、年度末に教師同士の対話によって振り返りを行っています。目標に合わせた指導と評価を実施する同校では、生徒は「何ができるようにしているのか」を授業でも評価でも実感しやすく、学びの意欲も向上しやすいはずです。観点別評価の充実には、学習者である生徒にとっても大きなメリットをもたらすのです。

な評価方法を多面的に活用することが求められます。

図2は、評価方法を単純なもの・複雑なものという縦軸、筆記による評価と実演による評価という横軸で整理したものです。この中で、様々な知識やスキルを総合

図2 学習評価の様々な方法



※西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』(図書文化)より。

して使いこなすことを求めるような複雑な課題を「パフォーマンス課題」と言います。小論文やレポート、グループでの話し合いや発表、実験の計画・実施・報告などがパフォーマンス課題にあたります。なお、「パフォーマンス評

価」という言葉がありますが、それは知識やスキルを状況において使いこなすことを求めるような評価方法の総称で、客観テスト以外のすべての評価方法を含みます。パフォーマンス課題はパフォーマンス評価の方法の1つです。

図3 3観点と評価方法の対応例

観点	評価方法	
	教科学習	総合探究を 始めとする 探究学習
知識・技能	筆記テスト/実技テスト 【評価規準】チェックリスト	ポートフォリオ 評価法
思考・判断・表現		
主体的に学習に 取り組む態度	パフォーマンス課題 【評価規準】ルーブリック	

※西岡教授への取材を基に編集部で作成。

ポートフォリオ評価法は、学習者の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などをファイルなどに系統的に蓄積したものの（ポートフォリオ）を基にした評価のことで、ポートフォリオ作りを通して、生徒は学習のあり方を自己評価することができ、教師は生徒の学習活動の記録と照らし合わせながら、自身の教育活動を評価することができます。

どの観点をどのような方法で評価するのか、前述の「逆向き設計」の考え方で検討します。知識や技能の習得を確認するには筆記テストや実技テストが有効ですが、知識や技能の「深い理解」の獲得を支援し、評価するためには、パフォーマンス課題に取り組みさせることが必須だと考えます。また、

3 パフォーマンス課題とは

様々な知識やスキルの
総合・活用を求める課題

観点別評価では、どのような目標に対して、どの評価方法を用いるかの検討が欠かせません。前述の「逆向き設計」では、カリキュラムの中核に位置するような本質的な重点目標と副次的な目標とを「知の構造」として区別しながら、評価方法との対応関係を示していきます（図4）。

「知の構造」において、最も低次に位置するのが「事実的知識」

「総合的な探究の時間」のように、生徒自身が課題を設定し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行い、さらに課題を設定し直すというサイクルを回していく活動については、ポートフォリオ評価法で、学びの中での生徒の変化を見取っていくとよいでしょう（図3）。

「個別的スキル」です。「事実的知識」と「個別的スキル」は、授業で扱うべきものですが、それだけでは生きて働く学力とはなりません。それらより高次に位置するのが「転移可能な概念」と「複雑なプロセス」です。「転移可能な概念」とは、様々な状況で使えるような概念で、「複雑なプロセス」とは、様々な情報を総合するような手続き的知識です。さらに、「転移可能な概念」と「複雑なプロセス」を総合したものととして、「原理や一般化」についての「永

続的理解」が位置づけられます。「原理や一般化」についての「永続的理解」は、将来、学習内容の詳細を忘れても身につけておいてほしいものであり、新学習指導要領における「各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方」に通じるものです。

「転移可能な概念」「複雑なプロセス」を総合して得られるような、「原理や一般化」についての「永続的理解」の評価にふさわしい方法が、パフォーマンス課題です。パフォーマンス課題は、様々な知識やスキルを総合してレポートなどを作成したり、プレゼンテーションなどの実演に取り組みせたりするのに適した単元で設定します。場合によっては、複数の小さな単元を組み合わせ、少し大きな単元でパフォーマンス課題を設定することもあるでしょう。

図4では理科を例に「知の構造」を示していますが、高次な知識・スキルである「転移可能な概念」や「複雑なプロセス」を評価するために、「原子・分子、化合、酸化・還元といった概念について説明す

よるパフォーマンス課題を繰り返し実施することで、生徒の理解を長期的に深めています。

また、パフォーマンス課題の作成には、「本質的な問い」や「原

4 ルーブリックとは

パフォーマンス課題での 取り組みの質を評価する

パフォーマンス課題での生徒のレポートや作品の評価は、客観テストのように正解・不正解という形で判定できるものではなく、一つひとつの取り組みの質を吟味する必要があります。パフォーマンス課題での取り組みの質を判断する基準表がルーブリックです。

ルーブリックは、評価する観点（規準）と、その到達の度合いを示す数レベル程度の尺度（基準）と、それぞれの基準に対応するパフォーマンスの徴候を記した記述語から成ります（図5）。

ルーブリックの1つに、特定の

理や一般化」についての「永続的理解」という暗黙知になりがちだった事柄を先生方が共有することで、教科の指導力が向上するというメリットもあります。

課題から生み出された作品について、その質を吟味するための規準・

基準を明示する「特定課題ルーブリック」があります。先生方が各単元でのパフォーマンス課題で用いるのは、特定課題ルーブリックであり、生徒に対して、評価者である教師が、何を、どんな点で評価するかを明示するものです。

特定課題ルーブリックを用いた質的な評価は、客観テストなどによる量的な評価と異なり、専門家の持つ「鑑識眼」を基盤として行われるものです。ルーブリックの作成では、教師同士の対話が不可欠ですが（図6）、その営みは、指導観の共有や同僚性の涵養にもつながることが期待できます。

図5 ルーブリックの構成

レベル	A	B	C	
評価規準 (観点)	実行可能で検証可能な課題を設定している <ul style="list-style-type: none"> 実際に実験をした上で、さらに追究すべき適切な問いと仮説を立てている 先行研究がある場合、比較できるような課題を設定している 	研究の目標を踏まえた課題を設定している <ul style="list-style-type: none"> 実際に実験で検証できるような問いを立てている 研究を通じて明らかにしたい目標や仮説を書いている 	課題を設定することができていない <ul style="list-style-type: none"> 問いが曖昧で、具体的に何をしたらよいか明らかになっていない 	基準 徴候

※西岡教授への取材を基に編集部で作成。

ルーブリックは、学習者に対して、基準に到達した状態を具体的に伝えるものでもあります。そのため、ルーブリックで単に生徒の姿を文章で記すだけでなく、そのレベルに対応した具体的な生徒の

図6 ルーブリックの作成手順の例

- 1 パフォーマンス課題を実施し、学習者の作品を集める。
 - 2 ぱっと見た印象で、「5 素晴らしい」「4 よい」「3 合格」「2 もう一歩」「1 かなりの改善が必要」という5つのレベルで採点する。複数人で採点する場合は互いの採点が分らないように工夫する（評点を付箋紙に書き、作品の裏に貼りつけるなど）。
 - 3 全員が採点し終わったら、付箋紙を作品の表に貼り直し、レベル別の作品群に分ける。それぞれのレベルに対応する作品群について、どのような特徴が見られるのかを読み取り、話し合いながら記述語を作成する。
 - 4 ひと通りの記述語ができたなら、評価が分かれた作品について検討し、それらの作品についての確に評価できるように記述語を練り直す。
 - 5 必要に応じて評価の観点を複数に分けて、観点別ルーブリックにする。
- ※グラント・ウィギンズ『Educative Assessment』(Jossey-Bass Publishers)の内容を基に西岡教授が作成。

作品（アンカー作品）を添付すると、生徒はさらに目指すべき状態がイメージしやすくなります。

ルーブリックは、パフォーマンス課題に取り組んだ生徒の姿を基に練り上げられてこそ、自校の生

徒の実態に合った評価規準・基準となっていくきます。言い換えれば、ルーブリックができて、パ

5 評価計画の立て方

3 観点をどの単元で
何を使って評価するか

各教科において、どの単元でどの評価方法を用いるのか、指導計画と合わせて検討します(図7)。「知識・技能」は筆記テストと実技テスト、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」はパフォーマンス課題で一体的に評価することを基本とすると、3観点をバランスよく見取ることができ、筆記テストや実技テストの実施にあたっては、評価項目を並べたチェックリストで評価規準を定めた上でテストを作成し、達成率で成績をつけます。パフォーマンス課題の実施にあたっては、ルーブリックに基づいて評価を行います、単元を超えて類似の課

パフォーマンス課題が十分に実施されていなければ、生徒を適切に評価することは困難です。

題を繰り返し与えて、長期的ルーブリックを用いて生徒の成長を評価することも可能です。

図7 学習評価計画の立て方の例

観点	評価方法	単元1	単元2	単元X	単元Y
主体的に学習に取り組む態度	パフォーマンス課題		○		◎
思考・判断・表現					
知識・技能	筆記テスト/ 実技テスト	◎	◎		◎

※○が指導する観点、◎が評定に結びつける観点を示す。
※西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』(図書文化)より。

なお、3観点すべてを各単元で評価しなければいけないわけではありません。年間指導計画を見通しながら、それぞれの観点を評価しやすい単元、タイミング(授業、定期考査、発表会など)を考え、評定に結びつける機会を明確

6 22年度に向けて、先生方への提案

パフォーマンス課題を実施し、
評価を持ち寄る

まず、各教科で1つ、パフォーマンス課題を実践してみることをお勧めします。生徒のレポートや作品に対する先生たちの評価を持ち寄り、ルーブリックを作っていくことで、観点別評価に対する理解が深まりますし、各学年でパフォーマンス課題の作成に取り組むことで、校内の知見が積み重なります。

また、探究学習などで作成しているポートフォリオを見ながら、課題と今後の取り組みについ

にすることで、先生方が「評価疲れ」することのない評価計画になると思います。そして、図7の○印のような評定に結びつけない評価は、指導と学習の改善に生かす形成的評価として活用していくとよいでしょう。

て、生徒と1対1で対話することで、生徒が設定した探究課題の質や資料の収集力、論理性などを評価する先生方の力が向上するはず。そうした力は、探究学習はもちろん、教科の授業の評価の改善にも必ず役立ちます。

観点別評価は、予測困難な社会で幸せに生きていくためにどのような資質・能力が必要かを、生徒と教師が共通理解する機会でもあります。観点別評価の充実、生徒にとって、高校での学びの意義を認識するだけでなく、大学などでの学びを見通すことにもつながるはず。

複数の学校で 学習評価を 磨き合う

SSH8校共同開発 「標準ルーブリック」

学習評価を充実させるためには、自校の生徒の実態に合った評価方法の検討が求められる。そしてその検討は、複数の教師によって行われることが望ましいが、異なる学校の教師で行えば、より広がりのある議論が期待できる。複数の学校が共同してルーブリックの開発を行った事例を基に、学習評価のさらなる充実に向けた次の一手を考える。

課題研究の指導の 知見を持ち寄り、議論

スーパーサイエンスハイスクール（以下、SSH）指定校の石川県立金沢泉丘高校、福井県立藤島高校、三重県立津高校、滋賀県立膳所^{（せせ）}高校、京都市立堀川高校、大阪府立天王寺高校、兵庫県立神戸高校、奈良県立奈良高校（以下、SSH8校）は、理系の課題研究を評価するための「標準ルーブリック」（*）の開発に取り組み、

2019年度に、「科学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略」（図1）と「数学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略」を公開した。「観点」は、科学者が研究に用いる手続きを反映して設定し、高校で取り組んだことが、大学での研究にもつながるように意識して作成した。SSH8校の「標準ルーブリック」の開発が始まったのは17年度。理系の課題研究の評価について、統一的な枠組みを作ること、

各校が長年取り組んできた課題研究の指導に関する知見を、広く他校にも共有するとともに、入試改革を始めとする高大接続のあり方について、高校の立場から問題提起することがねらいだ。SSH8校は、京都大学大学院教育学研究科の西岡加名恵教授、愛知県立大学教育福祉学部の大貫守准教授に、アドバイザーとしての協力を依頼。「標準ルーブリック」の開発は、SSH8校のSSH担当教師が参加する研究会を主な検討の場として進められた。

第1回研究会（17年8月）では、異なる学校の参加者で構成されたグループに分かれ、それぞれの指導経験を踏まえ、SSHとして目指してきたことや、年間を通して生徒の変化について意見を交わした。そして、各校で既に運用していたルーブリックを参考にして、「標準ルーブリック」の記述語を作成した。第2回研究会（18年8月）では、自校の生徒が書いた論文を各校が持ち寄り、探究分野別のグループに分かれて、論文の評価を通じたルーブリックの作成に

取り組んだ。参加者は、論文にレベル1〜5の評点をつけた上で、各レベルに該当する論文をグループで検討するとともに、第1回研究会で作成した記述語も踏まえて改めて「標準ルーブリック」について議論した。第3回研究会（19年3月）では、SSHの活動に取り組む生徒が直面するつまづきと、つまづいた際の教師の指導のあり方について、生徒の実験ノートや論文など、具体的な資料を用いながら議論した。

学習評価について語り合う 意義を再認識

そうしたプロセスを経て、19年7月、大学教員も参加する「探究型学力高大接続シンポジウム」で、「科学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略」と「数学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略」が公開された。高校側からは、「大学入試では、課題研究などの探究学習の成果を、コンテストでの受賞歴などで評価する傾向が見られるが、応募できるコン

* 学校を超えて共有されるよう、標準化されたルーブリック。



京都府京都市立堀川高校 教頭 飯澤 功
いざわ・いさお
教職歴17年。同校に赴任して18年目。

学習評価のあり方を対話を通して深め、見直す

他校の教師との対話から
自校の学習評価を捉え直す

「標準ルーブリック」は、他校の先生方と、SSHの活動を通して

テストの数や受賞のしやすさは、研究分野で差がある」「研究や論文執筆の段階で教師が関与しすぎの危惧もある」といった問題意識が大学側に伝えられた。そうした問題点を解決するためにも、高校自身による課題研究に対する評価のあり方を追究しつつ、妥当性や信頼性の高い学習評価を目指したと、今回の取り組みの背景について、SSH8校は説明した。

今回のSSH8校による「標準ルーブリック」開発 参加教師が語る

「標準ルーブリック」の開発は、課題研究の目標やカリキュラムにおける類似性が土台にあったため、先駆的な取り組みとして実を結んだことは確かだろう。しかし、研究会に参加した多くの教師にとって、学習評価という領域について教師同士が胸襟を開いて語り合い、改善に向けて試行錯誤するといった経験こそが、最大の成果だったのではないだろうか。

て育成を目指す資質・能力や、SSHでの生徒の活動の様子などを語り合いながら作成しました。教師が1人で思索を巡らせてルーブリックを作るのではなく、論文という具体的な成果物について、教師が対話しながら評価規準・基準を検討していくという手順は、生徒の実態に合った評価をつくるという点で、とても有効だと思

図1 科学的探究に関する標準ルーブリックと指導方略

観点(上段) - 「本質的な問い」(下段)	課題の設定		調査計画の立案と実施	情報収集と情報の評価	結果からの考察
	研究の意義づけ	課題の具体化			
基準(上段) 微候(下段)	研究の意義とはなにか?	よい研究課題とはなにか?	よい調査計画とはなにか?	情報をどう解釈できるだろうか?	どうすれば妥当な考察ができるだろうか?
5 基準 課題研究の質が特別優れているレベル	自分の研究課題の学術的・社会的価値、既存の前提を問う問いを設定している	妥当な評価が可能な目標や、環境的な制約の中で実行可能で検証可能な問いや仮説を立てている	実践から教訓を引き出し、必要な情報や手続きを身につけて、次の計画に活かせる	情報(実験・観測データ等)を目的に応じて適切に評価をした上で、考察に向けた示唆を与える形で解釈している	得られた結論から、より発展的な課題を見いだし、次の探究のプロセスが見据えられている
微候 一連の探究の手続きを理解し、省察しながら次の段階を視野に入れて探究活動を行っている	○自分の研究課題が社会や学問の進展に寄与するものであることを口頭または文章において説明できる ○研究課題に関連する先行研究との違いが明確にされている	○取りうる手段を踏まえ、実際に評価可能や目標や検証可能な仮説が立てられている ○身近な物・実験材料などに注目し、検証可能な課題を設定した ○先行研究がある場合、それらと比較できるような課題が設定できている	○現状で知識・技術不足があったときに、自ら情報を収集し、習得しようとする ○実施の都度、自分で振り返りを行い、目的に応じて、計画を修正する	○データを緻密に分析し次の研究への発展または大きな発見の結論に至っている ○実験の失敗などから修正点を見だし実験デザインを直す ○別アプローチで得られた考察の妥当性を確かめようとしている	○自分が進めてきた探究の手法や考え方を振り返り、発展的な新たな課題を見いだしたり、その解決に向けたアプローチを考察したりしている
指導方略	「大きな目標のうち、今回の研究でどこまでできたの？」と問う	・検証方法について、身近なものを例に挙げて説明する			・多面的に考察し、発展的な課題に対する研究プロセスを考えるよう促す
4 基準 課題研究の質が十分に満足できるレベル	自分の研究課題の学術的・社会的価値に触れて問いの意義を説明している	評価が可能な目標や検証可能な問いや仮説を立てている	先行研究等を踏まえ、妥当性のある方法を多角的・多角的に判断し、計画に取り入れている	情報(実験・観測データ等)を先行研究や既存の前提(概念枠組み・パラダイム等)を用いて合理的に解釈している	論理的な考察ができており、得られた結論の妥当性の評価がなされている
微候 探究の手続きや一連の流れを理解しつつ、自分の活動を評価しながら探究活動を行っている	○研究課題に関連する先行研究が紹介されている ○自分の研究課題が社会や学問においてどのような位置づけにあるか当該分野の話題を取り上げている △最終目標と、実現可能な実験をどのようにしてつなげるべきか悩んでいる	○目標や仮説を、曖昧な言葉や単語を用いずに表現できている ○必要な定義がなされている ○厳密な仮説を立てている ○検証可能な目標や仮説を立てている ○数多くの実験をした上でそれを踏まえた仮説を立てている △理論的な制約等を念頭に問いや仮説を設定することはできない	○先行研究や既存の理論を参考にしつつ、調査方法の妥当性を評価しつつ、選択できている ○課題解決に必要な条件・精度・具体性を意識した計画が立てられている ○既存の複数の方法を評価し、自分の研究に合った方法を選択した ○既に得られている各種データと、自らの予想に整合性があることを確認している △考察等をふまえて、発展的な研究に至るプロセスを提案することができない	○データの提示と解釈が正確に行われている ○有効数字、測定・系統誤差の評価・再現性の検討ができている ○自分が選択した方法や測定法の精度を意識している △実験と理論式が結びついていない △[理論式への]代入に終始している	○先行研究や既存の理論との比較の結果、進めってきた探究をふりかえり、評価(仮説の採択)棄却や方法の不備等)し、次の課題を見出している ○考察から新たな問題を解決するための気づきが生かされている △課題は見つけられているが、発展的な研究のプロセスまでは考えられない
指導方略	・先行研究を意識して、自分たちの研究の意義を説明させる ・対象の性質から連想されることなのか、社会的	・操作上の定義について問う ・身近なもので検証可能なものを調べさせる	・予想通りなら、どういうことが起こるか、それを確認するには、何を数えたり、観察したりすればいいか問う	・先行研究や別領域(周辺領域)での論文との整合性を求めるように指導する	「考える原因は？本当に差があるといえるのか？」と問いかけ、先行研究の解釈について討論させる

●SSH8校による「標準ルーブリック」についての西岡加名恵教授、大貫守准教授の研究論文
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/250860/1/hte_023_1.pdf

ました。

SSH8校の先生方と語り合う中で、探究学習を通してどのような資質・能力の育成に重点を置くのかは、学校の教育目標に応じて異なっていることを改めて実感しました。例えば、ある生徒の研究論文を複数の教師で評価したところ、研究のプロセスがしっかり書かれていないと低評価をつける教師もいれば、新規性を重視して高評価をつける教師もいました。

評価規準は、学校が育成を目指す資質・能力と照らし合わせて各校が定めるべきものです。学校として重点を置く評価の観点を明確にするとともに、自分たちが重視していない評価の観点を自覚することも大切です。評価規準はこれからもこのままでよいのかと、自問し続けることが必要でしょう。そして、自分たちが重視していない評価の観点が、目の前の生徒の学びを肯定的に評価するものであるのなら、「学校のルーブリックからは少しずれるけれども、この点がよかったね」と大きな視野で評価することも、答えが1つで

はない探究学習に伴走する1人の教師として必要な姿勢でしょう。

評価においての自分の視野が狭くなったり、生徒を見取る大切な観点が抜け落ちたりしないようにするためにも、自分は生徒のどんな姿を評価するのか、それはなぜか、校内外の教師と対話し、深め合うことが重要です。その意味では、今回の「標準ルーブリック」も、完成させたこと以上に、作成過程での教師同士の対話に価値があったのかもしれない。

「標準ルーブリック」は、本校独自のルーブリックと照らし合わせることで、本校では生徒のどんな姿に、どのような資質・能力を見いだそうとしているのが、よく考えやすくなったというメリットを私たちにもたらしました。また、他校の先生方の経験を基に言語化した「指導方略」は、探究学習のサイクルを回す中での適切な支援を考えるヒントになっています。授業の実践と同様に、学習評価についても実践の共有を進め、その充実を図っていききたいと思えます。

イベントのご案内

VIEWnext PRESENTS

2021年
12月8日(水)
オンラインで
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座

観点別学習状況の評価の充実を図る —— 教師同士の対話を通じて作成するルーブリック ——



講師

京都大学大学院
教育学研究科 教授

西岡加名恵

◎専門は教育方法学。文部科学省「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」委員などを歴任。

VIEW next 編集部は今年度、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催しています。今回は、京都大学の西岡加名恵教授に、新学習指導要領で求められる学習評価についてお話をいただきます。中でも、パフォーマンス課題の取り組みの質を評価する上で有効なツールであるルーブリックの作成においては、教師同士の対話が不可欠であることから、ルーブリックの作成の具体的な手順とともに、作成の際に必要な教師同士の対話で進行役の教師が留意すべきことなどをお伝えします。

開催日時 2021年12月8日(水) 16時00分～17時10分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/wef5959ff7/form.php>

参加申し込み締め切り 2021年12月1日(水) 参加費 無料



For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.28

新課程に向けて描く 「学校教育デザイン」

新課程で求められるカリキュラム・マネジメントの
視点での学校づくりとは？

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

鳥取県・私立青翔開智中学校・高校

全教師で策定した「育てたい資質」を軸に、
探究学習と進路指導をつなげる

P.32

—疑問や課題を解決！実践につながる！— 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

新課程初年度に向けた自校の計画・実践に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

新課程1期生入学に向けた観点別評価

ウェブセミナー 新課程1期生入学に向けた学びの設計と実践 第5回
「生徒の学びが変わる 学習評価のこれから」
レポート

P.36

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

岡山県立岡山東商業高校

実学教育を通じた非認知能力の育成
問題解決力と自己管理能力を伸ばし、
地域経済を支える人材を育てる

P.40

輝く

学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

宮城県柴田高校 2学年団

学力多層化の現状を丁寧に分析し、
自律した学びを目指して指導を更新

P.44

学校 危機管理 基礎講座

お勧めの分掌 ▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

いじめの防止と対応

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

全教師で策定した「育てたい資質」を軸に、 探究学習と進路指導をつなげる

鳥取県・私立青翔開智中学校・高校

アウトライン

建学の精神を具体化し、指導と評価に生かす



自校が目指す「探究」を
教師間で議論して共有

鳥取県・私立青翔開智中学校・高校は、建学の精神「探究・共成・飛躍」の具現化に向けて、2014年度の開校時から、全教科・科目の授業で探究的な活動を、独自科目の「探究基礎」で探究学習を行っている。設置準備段階から学校づくりに携わる織田澤博樹校長は当時、次のような課題を感じていた。「学校全体に建学の精神が十分に浸透しているとは言えず、『探究』について、大学で行うような学術的な研究を『探究』と捉える教師もいれば、調べ学習の内容をレポートにまとめることを『探究』

と捉える教師もいました。指標や指導法を共有する仕組みがなかったため、指導の方向性も統一できていませんでした」

そこで、織田澤博樹校長はまず、建学の精神の中でも柱となる「探究」を明確に定義しようと考えた。自ら「探究基礎」の授業に足を運び、探究学習に取り組む生徒の様子を間近に見る中で定まってきたのは、自校が目指す「探究」は、「生徒が自ら社会問題を発見し、その解決に創造的に取り組んでいく活動」ということだった。織田澤博樹校長は、その考えを週1回の職員会議などで発信し、学校全体で「探究」の定義を共有することを図っていった。

「教師数が二十数人の本校では、日頃から職員室などに話しやすい雰囲気があります。今は、『共成』や『飛躍』の共通理解を図るために、教師間で定義について議論しています」（織田澤博樹校長）

建学の精神を体现する生徒の姿から、「育てたい資質」を考える

次に着手したのは、建学の精神に基づいた「育てたい資質」と、その到達度を測る「評価項目」（図1）の策定だ。当時「探究基礎」を担当していた教師2人が、草案を作成した。担当者の1人、探究部の田村幹樹先生は、「育てたい資質」は具体的な表現から抽象化

SCHOOL PROFILE

設立 2014 (平成 26) 年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約 45 人
2021年度入試合格実績

(現役のみ、卒業生数 36 人)

国公立大は、東北大、筑波大、東京大、山梨大、島根大、北九州市立大などに9人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、中央大、京都産業大、同志社大、立命館大、鳥取看護大などに延べ57人が合格。海外の大学に、ファウンデーションコースを含め12人が合格。



図1 「育てたい資質」と「評価項目」(抜粋)

階層1	階層2	階層3	タグ
探究	課題設定	疑問・課題を見いだすことができる 課題解決に必要な仮説を立てることができる	1
		課題解決に必要な調査の設計をすることができる	2
	情報 リテラシー	仮説の検証に必要な適切な情報を集めることができる	3
		思考ツールを活用して集めた情報を分析することができる	4
		仮説を検証するために収集した情報を適切に管理することができる	5
共成	セルフ コントロール	公共の精神や社会規範の意識を持っている	18
		状況を判断して取るべき行動を選択しようとする	19
	巻き込み力	チームでの取り組みを主導し、リーダーシップを発揮しようとする	20
		他者に共感し、そのことを表現しようとする	21
		求心力 (図らずとも人がよってくる・信頼されている) がある	22
飛躍	ビジョン	物事の判断や行動に自分がどうありたいかを持っている	33
		学ぶことへの意味・意義を持っている	34
		自身のことを客観的に理解しようとする	35
	アント レプレナー シップ	失敗を恐れずに何事もチャレンジしようとする	36
		どんな環境や状況においても心の余裕を持ち、楽しさを見いだそうとする	37

「探究」は7の資質・能力と17の評価項目、「共成」は4の資質・能力と10の評価項目、「飛躍」は3の資質・能力と10の評価項目を設定した。

* 学校資料を基に編集部で作成。上図の全体像は、同校のウェブサイトからダウンロードいただけます。「HOME」>教育計画>探究スキルラーニング授業紹介」をご覧ください。https://seishokaichi.jp/wp-content/uploads/2021/05/57547fe568cf9f7bf28696fe2918eff1.pdf

を「図1」と説明する。「建学の精神を体現している生徒を思い浮かべ、彼らの姿勢や行動を付箋紙に書き出しました。それらを内容が近いものでまとめた上で、各まとまりが示す資質・能力(図1・階層2)を考えて、『育てたい資質』としました。そして、

それぞれが『探究・共成・飛躍』のどれと関連するかを考え、振り分けていきました(図1・階層1)」。草案は、全教師や外部の協力者と議論。その過程で、評価項目には、「〇〇ができる」とスキルの形で表す方が適する項目と、「〇〇しようとする」といった行動特性で

表す方が適する項目があることが分かった。そうした点も踏まえて議論した結果、「探究」に関する評価項目(図1・階層3)はスキルの形で、「共成」「飛躍」に関する評価項目は行動特性の形で表すことにした。さらに、教師・生徒間で共有したり、データ処理をしたりしやすいようタグ(*1)をつけた。

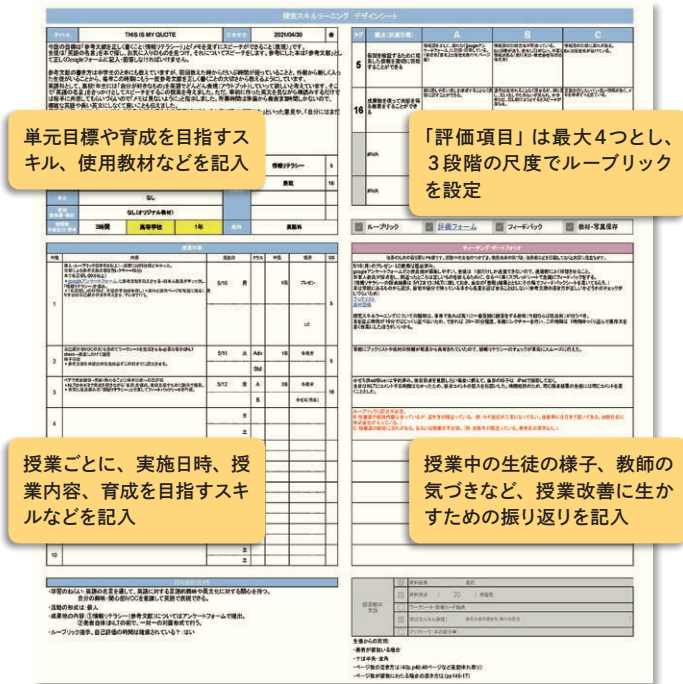
探究学習に必要なスキルを 教科学習での探究的な活動で育む

そのようにして策定した「育てたい資質」と「評価項目」を活用し、全教科・科目で探究的な活動を充実させている。「育てたい資質」の中から「探究基礎」に必要と考える6つ(*2)を「探究スキル」に位置づけ、それらを育成する探究的な活動を「探究スキルラーニング」(*3)として、各教科・科目で行うことにした。

「各教師は、担当教科・科目でどのスキルを育成し、そのために必要な活動は何かを考えて、探究科の学校司書、司書教諭と協働し

* 1 物や情報を分類・整理するためのラベル。 * 2 「課題設定」「情報リテラシー」「クリティカルシンキング」「ロジカルシンキング」「データサイエンス」の6つ。 * 3 「探究スキルラーニング」の授業内容は、同校のウェブサイトで開催されている。https://seishokaichi.jp/curriculum/ssh/class/

図2 「探究スキルラーニング デザインシート」(単元計画と改善のツール)



「デザインシート」は、「Google スプレッドシート」(*5) で運用し、全教師が見られるようにした。使用した教材や書籍のリンクを設定するなど、情報を電子化して共有することで他教科・科目の取り組みを参考にする仕組みを、同校では探究科の学校図書館担当者が作成している。※学校資料をそのまま掲載。拡大した図は、同校のウェブサイトからダウンロードいただけます。「HOME > 教育計画 > 探究スキルラーニング授業紹介」をご覧ください。https://seishokaichi.jp/wp-content/uploads/2021/05/d171a1c62d2101812fbfe22691bfcd6a.pdf

て、単元計画(図2)を繰り返します。加えて、育成したいスキルの到達度を測る『評価項目』を決め、評価基準とするルーブリックも作成し、生徒に示します。各教科・科目の授業で何を学び、それが『探究基礎』にどう生きるのか、生徒も教師も明確に意識できるようにしました(田村先生)

「評価項目」は、1単元最大で4つとし、ルーブリックは3段階の尺度とした。授業後、ルーブリック

クに基づいて、生徒は自己評価と相互評価、教師は生徒評価を行う。「評価は『Google フォーム』(*4)を活用し、単元ごとに評価結果を集計したり、各単元のタグを収集して『評価項目』ごとに評価された回数を算出したりします。評価結果の可視化によって、成果や課題を把握しやすくなったことで、授業改善が進みました(田村先生)

ブレイクスルー

探究学習が生徒のキャリアにつながる

生徒個別につく論文指導の担当教師が、進路選択も支援

そのように、全教師で策定した「育てたい資質」と「評価項目」を軸に「探究基礎」と「探究スキルラーニング」をつなげ、中学1年次から探究的な学びや探究学習を計画的に進めていくと、生徒は「育てたい資質」を着実に身につけ、学問的な関心や社会問題に対する課題意識を持つようになっていった。

課題は、それが生徒のキャリア形成になかなか結びついていないことだった。進路支援主任の森川真吾先生は、次のように語る。

「18年度頃まで、本校では大学入試は一般選抜の受験者が大半で、『探究基礎』で取り組んだ内容と関連のない学部・学科に進学する生徒もいました。生徒全員が、目的

意識を持って進路を選べるようにしたいと考えました」

そこで見直したのが、進路指導の体制だ。高校2年次の「探究基礎」では、生徒が自分で課題を設定し、論文を執筆する。その際、教師は分担して、それぞれ約2人の生徒の論文指導を1年間担当するため、担当した生徒の社会や学問に対する関心を十分に把握できる。それを生かすべく、19年度からは、論文指導の担当教師が、生徒の進路指導も担当する体制とした。

「論文のテーマ別に卒業生の進路先を示し、探究が進路につながることを生徒に実感させるなど、『探究基礎』での学びを生かした進路支援をするようになってから、生徒の進路観が変わりました。『中学・高校で取り組んだ探究を大学でさらに深めたい』『探究した内容に関

*4 アンケートの作成や、その結果の集計・分析を行えるオンラインツール。 *5 オンライン上で使える表計算ソフト。



アップグレード

目指すは、挑戦し続ける学校集団

係する学問を学びたい」といった声がよく聞かれるようになったのです。総合型選抜・学校推薦型選抜に挑戦し、『探究基礎』の成果を生かして志望校合格を果たす生徒も増えていきました」（森川先生）

1人の生徒の論文と進路の指導を担当することは、教師にも大きな学びがあると、織田澤校長は語る。

「教師は、『探究基礎』の指導を通じて社会問題を把握し、その解決のためにはどのような資質・能力を持つ人材が必要とされるのかについて敏感になり、進路指導では、大学が求める人材の把握に努めるようになります。社会や大学から求められる人材像が分かれば、そこから逆算して、自校ではどのような生徒を育み、そのためにどのような教育活動をすればよいのかを具体的に考えられるでしょう」

そのようにして、個々の教師の意識が高まることで、「育てたい資質」と「評価項目」を見直す議論が活性化し、教育活動の質の改善につながるPDCAサイクルが回ると、織田澤校長は考えている。

教科学習で日常的に

探究的な活動を行えるように

「育てたい資質」と「評価項目」は、建学の精神を全校で共通理解するための材料であり、完成形はなく、常に議論しながら更新し続けていくものと位置づけている。同様に、探究学習や進路指導の体制も現状にとどまらず、見直していく考えだ。

『探究基礎』の指導と進路の指導を同じ教師から受け続けると、生徒はその教師への依存度が高まり、主体的な進路選択ができなくなる恐れがあります。自分の進路について相談する人は自ら探し、最終的には自分の進路は自分で決める。そうした生徒の育成を目指していきます」（森川先生）

田村先生も、「探究スキルラーニング」を日常的なものにしたいと語る。

「『育てたい資質』を意識して授業改善に取り組むことを常態化し、『探究スキルラーニング』という枠組みを設けなくても、常に教科学習で探究的な活動が行われるようにしたいと考えています」

今後の課題は、ICTを効果的

に活用し、新たな挑戦に力を注げるように効率化を図ることだ。

「例えば、クラス全体の目標達成度を数値で把握すれば授業改善を図れますが、評価を多様に行うと、分析に時間がかかります。自動化できる部分を見極め、教師も生徒も評価疲れを起こさずに、より高みを目指すよう支援をしていきたいと考えています」（織田澤校長）



校長
織田澤博樹
おたざわ・ひろき

教職歴9年。同校に赴任して9年目。



主幹教諭、
探究部
田村幹樹
たむら・もとき

教職歴15年。同校に赴任して6年目。理科。



主幹教諭、
進路支援主任
森川真吾
もりかわ・しんじ

教職歴13年。同校に赴任して5年目。英語科。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

学年団

担任

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

新課程1期生入学に向けた観点別評価

セミナーレポート

ウェブセミナー 新課程1期生入学に向けた学びの設計と実践 第5回 「生徒の学びが変わる 学習評価のこれから」レポート

2022年度からの新教育課程における観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実施に向けて、各校で準備が進んでいるが、評価観の転換や具体的な評価、評定換算の設計などについて悩みを抱えている教師は少なくない。22年度入学生を迎えるにあたって、学習評価の改善や見直しを支援するため、ベネッセ教育情報センターは21年8月、ウェブセミナーを開催した。

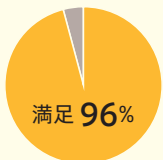
学習評価に関する 現場の悩みに答える

学習評価に関する高校現場の悩みは多岐にわたるが、「知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点をどのように評価すればよいか」と「観点別評価と評定をどのようにひもづければよいか」の2点は、特に課題感が高い。ウェブセミナーでは、その2点の課題感に焦点をあて、青森県立青森高校の実践事例報告を始め、様々な取り組み事例を交えて解説した。新課程で求められるのは、評価観の転換だ。それは、「できないことを自覚する評価」だけでなく「できるかもしれないと

生徒が前向きになる評価」に変わることであり、他者と比較して自分が「どれくらいできているか」という左右の視点での比較に加え、過去の自分と比較して「どれだけできるようになったか」という前後の視点での比較も取り入れるということである。それを踏まえ、これまでの取り組みを生かすことができる3観点の評価方法と、運用しやすい観点別評価と評定のひもづけの仕方考えた。参加者からは、具体的な事例が多く、今後の見通しが立ったといった声が多く上がった。次ページ以降の内容から、自校に必要な考え方や情報を確認していただきたい。

ウェブセミナー参加者の声 ※720人のアンケート結果より

ウェブセミナーの満足度



◎実践事例の紹介が豊富、かつ具体的であったため、今後取り組むことが考えやすかった。今後半年間の準備の負担を心配していた自分にとっては、ありがたいものであった。

◎難しく考えずに、今あるものからアップデートするような形で進めていけば、今あるものを活用して評価をする規準づくりができることが分かった。少し肩の力を抜いて、ベースづくりを急いでいこうと改めて思った。

Webセミナーの詳細はVIEWn-expressでご視聴いただくことができます。
講演スライドもダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。

<https://berd.benesse.jp/magazine/express/kou/08/>



評定への換算方法は？

3観点の重みづけと、 評定換算の仕組みを考える

観点別評価と評定のひもづけについて、どのような方法が考えられるか、セミナーでは5つのパターンを紹介した(図5)。3観点を1:1:1の同じ比率で評価するか、3観点の重みづけを変えるのか、大きくは2つの考え方に分

図5 評定の主な換算パターン

【注意】ご紹介する換算パターンはあくまでも「事例」であり、ルールではありません。学校として育てたい「学力や、生徒の状況」を鑑み、各校で検討ください。※工夫によっては教育委員会からの規定がある場合もあるので、それに従ってください。

手段	詳細	合計点
3観点の重みづけ無し (1:1:1)	① 3観点の合計点方式 (A=3, B=2, C=1など)	合計点
	② 各観点の累積的達成率を100%で計算し、その平均に基づいて算出	平均点
	③ 各観点の累積的達成状況を100%で計算し、それを5段階評定ABCの組み合わせで算出	組み合わせ
3観点のうち、一部の観点に重みづけ	④ 思考力・判断力・表現力に重みづけ付けた評定換算方式	組み合わせ
	⑤ 思考力・判断力・表現力に重みづけした評定換算方式	合計点

図6 思考・判断・表現に重みづけをした評定換算方式

3観点のうち、思考力・判断力・表現力に重みづけ
評定換算表を設定し、AAAが100点になるように配点を設定 合計の評定換算で評定を決める

観点別評価	評定	合計点	評定	合計点
AAA	5	100	AAA	5
AA	4	95	ABA	4
A	3	90	ABB	3
B	2	85	BAA	2
C	1	80	BBA	1
		75	CAA	1
		70	CAB	1
		65	CBA	1
		60	CBB	1
		55	CCB	1
		50	CCC	0

* 図2～6は、ウェブセミナーの投影資料を掲載

かれる。その上で、各観点の合計点や平均点で評定を出す方法、「A Bなら5」「A B Aなら4」など、A B Cの組み合わせによって評定を出す方法があることを解説した。

青森高校では、評定換算の際、3観点のうち学校として特に重視する思考・判断・表現に重みづけをすることを検討している。(図

6)。同校が考えているパターンの1つは、3観点のA B C評価の組み合わせであらかじめ評定を決めておく方法だ。同校では思考力・判断力・表現力の育成を重視しているため、知識・技能と思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度がそれぞれ「A A Bなら5」「A B Aなら4」というように、A B Cの数が同じであっても評定が異なる設計となる。

また、A B Cの組み合わせではなく、思考・判断・表現に重みづけをした評定換算表を作成し、A A Aを100点として、評定換算と評定を対応させる方法も考えている。なお、基本は5点刻みで換算されるが、評定の2と3は10点刻みの設計になっている点は、学校としての評価の考えを、評定を通じて生徒や保護者に伝えようとしているとも言えるだろう。

評価方法と評定の換算方法、いずれも今ある取り組みを生かしながら設計していくことが重要だ。

まとめ

新課程1期生入学を半年後に控え、学習評価の検討に苦心している学校は多い。まずは、2学期の期末考査を観点別に作問・採点して、各教科少なくとも1つの単元について、「主体的に学習に取り組む態度」を、ウェブセミナーで紹介した振り返りシートなどを参考に評価してみることを勧めたい。重要なのは、実践してみて、そこから軌道修正をすることだ。本コーナーの実践事例も参考にしながら、一歩を踏み出していただきたい。

新課程に関する情報は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！

- ・新教育課程の参考になる特設コーナー設置
- ・過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料などを掲載！

新課程レポート

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程からアクセス

https://bhs.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/index.shtml

岡山県立岡山東商業高校

実学教育を通じた非認知能力の育成

問題解決力と自己管理能力を伸ばし、 地域経済を支える人材を育てる



学校概要

- ◎設立 1898 (明治 31) 年
- ◎形態 全日制/ビジネス創造科・情報ビジネス科/共学
- ◎生徒数 1学年約 320 人
- ◎2021 年度進路実績 (現役のみ) 国公立大は、広島大、山口大、香川大、高崎経済大などに 9 人が合格。私立大は、日本大、明治大、近畿大、岡山商科大、岡山理科大などに延べ 92 人が合格。短大・専門学校進学 120 人。就職 108 人。

変革の背景

Society 5.0 を生き抜く
地域人材の育成を目指す

今年度で創立 124 年を迎える岡山県立岡山東商業高校は、長年、地域をフィールドとした実学教育を展開している。大学等への進学者も含め、卒業生の約 9 割が県内企業に就職し、地域経済を支えている。そうした同校は、2006 年度に学科の改組を行い、「ビジネス創造科」と「情報ビジネス科」を設置。ICT 教育の充実、国公立大学や難関私立大学への進学指導にも力を入れ始めた。森山泰幸校長は、自校の課題意識について次のように語る。

変革の一手

生徒の思いが実現させた

「コロナ禍の『東商デパート』開店

実学教育の代表的な取り組みは、例年 11 月

「本校の使命である地域人材の育成に加え、グローバル化や Society 5.0 に対応していくために必要な資質・能力の育成も求められています。強みである実学教育を充実させつつ、基礎学力の育成、ICT を活用した個別最適な学び、それらの活動の土台になる自己管理能力などの非認知能力の育成に向け、指導改善を進めています」

下旬、岡山ドームを会場に開催される「東商デパート」だ。全学年がクラスごとに企業と連携して 1 店舗ずつ出店し、商品を販売する(図 1)。それは、クラス内で役割を分担し、マーケティング活動から決算までを行う探究学習であり、生徒の多様な学びにつながっていると、総務課長の西川信博先生は説明する。

「毎年、店舗経営を体験する生徒は、『お客様に喜んでもらいたい』『売上を伸ばしたい』など、それぞれの目標に向けて、前年度の失敗を踏まえながら、試行錯誤します。そうして得た成果は、大きな自信になるのでしょうか。多くの生徒が、東商デパートで得た学びを大学入試や就職活動の面接で語ります」

20 年度の「第 27 回東商デパート」は、コロ

図1 「東商デパート」概要

概要 各クラスが1つの会社として、1店舗ずつ出店。食品や衣料品、雑貨、玩具などを販売する。1～3年生の全クラスが参加。

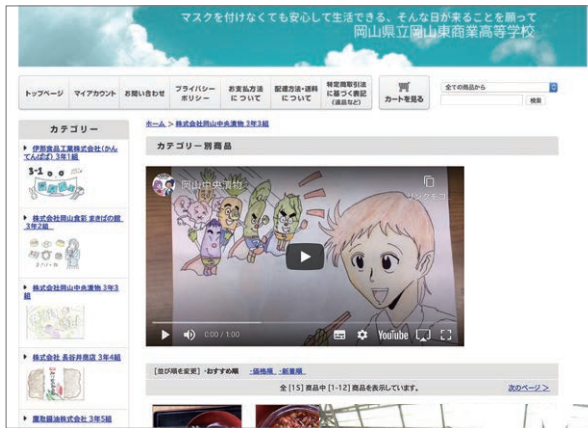
開催形式 11月下旬の1日間、岡山ドームで開催。例年約8000人が来場。

店舗経営 クラス内で、店長、副店長、営業部、管理部、サービス部、経理部、販売促進部などの担当を決めて、仕事を分担。販売計画、宣伝方法、商品の陳列なども、すべて生徒自身で行う。各クラス、1社の地元企業と連携をして、販売商品や価格などを決める。

活動時間 1・2年生はLHR、3年生は学校設定科目「起業実践」などで準備を進める。多くのクラスが、夏季休業中などにも自主的に集まって活動する。



写真は、2019年度の会場の様子。



写真上 「第27回東商デパート」のウェブサイト。商品紹介の動画などを作成し、ウェブサイトのほか、SNSを活用して開催の告知をした。
写真右 予約した商品は手渡しとし、最小限にとどめつつも、来場者との触れ合いを行えるようにした。



ナ禍という大きな壁が立ち上がった。対面販売が難しい中、どうすれば実施できるのか。その議論の中心となったのが、デパート全体の経営を担う「取締役会」だ。3年生で課題研究「東商デパート」を選択した生徒（21年度は5人）から成る組織で、代表取締役や専務などの役職を決めて仕事を分担する。

取締役会では、東商デパートの開催を楽しみにしてくれている地域の人々とのつながりを大切にしながら実施するには、どのような方法があるのかを議論。ドライブスルー形式など、様々なアイデアを検討した結果、20年

度は、インターネットで予約を受けつけ、商品を会場で引き渡す方法に決めた。

実施方法が決まると、生徒は「東商デパート2020」のウェブサイトを立ち上げ、クラスごとに店舗のページを作成し、商品紹介のオリジナル動画や、コメントを添えた商品の写真をアップ（写真）。SNSを活用して開催を告知した。開催当日は店舗間の距離を十分確保し、ビニールシート越しに商品を手渡すなど、感染防止対策を万全にして臨んだ。

取締役会は、地元企業とやり取りをし、各クラスが連携する企業を決める役割も担う。

20年度は、コロナ禍の影響もあったが、協力企業の必要数を確保することができた。教務課長の梶原由紀子先生は、こう振り返る。

「デパートがより魅力的になるよう、毎年新しい企業に協力を依頼しますが、断られる場合もあります。『もっと早く協力依頼に動き出せばよかった』などの反省も出て、計画的に取り組むことの大切さや難しさを学び、問題解決力を育むよい機会になっています」

オリジナル商品の開発を通じて、 教科学習の大切さを実感

東商デパートの目玉の1つは、3年生の選択科目「商品開発」を履修する生徒が取り組む、企業と連携して開発するオリジナル商品だ。「養鶏所と連携した卵を使った商品」などといったテーマが出され、生徒はそれに沿って、毎年、商品のアイデアを提案。その中から、コストや市場のニーズなども勘案して実現可能なものを製造・販売する。これまでに、洋菓子店と焼き菓子、地元スーパーとオリジナル弁当などを開発・販売し、好評を得てきた。商品開発は、教科学習の大切さを実感する機会にもなっていると、授業を担当する佐柳靖子先生は説明する。

「同じ商品でも、食品表示制度が変われば

表示ラベルを見直す必要がありますし、『無添加』と表示するためには、材料を指定量以下に抑えるルールを順守しなくてはなりません。商品開発を通じて、公民、化学、生物、家庭科など、多様な教科・科目の知識が必要であることを、生徒は実感します」

20年度は実施できなかったが、数年前から、地域連携の一環として地元中学生を招き、高校生と一緒に販売体験も行っている。店舗を取り仕切る先輩の姿に憧れて同校に入学した生徒も多く、中学校時代に販売体験をしたことがきっかけとなり、自身で東商デパートを手がけたいと入学し、取締役会の一員となるために課題研究を選択した生徒もいる。

すべての予定を書き込む手帳で、 自己管理ができるように

東商デパートの活動においても必要な自己管理能力の育成は、14年度に導入した「今未来手帳」(*)が大きな役割を担っている。以前は、連絡事項を書き留めなかったり、手甲に記したりする生徒が目立ち、期日を守れないなど、様々な活動に影響が出ていたと、総務課長補佐の小林眞和先生は振り返る。

「期日を守れない生徒には、口頭で注意したり、反省文を書かせたりしましたが、対症療法に過ぎませんでした。そこで、生徒が自

己管理できる仕組みをつくろうと、手帳を持たせました。活動予定をすべて自分で記入することで、ゴールを意識し、その到達に向けてすべきことを考えられるようになったのです」

生徒が常に持ち歩く手帳となるよう、活動予定の記入ページに加えて、学校行事や校則を記載したページも設け、生徒手帳のようにした。そして、手帳を使う習慣を身につけさせるため、入学時のオリエンテーションで手帳の使い方を説明。SHR、授業、学年集会、講演会など、あらゆる場面で手帳を持参させ、メモを取らせた。生徒は、入学から数か月で、手帳を持ち歩く習慣が付き、SHRの連絡事項だけでなく、講演会や企業との打ち合わせなどでも必ず記録を取るようになった。

提出物などにおいて自己管理ができるようになった生徒を見て、さらに活動を振り返る習慣も育もうと、「振り返りシート」(図2)をまずは一部の生徒に試験的に導入。シートは、「出来事」と「思い・理由・見通し」の2つの記入欄を設け、振り返りの達成レベルを5段階で自己評価するようにした。すると生徒は、毎日振り返りをするうちに、活動状況を客観的に捉え、行動を見通せるようになっていった。「社会では、1つの小さな失敗が大きな失敗につながる場合がある。自己管理は、社会人になってから生きると思う」と書き込んだ生徒もいたという。進路指導課



商業科主任
佐柳靖子 さやなぎ・やすこ
教職歴22年。同校に赴任して5年目。商業科。



デジタル室長
森隆憲 もり・たかのり
教職歴24年。同校に赴任して13年目。理科。



総務課長補佐
小林眞和 こばやし・まさかず
教職歴33年。同校に赴任して24年目。理科。



総務課長
西川信博 にしかわ・のぶひろ
教職歴21年。同校に赴任して5年目。商業科。



指導教諭・進路指導課長
三尾健一 みお・けんいち
教職歴24年。同校に赴任して5年目。英語科。



主幹教諭・教務課長
梶原由紀子 かじはら・ゆきこ
教職歴29年。同校に赴任して3年目。商業科。



校長
森山泰幸 もりやま・やすゆき
教職歴28年。同校に赴任して1年目。

* 株式会社ラーズが提供する手帳型教材。ラインナップは定型版、カスタマイズ版の2種類。岡山県立岡山東商業高校はカスタマイズ版を採用。

図2 振り返りシート

振り返りシートの導入初期

11/9 Mon	11/10 Tue	11/11 Wed	11/12 Thu	11/13 Fri	11/14 Sat	11/15 Sun
●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
プロジェクタの 授業で10分が過ぎた と気づいた。		実験で準備ができて のからんことを 気づいた。	今日は特に何も なかった。	午前授業で授業 の勉強の勉強。	秋の休業日 休上!	素晴らしい 休上!
振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。		振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。				

振り返りの内容を、①「頭の中だけで振り返る」(ぼんやり)～⑤「これからの改善や方針についても振り返る」(見通し)の5段階で自己評価する。

1か月後

12/7 Mon	12/8 Tue	12/9 Wed	12/10 Thu	12/11 Fri	12/12 Sat	12/13 Sun
●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●
数学と家庭科 のテストだった。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	英語のテストだ った。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	現代と起筆実践と 情報のテストだ った。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	社会とビジネス 実践のテストだ った。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	広告とアロのテ ストだった。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	教育の入門式で した。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	
振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。 振り返りシート の活用ができた。	

導入初期は、「東商デパートのホームページの改善点を探した。おかしな所がいくつかあって笑ってしまった」などと、事実のみの記載。

振り返りの内容を、①「頭の中だけで振り返る」(ぼんやり)～⑤「これからの改善や方針についても振り返る」(見通し)の5段階で自己評価する。

※学校資料を基に編集部で作成。

長尾健一先生は、次のような期待を語る。「日常的に活動を振り返り、それを言語化することで、自分を俯瞰的に捉える力が身についていきました。そうしたメタ認知能力を基に、学び方や生き方を前向きに切り開いていく姿勢を養ってほしいと考えています。」

変革の成果・展望

地域経済を活性化させる
起業・継業できる人材を育成

手帳の導入後、忘れ物や遅刻が減り、提出期限も守られるようになった。家庭学習時間も年々増加しており、そのことから、生徒が自己管理できるようになった様子が見える。学校評価アンケートで、「手帳を使った自己管理能力の育成ができています」と回答した教師は9割以上に上る。

そして、コロナ禍において東商デパートを成功に導いた経験を通じて、知恵を出し合い、工夫をすれば、活動は継続できることを、生徒も教師も身を持って学んだ。

今後の課題は、個別最適な学びや働き方改革に向けたタブレット端末の活用だ。同校では、18年度から生徒用端末の導入が始まり、

20年度に全教師、21年度に1年生全員に各1台が配備された。授業でのタブレット端末の活用が浸透しつつあることから、生徒の活動を記録するポートフォリオのデジタル化や、保護者面談の日程調整をデジタル管理に移行するなど、活用の場を広げていきたいと、デジタル室長の森隆憲先生は説明する。

「当初は、教師からICT活用に戸惑う声が上がりましたが、今では職員会議資料のペーパーレス化が進むなど、理解が得られてきています。今後は、学校外での学びにもタブレット端末を活用していく予定です」

同校の使命である地域人材の育成も、新たな局面を迎えている。22年度、ビジネス創造科総合ビジネスコースに「起業・継業類型」を新設予定だ。

「人口減少の影響による県内の企業数の減少は、若者の都市部流出をますます加速させます。地域産業の活性化のためには、会社を興し、継続させる人材が必要です。そうした人材の育成に向けたカリキュラムを、県内の商業高校で初めてスタートさせます。起業コンテストへの参加や地元商店街と連携した店舗経営など、商業高校のフロントランナーとして、新類型のあり方を模索していきたいと考えています」(森山校長)

お勤めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

学年団

担任



学年団を訪ねて

学力多層化の現状を丁寧に分析し、自律した学びを目指して指導を更新

宮城県柴田高校 2学年団

地域の少子化が進み、2020年度高校入試では、普通科、体育科ともに志願倍率が1倍を下回った同校。入学生の学力幅が非常に大きい中、各学力層に対して適切な支援を行うことで、すべての生徒の夢を実現する学年づくりを目指し、学年団は動き始めた。



直面した課題

- ◎入学生の学力の多層化が課題となっていた。特に、学力上位層の学習意欲を喚起し、高い志望を実現するために、指導の改善の必要性が高まっていた。
- ◎ICTを活用し、個に応じた教科指導を充実させる中で、生徒に主体的に学習に取り組む態度を育むという新たな課題が見えてきた。

学校概要

「自律・敬愛」「英知・創造」「忍耐・強靱」を校訓に掲げ、創立以来、6千余名の人材を送り出してきた。特に、スポーツにおいては、普通科・体育科の別なく、これまでに日本代表選手、国民体育大会・全国高等学校総合体育大会優勝選手、複数のプロ野球選手を送り出してきた。2021年には、野球部が第93回選抜高等学校野球大会に出場を果たした。部活動が活発な同校では、地域貢献活動も部活動単位で行っており、運動部による近隣の小・中学生への技術指導、文化部による施設訪問、さらに生徒会主導による駅周辺や通学路の清掃などのボランティア活動に取り組んでいる。



設立 1986(昭和61)年
形態 全日制/普通科、体育科/共学
生徒数 1学年約160名

2021年度進路実績(現役のみ) 4年制大は、福島大、東北学院大、宮城学院女子大、東京国際大、国際武道大、日本体育大などに64人が合格。短大・専門学校進学51人。就職38人。

生徒一人ひとりの実態を把握し、 学年団の指導の目線を合わせる

宮城県柴田高校では、近年、同校への志願者数の減少を背景とした入学生の実力が多層化が課題となっていた。20年度1学年主任となった佐藤瞬先生は、学力中下位層の生徒への支援はもちろん、学力上位層への指導を充実させる必要性を感じていた。

「どの学力層の生徒も、自分の目標の実現に向けて行動できるようになってほしい。生徒に必要な指導を明確化するため、まずは生徒の実態を把握しようと考えました」

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休業が明け、生徒が登校を再開した20年6月、1学年の全4クラスで「目標設定ワークシート」(P.42図1)の記入に取り組ませた。

同シートは、現在の自分を、性格、学力の面から分析した上で、高校卒業時の自分のありたい姿を描き、その実現のために何をすべきかを生徒に逆算して考えさせるといったものだ。20年度1学年団でクラス副担任を務めた小野寺浩子先生は、同シートを用いた生徒理解の成果を、次のように説明する。

「現時点での自分の強みや得意なこと、さらに苦手なこともワークシートに書き出した上で、これから自分はどうありたいかを考え、

それをスローガンの形で表現させました。これからの自分を筋道立てて表現できる生徒もいれば、目指す進路がぼんやりしていて表現力に乏しい生徒もいて、同じ学年でも生徒の現状は多様なのだと実感しました」

6月に記入した同シートの内容と7月の定期考査の結果によって、生徒の学力が多層化している状況を、学年団で共通理解することができたと、佐藤瞬先生は振り返る。

「学力や進路意識、表現力など、生徒を多面的に把握した結果、一斉指導を充実させるだけでなく、生徒一人ひとりに応じた指導を工夫していこうという機運が高まりました」

ICTを活用して、 学力層別に学習を支援

幅広い学力層への対応として、1学年団は7月から、「Classi学習動画(※)」の配信を開始した。配信を希望する生徒を学力レベル別に3つのグループに分け、各レベルに合わせた国語、数学、英語の学習動画を毎週2、3講義ずつ配信した。クラス担任の北郷剛先生は、生徒の学びに向かう姿勢の変化に手応えを感じた。

「例年、指導が後回しになりがちだった学力上位層の生徒は、レベルの高い学習動画を



リーダーに聞く！ 5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？
A 目的と手段が明確に共有され、ワクワク感を持って、成果を出せるチームです。

Q リーダーとして心がけていることは？
A リーダーとして逆算してすべきことを考え、率先垂範で取り組むことです。また、学校は閉鎖的でなく、社会にシームレスにつながっていると意識しやすい環境をつくろうとしています。

Q 学年団としての「成功」は？
A 生徒と教師が自分らしくいられる日々を過ごし、卒業式の日、「柴田高校に進学してよかった」と、1人でも多くの生徒が言ってくれること。

Q リーダーとして自覚する
長所は何ですか？
A リーダーとして自覚するスピード感です。よいと思ったことはすぐに取り入れますし、この学年には合わないと思ったことはすぐに軌道修正します。

Q リーダーとして自覚する
短所は何ですか？
A ほかの人に任せられずに、つい自分で物事を進め過ぎることです。そのため、同僚に仕事を適切に配し、全員が当事者意識を持って業務に向かえるよう、マネジメントすることを意識しています。

* 「Classi」は、株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。そのうち、「Classi学習動画」には、義務教育の範囲から高校の教科書の範囲まで、約12,000本の解説動画を搭載。

図1 目標設定ワークシート

佐藤瞬学年団では、1年生6月、2年生4月に、全クラスが「目標設定ワークシート」の記入に取り組んだ。生徒が記入した目指すゴールとそれを達成する高校生活を、教師は生徒理解の材料として活用した。
※学校資料をそのまま掲載。

視聴すること、『日々の授業についていけるから大丈夫だと油断してはいけない』と気がついたはず。また、学力下位層の生徒は、『基礎レベルからやり直していったもよいのだ』と安心感を得たと思います」

12月には、Class.の新機能「学習マップ連携課題配信」を活用し、各生徒に、ベネッセのアセスメントの結果に応じて自動的に選定された課題を配信した。さらに、1学年団で

は、冬季休業中の5教科の課題についても、3つの学力レベル別で準備するなど、各学力層に対応した学習支援は順調に進んだ。だが、佐藤瞬先生は、生徒たちの様子に新たな課題を感じ取っていた。

「ICTを活用することで、生徒の学力に応じた課題の提供が可能になったのは大きな進歩でした。ただ、その一方で、課題が与えられた状況で学ぶことがやや常態化してしまい、生徒の自律を妨げていると考えるようになりました」

生徒一人ひとりに合った課題提供がICTによって可能になった今、自分たち教師ができること、力を入れるべきことがあるのではないかと……佐藤瞬先生が出した答えは、教師が生徒と対話する機会を増やし、自律して学習に取り組む態度を生徒に育むことだった。

「2学年に持ち上がってすぐ、学年団の先生方に『チューター制自主学習サポート』という取り組みを提案しました。それは、4人の副担任と進路指導部長、そして私の計6人の中から、チューターとして『この先生に学習の伴走をしてもらいたい』という教師を生徒が選び、自ら学習の進捗や課題を報告し、時には悩みを相談しながら学習を進めるものです。担任や部活動顧問とは異なる立場で高校生活を支えてもらえる第三の関係を生徒が自分でつくりながら、自律した高校生活を過

図2 個人学習 Management Sheet

「チューター制自主学習サポート」に参加する生徒は、学習状況や希望進路などを本シートに記録し、チューターの教師と共有する。

※学校資料をそのまま掲載。

「チューター制自主学習サポート」には、2学年の生徒の4分の1が参加を希望し、6人のチューターは2〜10人の生徒を受け持った。生徒は、「個人学習 Management Sheet」(図2)に、どの教科を、何を使って、どれだけ学習したのかを記録し、チューターと共有する。チューターの1人である進路指導部長の佐藤祥先生は、毎週、職員室で1人10分程度、生徒と面談をしているという。

「生徒は、『今週は部活動を優先したので、



学年団を訪ねて



2学年担任
北郷剛 きたこう・たけし
教職歴7年。同校に赴任して3年目。
理科。



2学年担任
小野寺浩子 おのでら・ひろこ
教職歴36年。同校に赴任して7年目。
家庭科。



主幹教諭・進路指導部長
佐藤祥 さとう・やすし
教職歴31年。同校に赴任して2年目。
数学科。



2学年主任
佐藤瞬 さとう・しゅん
教職歴10年。同校に赴任して6年目。
英語科。

2年生2学期を迎えた生徒たちに、学年団の教師たちはそれぞれ手応えを感じている。

生徒、教師双方に 自分をデザインする力を育む

来週は勉強を頑張りたい』とか、『最近こんな進路に興味を持っている』などと、いろいろなことを話してくれます。教師との対話を通じて、自分の現状を確認することで、主体的に学習に取り組むことができます」

特に、学力上位層の生徒の変化は顕著だ。

「私は今年度、学力上位者が多いクラスの担任を務めています。放課後、生徒が教室に残って自習するなど、今まではなかった姿が見られるようになりました。2年生9月の段階で、ほぼ全員が志望校を決めています」
(小野寺先生)

佐藤瞬先生は今後、すべての生徒に自分のことをデザインする力を身につけさせたいと考えている。学力上位層の生徒が、「もう自分にはチューターの支援は必要ありません。1人で大丈夫です」と言ってきたり、チューターに関心を示さなかった生徒が、「私もサポートしてほしい」と申し出たりと、自己変革の一步を踏み出すことを期待している。

「生徒だけではなく、私たち教師も、さら



先生方が前を走る 学校をつくる 土生善弘校長

本校では、公募制で学年主任と分掌部長を任命しています。それゆえ、校長の私は、「自分の力で学校を変えよう」という気概を持つ先生方を全力で支援します。先生方が校長よりも先を歩こうとすることで、学校改革が進んでいくのです。

* 学年団 輝きのポイント *

- * 生徒の実態を丁寧に把握したことで、学年課題への共通理解が図られ、学年団が一丸となって指導に取り組めた
- * 指導改善の手応えが得られても、さらに改善すべき点はないか、学年団で自問自答を続けた

に自己変革を続けていきたいと思っています。2学年でクラス担任を務めることになった小野寺先生は、『以前、他校で担任を務めた時に、学力下位層に手をかけた一方で、学力上位層には十分な指導ができなかった。だから、今年度の2学年ではクラス担任を務めたい』と、ご自身の意志を私に伝えてくれました。教師としての自分の課題を掲げ、前に進むとする小野寺先生は、まさに自分をデザインする力を発揮していると感じました。教師の姿勢は必ず生徒に伝播します。デザインする力で、多くの生徒・教師が自己変容を促せるような学年団を目指していきたいと思えます」

いじめの防止と対応

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東京大学大学院法学政治学研究所公法専攻博士課程単位取得退学。1996年、日本女子大学に赴任。専門は、憲法学、公教育制度論。今年9月に『新訂第4版 図解・表解教育法規』（共著、教育開発研究所）を出版。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればよいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第4回は、いじめの防止と対応について、法的視点を踏まえて解説する。

よかれと思ってとった行為がいじめに捉えられるケースも

る行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

いじめを早期発見し、重大事態となるのを防ぐため、2013年、「いじめ防止対策推進法」が施行されました。各校では、同法で義務づけられた「学校いじめ防止基本方針」を策定し、学校いじめ対策組織を設置して、いじめ防止に努めていると思います。ただ、各地でいじめに関する研修を行っていて感じるのは、同法で示されたいじめの定義や対応の考え方が、まだ十分には理解されていないということです。同法では、いじめはこう定義されました。

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える

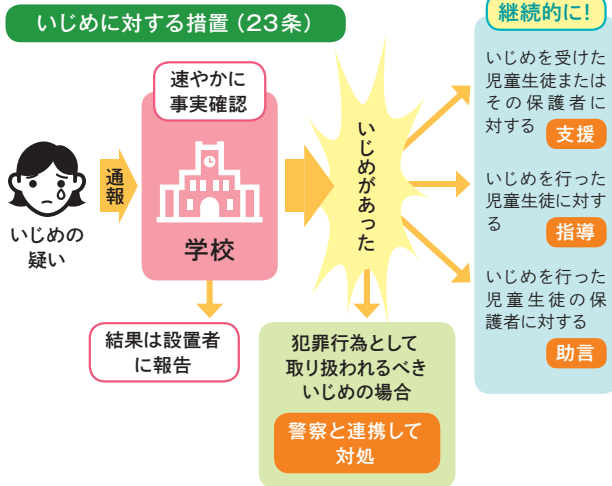
傍線部がいじめの4要件です。ここでは被害者の主観が重視され、加害者の意図は問われていません。例えば、部活動の練習を怠けたAさんを、Bさんが注意したところ、Aさんは強くとがめられたと感じ、精神的苦痛を受けたと訴えたとします。Bさんの行為はチームの一員としての自覚を促したのですが、Aさんが苦痛を訴えたため、学校はいじめと捉えて対応する必要があります。心身の苦痛を訴えた生徒を、放っておいてはいけません。いじめへの対応も、被害者を第一に考えて行うよう、法律は明示しています（☒）。被害者とその保護者を「支援」し、加害者には「指

いじめを未然に防ぐために

- ✓ いじめの4要件にあてはまるものは、すべていじめと捉える意識を持つ。
- ✓ 何よりもまず、被害者に寄り添った支援を。
- ✓ 早期発見に向けて、多様な立場の教師がかかわり、一部の教師で問題を抱え込まない。
- ✓ 保護者に学校のいじめ対策の方針や体制を説明し、学校と保護者が協力していじめ防止にあたることを伝える。

* 1 文部科学大臣決定「いじめの防止等のための基本的な方針」（最終改定平成29年3月14日）において、「例えば、好意から行った行為が意図せずに相手側の児童生徒に心身の苦痛を感じさせたような場合、軽い言葉で相手を傷つけたが、すぐに加害者が謝罪し、教員の指導によらずして良好な関係を再び築くことができた場合等においては、学校は、『いじめ』という言葉を使わず指導するなど、柔軟な対応による対処も可能である。ただし、これらの場合であっても、法が定義するいじめに該当するため、事案を法第22条の学校いじめ対策組織へ情報共有することは必要となる。」としている。

図 いじめに対する措置のポイント



「いじめ防止対策推進法」23条では、被害者には「支援」、加害者には「指導・助言」と厳然と分けて示している。犯罪行為として扱うべきいじめは、学校で抱え込まずに、警察と連携して対処することも定められた。
 ※坂田仰『新訂第4版 図解・表解教育法規』（共著、教育開発研究所）を基に編集部で作成。

「導」、その保護者には「助言」をします。そして、いじめの再発防止・根本的な解消に向けて、支援・指導を「継続的に」行います。先に挙げたAさんとBさんの場合、まずAさんにカウンセリングなどを行って精神的回復を「支援」し、Bさんには苦痛を与えた言い方などについて「指導」し、再発防止に努めます。そうして、いじめ防止への対応を継続しながら、生徒の状況に応じて、教育活動の一環として行われる部活動への参加のあり方を考える機会などを設けることとなります。つまり、いじめの4要件にあてはまるものは

すべていじめと捉え、手順にのっとって対応するという意識への転換が必要です（*1）。

外部人材も構成員とした いじめ防止の組織を常設

各校が組織的かつ能動的にいじめの防止に努めることも、同法で定められました。具体的には、いじめに関する調査の定期的な実施があります。アンケート調査を学期に1回程度実施する学校が多く、実際、アンケートはいじめ発見の有効な手段です（*2）。

いじめ防止の校内組織の常設も求められています。いじめ防止に関する教育活動や教員研修の実施、相談窓口、アンケート調査の実施などを担う部署で、生徒指導部とは別に設置することが望ましいとされています。同組織の構成員は、管理職や生徒指導担当の教師、学年主任、養護教諭などに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、さらに地域の民生委員などの外部人材を加えます。日常的に多様な立場の教師がかかわり、いじめを早期発見するとともに、いじめの対応を一部の教師で抱え込まず、管理職にも速やかに報告し、外部の専門家の知見を得て、適切な支援・指導につなげるといふねらいがあります。同組織の活発な活動が、いじめ防止

につながると言えるでしょう。

なお、同法では、子の教育に第一義的責任を負う保護者は、子にいじめを行わない規範を養う努力義務と、いじめられた場合に子を守る義務があることが示されています。保護者会等で、学校のいじめ対策の体制などを説明し、学校と保護者が協力していじめ防止にあたることを伝えておくといふでしょう。

生徒を守るための 予算措置を継続して求める

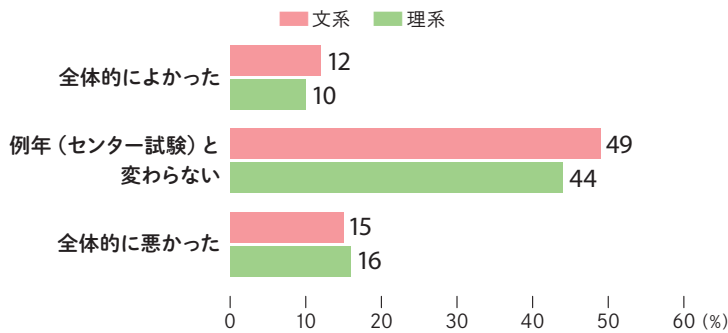
起きてほしくはありませんが、いじめにより、自殺や不登校などの重大事態が起きた場合、学校は設置者に報告し、教育委員会・法人または学校に、事実関係を明確にするための調査を行う第三者委員会を設置します。法にのっとった対応の迅速な遂行が事態を悪化させないためには重要ですが、残念ながら、速やかに第三者委員会が設置されないことがあります。その理由の1つが予算です。長期化する調査には人件費が膨大にかかります。先に述べた校内組織への外部人材の登用にも、予算が必要です。生徒を守るためには人的・予算的支援が必要な点を国や自治体、法人に伝え続けることも、今後の備えにつながることで、重要ではないかと考えます。

*2 文部科学省「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」において、「いじめ発見のきっかけ」で最も多かったのは、高校の場合、「アンケート調査など学校の取組により発見」で48.2%、次いで「本人からの訴え」で26.4%だった。

生徒に学習の自走化を促す指導が「大学入学共通テスト」の結果につながる

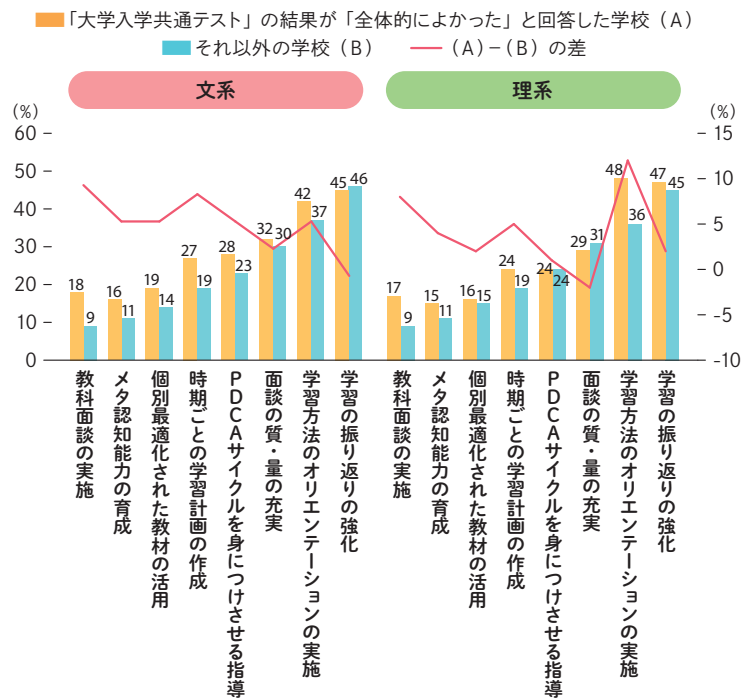
ピックアップデータ
ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」(*)

データ1 「大学入学共通テスト」の結果に対する認識



注) 数値は、「大学入学共通テスト」の受験者がいると回答した学校(939校)に対する割合。「その他」を選択した学校があるため、グラフの合計値は100%とならない。

データ2 「大学入学共通テスト」の結果の認識別・20年度卒業生に実施した指導



注) 「大学入学共通テスト」の結果が「『全体的によかった』と回答した学校」は、文系で109校、理系で98校、「それ以外の学校」は、文系で830校、理系で841校。

* 調査概要◎【調査方法】郵送法による依頼、ファクス・ウェブによる回答、【調査対象】全国の国公立・私立高等学校、中等教育学校の進路担当者、【調査期間】2021年2～3月、【有効回収数】1,024

2021年度大学入試から始まった「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)。1回目の共通テストを終えて、全国の教師はどのような手応えや課題を感じたのか、ベネッセ教育情報センターが、2021年2～3月の期間でアンケート調査を行った。

難化が予想されていた共通テストだったが、平均点は20年度センター試験よりも上昇。本調査でも、共通テストの結果に対する認識が、「例年(センター試験)と変わらない」と回答した学校は約半数だった(データ1)。一方で、「自学自習ができた生徒とそうでない生徒とで、結果に差があった」という所感が多く見られた。

そこで着目したのが、共通テストの結果が「全体的によかった」と回答した約1割の学校だ。「全体的によかった」と回答した学校と、それ以外の学校が行った指導を比較すると、「個別最適化された教材の活用」や「面談の質・量の充実」などの、教師から生徒に機会を与える取り組みよりも、「教科面談の実施」「時期ごとの学習計画の作成」「学習方法のオリエンテーションの実施」など、生徒が学習において自走するための取り組みを、「全体的によかった」と回答した学校の方が多く実施していることが分かった(データ2)。コロナ禍で指導の機会が制限された中、生徒が自ら学習の質を高められるよう、生徒の自走を促したことが、共通テストの結果につながったのだろう。

21年度大学入試に関する本誌8月号の特集も、ぜひ、ご覧いただきたい。

For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に
役立つ事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.48

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

世界史 石川県立加賀高校 前田鷹^{たかと} 函

P.48

「少しだけ背伸びをさせる」問いで、
生徒が自己肯定感を得られる授業を目指す

数学 京都府・私立東山中学・高校 山本晃^{あきひろ} 弘

P.52

厳密性と視認性の両面からのアプローチで
深い理解に導き、学習意欲を引き出す

P.56

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任



SDGsの
視点で見る
大学の学び

持続可能な社会の実現に向けた
問題解決に取り組む大学の研究とは？

目標1●貧困をなくそう、目標11●住み続けられるまちづくりを
目標17●パートナーシップで目標を達成しよう

関西大学 社会学部
社会システムデザイン専攻 草郷孝好^{くさごうたかよし} 研究室

P.56

目標11●住み続けられるまちづくりを

長岡造形大学 造形学部
建築・環境デザイン学科 環境計画・保存コース 渡邊誠介^{わたべまこと} 研究室

P.58

P.60

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

これからの
進路指導のための
世の中トレンド解説

生徒の将来に影響する社会の動きが「学ぶ」「働く」「暮らす」の視点で分かる
トレンド・ワード データサイエンス

P.64

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

担任

誌上で見学  学びのnext

これから求められる学びとは？
一歩先を行く授業を実践者が紹介

小論文合同学習会
近畿地区専門高校3校連携

学校や学科、環境が異なる生徒同士で、
視点や考え方の多様性を学び、視野を広げる

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

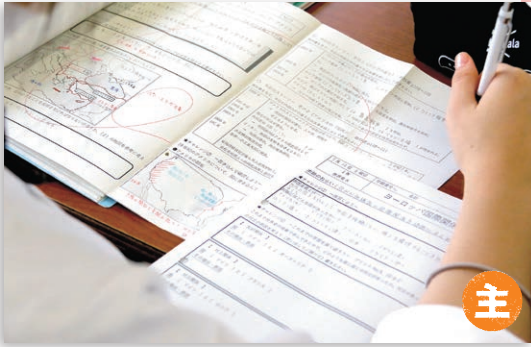
世界史

「少しだけ背伸びをさせる」問いで、

生徒が自己肯定感を得られる授業を目指す

石川県立加賀高校 前田鷹^{たかと}図

8:50 本時のテーマの説明と前時の復習



前田先生はまず、中学校で既に学習した第一次世界大戦の要因となった欧州の対立構造について、その原因を考えることが本時のテーマであると伝えた。その後、生徒はワークシートのチャレンジ①に取り組み、帝国主義や欧州列強諸国など、前時までの既習事項を復習した。

本時のキー課題

9:17 国際関係を図示



「まず、それぞれの国の場所はどこかな？」という前田先生の言葉を受け、生徒は国のカードを地図上に並べ始めた。国同士の関係性が分からず考え込むグループに、前田先生は、「ドイツに住む民族は？」「ドイツとフランスは、なぜ対立していたのかな？」などと、ヒントになる問いを投げかけた。

本時の概要

【対象／教科／科目】1年生／地理歴史／世界史A 【分野・単元】帝国主義と第一次世界大戦（本時は、全7時間のうちの2時間目。P.51に指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】知識、技能、思考力、表現力、主体性、協働性
 【学習内容】前田先生作成のワークシートの課題に取り組んだ。チャレンジ①は、既習事項の復習に個人で取り組み、チャレンジ②は、欧州列強諸国の国際関係を整理する課題に個人で取り組んだ上で、その内容をグループで共有。チャレンジ③では、国際関係を地図上に図示する課題に、グループで取り組んだ。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

まえだ・たかと 教職歴11年。同校に赴任して5年目。進路指導課。地理歴史科。前任は中学校の社会科の教師。先進校の事例などから学ぶ、主体的・対話的で深い学びの研修を通じて、研鑽を積む。

学校概要

◎2000年度、普通科から総合学科に改編。南加賀地区唯一の総合学科高校となる。3年間を見通したきめ細かなキャリア教育を行い、生徒の進路実現を支援。基礎学力の充実のため、1年次は独自の学び直し教材「加賀ベーシック」に取り組む。2年次に興味・関心や希望進路に応じて、進学（人文・理数）系列、生活・福祉系列、ビジネス系列の3系列から履修科目を選択する。

◎設立 1973（昭和48）年

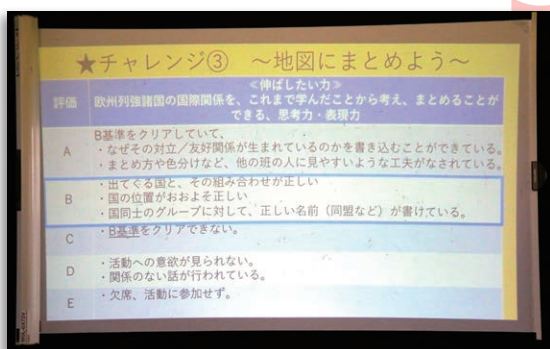
◎形態 全日制／総合学科／共学

◎生徒数 1学年54人、2学年55人、3学年45人

◎2021年度進路実績 卒業生26人中、短大・専門学校進学8人、就職15人。



9:16 チャレンジ③のルーブリックを説明



前田先生は、チャレンジ②で整理した欧州列強諸国の国際関係を地図上に図示するチャレンジ③の課題について説明し、5段階の尺度のルーブリックをスクリーンに映した。そして、「B基準まで到達できるように、グループで協力して取り組みましょう」と、生徒に呼びかけた。

9:00 列強諸国の関係を整理



既習事項を活用し、欧州列強諸国の友好・対立関係を整理するチャレンジ②に取り組んだ。個人で取り組んだ上で、その内容を4人1組のグループで共有。「汎ゲルマン主義って何?」「普墺戦争が起きた理由は?」などと、問いかけ合い、生徒は分からない点を教科書や資料で調べた。

9:31 ほかのグループの地図を共有



前田先生は、生徒が完成させた地図を撮影してスクリーンに映し、「欧州列強諸国に、日本はどのようにかかわったのかを調べてみよう」と、次なる問いを投げかけた。その後、完成した地図を各自がワークシートに整理したところで授業の終了時刻を迎えたため、本時の振り返りは次時に行うことにした。

本時のキー課題

9:20 国際関係を図示



国のカードを線で結んだり、囲んだりして、三国同盟・三国協商などの構図を示した。関係のある国を同じ色で囲んだり、国同士を結ぶ線の色を関係性の違いによって分けたりと、どのグループも、国の関係性が視覚的に分かりやすくなるよう、工夫していた。

●私が目指す授業

歴史の流れや出来事の要因をつかむ、生徒主体の授業

前任の公立中学校では、高校入試を意識するあまり、知識を教え込む講義形式の授業をしがちでした。本校に赴任し、学習が苦手な生徒を目的のあたりにしたことで、これまで目を配れていなかった生徒がいたことに気づかされました。

本校の生徒の大半は、卒業後、専門学校に進学したり、就職したりします。そのため、授業と進路が直結しないと捉えている生徒が少なくなく、そうした生徒が歴史を学ぶ意義を感じ、主体的に学習に向かえるよう、授業を工夫しています。

具体的には、生徒主体の活動を授業の中心に据え、教師の講義は全体の3〜4割程度にしています。そして、歴史の面白さや魅力が伝わるよう、歴史用語や年号などの知識を教えることよりも、歴史の流れをつかみ、出来事の原因を理解できるようにすることを重視しています。私が話す内容はシンプルにし、生徒が理解しやすい表現を心がけ、教科書で太字になっている語句は、歴史の流

研究していきます。

世界史が得意でも苦手でも、主体的に取り組める授業を、これからも追究していきます。

今後の課題は、どの生徒も前向きに学べる授業デザインの構築です。

「授業は分かりやすいか」「授業は果では、「自分の考えを書いたり話したりする場面があるか」「授業は分かりやすいか」の肯定率（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）は、どちらも高い結果でした。

本校に赴任して5年目となり、生徒主体の授業が実現しつつあると手応えを感じています。以前は、生徒のワークシートには無解答が目立ちましたが、今は、多くの生徒がすべての問題に対して解答しています。背伸びをさせる問題も、すぐに諦めず、自分なりに答えを出そうと考える姿勢が身につくつとあると感じています。生徒の授業アンケートの結果では、「自分の考えを書いたり話したりする場面があるか」「授業は分かりやすいか」の肯定率（「とてもそう思う」「そう思う」の合計）は、どちらも高い結果でした。

●成果と展望

難しい問題でも、自分なりに考えるように

史用語などの知識は選択式問題とし、出来事の原因などを記述させる問題に重点を置いていきます。また、設問ごとに評価の観点を明記しています。

単元の指導計画

【教科・科目】地理歴史・世界史A 【分野・単元】帝国主義と第一次世界大戦 【テーマ・作品】ヨーロッパの国際関係の緊張
 【設定時数】全7時間（本時は2時間目） 【単元目標】帝国主義の潮流が、どのように第一次世界大戦に向かっていったかを理解する。また、第一次世界大戦がその後の世界にどのような影響を与えたのかを理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	急変する社会と、帝国主義の潮流	19世紀の社会の変容を、国際化・国民意識の高まり・帝国主義の3点で捉えることができる。 【知識】	① 19世紀の世界がどのように変化していったのか、そのプラスの面とマイナスの面を考え、教科書から該当する部分を探し、理解する。 ② 各国の国民がいかに関心意識を獲得していったのかを、資料を基に考える。 ③ 帝国主義の潮流がどのように世界に広がっていったのか、風刺画を基に理解する。	【主体的な学び】教科書から読み取れる内容をワークシートに構造化してまとめさせることで、自分の頑張りでワークシートが埋まっていく実感を持たせられるようにする。	ワークシート 授業中の様子
2	ヨーロッパの国際関係の緊張 ①列強諸国の対立と同盟	既習事項を活用しながら、第一次世界大戦前の国際関係について、言語化・図示できる。 【思考力、表現力、主体性、協働性】	① 第一次世界大戦前の国際関係を、ドイツを中心に、既習事項を基に考える。 ②①で考えたことを地図上に落とし込み、地政学的な理解の下に、対立の原因を考察する。	【主体的な学び】既習事項を生かして理解を深められるよう、ワークシートを工夫する。 【対話的な学び】学習の理解度が異なる生徒同士で助け合い、最低限理解すべきラインに到達できるようにする。 【深い学び】発展的な内容として、地政学的な観点などを踏まえた理解ができるような発問をする。	ワークシート 授業中の様子
6	ロシア革命と社会主義国家の成立	ロシア革命が画期的だった理由と、列強諸国が社会主義革命に反発した理由を、風刺画から読み取り、考察できる。 【思考力】	① ロシアで起こった革命の経緯を、教科書で確認する。 ② 社会主義国家が成立したことが、他国にどのような衝撃を与えたのか、風刺画から読み取る。	【対話的な学び】風刺画から読み取った内容をグループ内で共有し、複数のポイントを有する風刺画について理解する助けになるようにする。 【深い学び】ソ連の成立を単なる歴史的事象として終わらせず、他国への影響を考えさせることで、学習に深まりを持たせる。	ワークシート 授業中の様子
7	ヴェルサイユ体制と国際連盟	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制の問題点を、風刺画から読み取り、考察できる。 【技能、思考力】	① ヴェルサイユ体制とワシントン体制がどのように成立したか、教科書で確認する。 ② ヴェルサイユ体制に内在されていた問題を、風刺画から読み取り、考察する。 ③ ②の問題が現代の課題に通じる点を考察する。	【対話的な学び】英字を含む風刺画の読み取りをグループで行い、生徒が学び合う場を設ける。 【深い学び】ヴェルサイユ体制と現代の課題を比較し、考察することで、理解を深められるようにする。	ワークシート 授業中の様子

※前田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

数学

厳密性と視認性の両面からのアプローチで

深い理解に導き、学習意欲を引き出す

京都府・私立東山中学・高校

山本晃弘 あきひろ

本時の概要

【対象／教科／科目】2年生／数学／数学Ⅲ 【分野・単元】三角関数の微分・積分（本時は、全6時間のうちの5時間目。P.55に単元の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】思考力、主体性、協働性
 【学習内容】三角関数の極限の公式を証明した後、その公式のグラフを描くこととなるか予測した上で、「GeoGebra スイート」(*)でグラフを描いた。次に、三角関数の導関数を定義に従って求めた後、そのグラフを「GeoGebra スイート」で描くことで、視覚的な理解を促進した。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

8:30 本時の目標を説明



山本先生は、本時の学習目標は、微分・積分を数式で確認することに加え、「GeoGebra スイート」で視覚的にも理解することと説明。「疑問点は、グループで教え合いたいでしょう。また、グラフを描いた後、関数を変えてみると、新たな気づきがあるかもしれません」と伝えた。

9:00 三角関数の導関数を求める



次に、課題1で確認した公式を用いて $\sin x$ の導関数を求める課題2に進んだ。課題文の中に示された導関数の定義と、三角関数の和積の公式をヒントに、生徒はグループで取り組んだ。机間指導で生徒が手詰まりになった様子を見取った山本先生は、全体に向けてポイントを解説した。

やまもと・あきひろ 教職歴8年。同校に赴任して9年目。数学科。2学年担任。ICTサポート課。2019年度、日本私学教育研究所の委託研究員として、「数学の能動的学習を促す授業展開」の研究に取り組んだ。

学校概要

◎明治元年に京都・知恩院内に設けられた学問所が始まり。「ほめる文化、認める文化、見守る文化、支える文化」を軸とする「NEO 東山文化」を教育環境として整え、「土台力」「セルフ・リーダーシップ」の育成を図る。高校では、希望進路別に「バスカル」「クレセント」「トップアスリート」の3つのコースを有する。

◎設立 1868（明治元）年

◎形態 全日制／普通科／男子校

◎生徒数 1学年約400人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、一橋大、金沢大、岐阜大、滋賀医科大、京都大、大阪大、九州大などに83人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、大阪医科薬科大、関西医科大などに延べ736人が合格。



*1 本時の授業で活用したのは、幾何、代数、解析を1つに結びつけた動的数学ソフトウェア。数学学習・数学教育用として無料で利用できる。(Copyright©International GeoGebra Institute, 2013)

08:50 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ のグラフを予測

「 $y=\sin x$ と $y=x$ の位置関係はどうなると思う?」と、山本先生は発問。グループで予測した内容を「Google フォーム」(*2) に入力させた。「原点で交わる」「接する」など、入力された予測を先生が読み上げて全体で共有した上で、アプリを使ってグラフを描き、予測が合っているかを確認した。

8:35 三角関数の極限の公式を証明する



まず、三角関数の極限の公式を証明する課題 1 に取り組ませた。山本先生は、数学でよく活用するだけでなく、物理でも応用される重要な公式であると説明。二等辺三角形・扇形・直角三角形の面積に着目させた上で、生徒に 2 分間考えさせた後、はさみうちの原理を用いながら解説した。

本時のキー課題

9:30 生徒の気づきを全体で共有



$\cos x$ を微分すると $-\sin x$ に、さらにそれを微分すると $-\cos x$ になると気づいた生徒を指名し、発表させた。補足として、 $-\cos x$ を微分すると $\sin x$ となり、ループすることを説明。それらは 2 学期の授業でも活用すると伝えた。最後に、本時の振り返りを「Google フォーム」に入力させた。

9:10 三角関数の導関数のグラフを描く



山本先生は、「定義に従って確認したことを、視覚的にも確認しましょう」と生徒に声をかけ、アプリで $\sin x$ の導関数のグラフを描き、それが $\cos x$ になることを確認させた。さらに、「グラフが描けた人は関数や値を変えて、どのように変化するかをいろいろ試してみてください」と促した。

● 私が目指す授業

内容が高度化し、進度が速くても、主体的に学習に向かえるように

学習内容が高度化する数学Ⅱや数学Ⅲに入ると、数学が好きな生徒でも、苦手意識を持つ分野や単元が増えます。加えて、本校では、難関大学への現役進学を志す生徒が多いことから、授業の進度が速く、次第に問題をこなすことで精いっぱいになってしまふ生徒が少なからず見受けられます。そうした生徒が、数学への関心を持って主体的に学習を続けられるようにすることが、授業づくりでの課題でした。

また、今は分かりやすい学習動画が数多くあり、それらを活用すれば 1 人でも学習することは十分可能です。そのため、授業では、集団で学ぶ利点を生かし、生徒の主体性と協働性を発揮させたいと考えました。反転学習を取り入れて、授業前に私が作成した動画や教科書などで授業に関する基本知識を学習させ、授業ではその知識を活用し、グループで取り組ませています。

生徒にとって理解が難しい内容について「GeoGebra スイート」(*1、

*2 アンケートを作成し、そのアンケートの集計や分析を行えるオンラインツール。

以下、アプリ)で図やグラフを描かせています。公式の持つ意味などを、数式による厳密な説明に加えて、視覚的にも考察をさせることで、理解を深められるようにしています。

●私の発問・課題設定の観点

イメージを持たせることで、
数式の本質的な理解を促進する

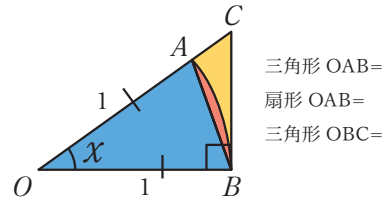
本時の学習内容は、三角関数の微分・積分です。数学Ⅲの基本事項であるため、生徒が本質を理解できるように授業展開としました。

具体的には、課題1で三角関数の極限の公式を証明した後、課題2でその公式を活用し、 $\sin x$ を微分すると $\cos x$ になることを導かせました。そして、本時のキー課題である課題3で、アプリを用いて $\sin x$ を微分したグラフを描き、 $\sin x$ を微分すると $\cos x$ になることを視覚的にも確認させました(図)。

課題設定で工夫したのは、三角関数の微分の公式を理解させてから、アプリでグラフを描かせた点です。アプリを先に使うと数式を視覚的に捉えられますが、表面的な理解にとどまりがちです。アプリはあくまで補助教材であり、数式などによる厳

図 本時の課題1~3

課題1 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ が成り立つことを確認しよう。



三角形 OAB < 扇形 OAB < 三角形 OBC であるから……

$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ のグラフを描いてみよう。



アプリでグラフを描き、予想と合っていたかどうかを確認した。

課題2 $\sin x$ を定義に従って微分しよう。

$$\text{導関数の定義: } f'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h}$$

$$\text{差の公式: } \sin A - \sin B = 2 \cos \frac{A+B}{2} \sin \frac{A-B}{2}$$

$$(\sin x)' = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{\sin(x+h) - \sin x}{h}$$

課題3 アプリで微分積分を描こう。

- $y = x^3$ の微分をアプリで描こう。
点Aを動かし、点Bの残像を見てみよう。
- $y = x^2$ の積分をアプリで描こう。
点Aを動かし、点Bの残像を見てみよう。
- 1, 2の関数を $\sin x$ に書き換えてみよう。

※学校資料を基に編集部で作成。

密性が前提にあつてこそ、本質的な理解に迫れると考えています。

今回活用したアプリには、値や関数を変化させ、グラフや図を動的に確認できる利点があります。そこで、課題3の後半では、関数や数値を変えると、グラフがどのように変化するのかを試してみようと、生徒に声をかけました。すると、三角関数の微分を続けると $\sin x \rightarrow \cos x \rightarrow -\sin x \rightarrow -\cos x \rightarrow \sin x$ とループすることに気づいた生徒がいました。それは、次時以降の学習内容でしたが、今後の授業への関心を高めることにもつながると考え、生徒に発表させまし

た。そうした気づきの積み重ねが、生徒の数学への好奇心を引き出すと感じています。

生徒が立ち止まって考えられるような発問にすることも心がけています。課題1では、極限值が1になるグラフを描いた場合をグループで予測させ、それを「Google フォーム」に入力させて全体で共有しました。自分の考えが合っていたかという視点でグラフを描いて検証することで、より理解を深められるはずで

●成果と展望

学習意欲が高まり、
予習をする生徒が増加

本時の振り返りでは、「積分や微分を可視化できたことで、理解が深まった」「ほかの関数の微分や積分

VIEWn-expressでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介！
< 10月22日公開予定 >

VIEW n-express 検索



のグラフを調べたい」といった声が上がっていました。微分・積分の理解とともに、次時への学習意欲につながっていることがうかがえます。事前学習を指示していない場合でも、予習をしてくる生徒が増えており、授業で生徒が考える時間を多く持てるようになりました。そうした生徒の主体的な学習姿勢は、模擬試験の良好な結果にも表れています。

今後の課題は、手応えとして感じている生徒の主体性の評価です。定期考査で記述式問題を出すなど、思考力・判断力・表現力の評価は実施できています。一方、主体性や協働性などの評価方法は検討中です。授業の最後に生徒が書く振り返りは、私の授業改善に活用していますが、生徒自身の学習改善にも生かせるようにしたいと考えています。

単元の指導計画

【教科・科目】数学・数学Ⅱ、数学Ⅲ 【分野・単元】微分・積分 【テーマ・作品】微分と積分を視覚的に理解する 【設定時数】全6時間（本時は5時間目） 【単元目標】数学学習用アプリを活用して、微分と積分を視覚的に理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	・微分積分学の歴史 ・微分係数と接線の傾きの関係	定義の意味を吟味し、理解できる。 【知識、思考力】	①微分積分学に関する動画を生徒に見せる。 ②微分係数の定義を生徒と吟味し、接線の傾きとの関係を考察する	【主体的な学び】微分積分学に関する動画を見せることで、微分積分学への関心を引き出し、さらに深く学びたいという思いを持たせる。 【深い学び】定義の持つ意味を問いかける。	
2	・整式の導関数の計算	公式を用いて素早く正確に計算できる。 【技能、判断力】	① $y=x^n$ の導関数を定義に従って計算し、公式化する。 ②微分操作の線形性を利用して、整式の導関数を計算する。	【対話的な学び】板書を控え、机間巡視をメインに行い、仲間同士で答え合わせをさせる。	
3	・接線の方程式	仲間と協力して問題を解くことができる。 【知識、思考力、協働性】	①直線の公式を復習し、接線の方程式を導く。 ②演習問題を教え合いながら解く。	【対話的な学び】直線の公式を復習した後、すぐに問題の解説をせず、仲間同士で相談させる。 【深い学び】解答を段階的に板書していく。早く解けた生徒から、次のレベルの問題を与える。	
4	・不定積分 ・積分と面積の関係	定義の意味を吟味し、理解できる。 【思考力、表現力】	①微分と積分が逆演算であることを説明する。 ②整式の原始関数を計算する。	【対話的な学び】板書を控え、机間巡視をメインに行い、仲間同士で答え合わせをさせる。 【深い学び】間違えやすいところの助言や指導を行う。	
5	・三角関数の微分・積分	仲間と協力して教え合いながら作業ができる。数学への興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を身につける。 【思考力、主体性、協働性】	①三角関数の導関数を定義に従って求める。 ②数学学習用アプリを用いて、三角関数の微分・積分を視覚的に理解する。	【主体的な学び】各自、アプリでグラフを描き、微分と積分の性質を考察する。 【対話的な学び】仲間同士での共同作業をさせる。 【深い学び】定義などに従う厳密性を重視した方法と、アプリを使った視覚的なアプローチによる方法を併用することで、より深く理解できるようにする。	・授業後の振り返り
6	・定積分の計算	素早く正確に計算できる。 【技能、判断力】	①定積分を用いて面積計算を行う。	【対話的な学び】板書を控え、机間巡視をメインに行い、仲間同士で答え合わせをさせる。 【深い学び】間違えやすいところの助言や指導を行う。	

※山本先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。



SDGsの 視点で見る 大学の学び



低学年次から少人数で学び、 主体的に考える力を鍛える

関西大学社会学部社会システムデザイン専攻は、社会の問題を見いだし、その解決策を「デザイン」できる人材の育成を目指している。同専攻4年の森岡駿太さんは、入学の動機を次のように話す。

私たちが紹介します



社会学部社会システム
デザイン専攻4年
北島沙耶
きたじま さや
兵庫県立北摂三田高校卒業



社会学部社会システム
デザイン専攻4年
森岡駿太
もりおか しゅんた
兵庫県立篠山鳳鳴高校卒業

地域共生社会をデザインする力を 磨くため、仲間や社会と協働し、 問題解決に取り組む

関西大学社会学部 社会システムデザイン専攻 草郷孝好研究室

「私の地元では過疎化が進んでおり、小学生の時、通っていた小学校が近隣の2校と統合しました。また、就職や進学を機に、地元を離れる人も多くいました。そのような経験から、大学では過疎問題を解決する研究がしたいと考え、本専攻を志望しました」

同学部の特徴は、低学年次からゼミ形式の少人数クラスが設置され、学生が、主体的・協働的な学びを進めることだ。

1年次の「基礎研究」は、専門教科目の基礎を学びながら、レポート作成などの学びの土台を身につける。

2年次の「基礎演習」は、各クラス、15人程度で、発表やディスカッションのスキルを鍛える。同専攻の4年の北島沙耶さんは、草郷孝好教授のクラスで学んだ。貧困や多文化共生などに関する文献資料を読み、学生同士でディ

スカッションを行った。

「貨幣が価値を持たない外国の暮らしの映像を見て、貨幣経済の社会は、よいか否かについて議論しました。草郷教授は、学生の意見に対して問いを投げかけてくださいます。最初はその数が多く戸惑いましたが、自分の意見が整理されていないと気づき、論理的な発言を心がけるようになりました」

共生社会の実践を学びながら、 ゼミ生全員で報告書を作成

3年次から研究室に所属し、「専門演習」で研究を深めていく。2人は、学生同士の対話が重視される研究室で、関心のある地域研究をしたいと考え、ともに草郷研究室に所属。同研究室では、草郷教授が専門とする開発学をベースに、「目標1 貧困をなくそ

う」を始め、SDGsが目指す共生社会を実現するための研究を行っている。

3年次前期は、飢餓や貧困、社会システムに関する文献を読み、レポートを作成。また、共生する地域づくりの実践事例を知るため、2020年度の実践事例を知るため、2020年度の3年生は、同大学の卒業生で、兵庫県丹波市佐治地区で空き家の活用を行う先輩に、オンラインで取材した。

3年次後期は、「2050年のあるべき未来社会を構想し、鍵となるのは何か」というテーマをゼミ生6人で考え、1つの報告書にまとめた(図)。

北島さんたちは、『環境』『多様性と自由』『生活保障と福祉』の3つが大事だと考えた。

「まず、望ましい社会とはどのような社会なのかをゼミ生それぞれが考え、意見交換をし、理想の社会に必要な要素を8つ出しました。その8つの

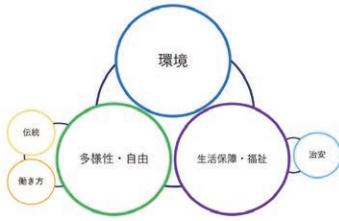
目標の解説は
WebでCheck!



または、
HOME > 教育情報 > 高校向け >
コーナー別 記事一覧からお読み
いただけます。

<https://berd.benesse.jp>

**2050年の理想の社会
実現のための3つの柱**



20年度はコロナ禍の影響で、同ゼミ4年生の卒業発表会において、報告書の中間発表をしたが、例年は、市民向けのワークショップの場で発表している。



写真 コロナ禍のため、訪問による実施はできていないが、学外訪問をして、実際に問題解決に取り組んでいる人から、実践について学ぶ機会も多い。

優先順位を考え、さらに重要度の高さから、3つに絞りました」（北島さん）
 研究はゼミ生全員で分担して進め、その中で協働の難しさも感じたという。
 「最初は、情報共有が不十分で作業の進捗に差がつかっていました。そのため、こまめに打ち合わせをして進捗を確認しながら進めるようにしました」（森岡さん）
 「環境」を担当した森岡さんは、「ゴミ問題」に焦点をあてた。文献調査に加えて、「ゴミ分別の先進的な取り組みをしている徳島県上勝町の担当者にメールを送り、取り組みが成功しているポイントをヒアリングした。

「上勝町は、「ゴミを45種類に分別し、80%と高いリサイクル率を誇ります。分別をどのように住民に理解してもらったのかを尋ねると、何度も説明会を開催し、住民と継続して対話を行ったということでした」（森岡さん）
 北島さんは、「環境」の中でも森林問題について調べた。海外の森林伐採を減らすためには、国産木材を活用する循環をつくる必要性に気づき、プラスチック製品を木製製品に替える取り組みを行うNPO法人を取材した。
 「コロナ禍のためメールでの調査でしたが、文献などの二次情報では分からなかった、新しい価値観を生み出す大変さなど、生の声を得ることができました」（北島さん）
 ゼミ生の調査結果をまとめていくと、複数の調査で『脱炭素』がキーワードとして上がるなど、問題が相互に影響し合っていることが分かった。

「報告書では、社会問題が相互に関連していることを市民に周知し、一人ひとりが問題を自分事として捉え、行動することが大切だと結論づけました」（北島さん）

ゼミでの学びを地域社会における問題解決に役立てる

4年次には、各自卒業研究に取り組む。北島さんは、ゼミの学びの中で過疎地域の増加や地域間格差に関心を持ち、地域資源を地方創生に活用することの意義を研究している。

森岡さんの卒業研究のテーマは、空き家の活用による地域活性化だ。

「兵庫県の丹波篠山市丸山集落では、空き家を宿泊施設に改築し、地域活性化につなげています。先駆者の実践事例を学び、他の地区でも活用できる地域活性化の仕組みを研究しています」
 森岡さんは、ゼミでの学びをアピールし、信用金庫に就職予定だ。

「地域に密着したコンサルティングを行い、地域発展に貢献したいです」
 北島さんは、学校や病院のシステムを扱うIT企業から内定をもらった。「システム面のサポートを通して、人々の暮らしや生活を支える存在になりたいと思っています」

学びとSDGs

問題を構造化し、市民目線で社会変革できる人に



関西大学
社会学部教授
草郷孝好
くさこう・たかよし

ゼミでは、学生が、自身が学びの主体であることを自覚できるよう、自分の考えを発信する場を多く設けています。3年次後半にゼミ生全員で行うレポート作成では、役割分担をして進めるといった段取り力を身につけることもねらいとしています。また、実践の場で学びを深められるように、地域共生活動の現場を視察したり（写真）、学生が企画・運営するワークショップを開催したりしています。

4年次の卒業研究の指導では、問題の構造化を意識させています。学生に、どんな小さな問題も大きな問題と関連があるという視点を持たせるため、自分の研究テーマがどのような社会課題と関連があるのか、構造図を描かせ、それを研究計画や文献探しに役立ててもらっています。
 そのようにして、ウェルビーイングを大切にできる社会を目指し、社会変革をデザインできる人を育成していきたいと考えています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

学年回

担任



SDGsの視点で見る大学の学び



実践的な学びで地域への課題意識を育み、ジェンダー平等や地球温暖化抑制を実現するまちづくりを研究

長岡造形大学 造形学部 建築・環境デザイン学科 環境計画・保存コース 渡邊誠介研究室

街のシンボルの設計やまちづくりに興味を抱く

長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科は、建築を始め、都市計画や文化財保存、ランドスケープ、インテリアデザインなど、様々な領域を学

私たちが紹介します



宮崎県立佐土原高校卒業。

造形学部
建築・環境デザイン学科
環境計画・保存コース3年
溝口萌衣
みぞぐち・めい



富山県・私立富山第一高校卒業。

造形学部
建築・環境デザイン学科
環境計画・保存コース4年
山岡光
やまおか・ひかる

び、人々を取り巻く環境や空間に関する問題解決に取り組んでいる。

同学科環境計画・保存コース4年の山岡光さんは、出身の富山県で印象的な建造物に出合ったことが、同大学を志望するきっかけになったという。

「高校生の時、富山市ガラス美術館を見て、『地域のシンボルになるような建造物を作りたい』と思いました」

同コース3年の溝口萌衣さんは、高校で学んだ広告などの産業デザインをさらに深められ、関心のあった建築についても学べると考えて、同大学に入学。1・2年次に建築やデザインの基礎を学んだ。

「1年次に履修した『基礎造形実習』では、初めて建築図面の手描きに挑戦しました。その実習のおかげで、設計する力だけでなく、図面を見る力も養うことができました」

子どもの成長を実感できるトイレデザインを

同学科の学生は、3年次に環境計画・保存コースと建築・デザインコースに分かれ、後期に15ある研究室のいずれかに所属する。

溝口さんが環境計画保存コースを選んだきっかけは、2年次に履修した「地域協創演習」だった。同科目では、学年や学科が異なる学生がグループとなり、企業と協働してまちづくりや問題解決に取り組む。溝口さんのグループは、衛生陶器メーカーと協働して、地域の公衆トイレのデザインに取り組み、地域価値向上の企画提案や新たなデザインの開拓に挑戦した。

現地調査をする中で、同地区の子育て支援施設には子どもと一緒に利用できる個室トイレが女子トイレにしか設置



写真1 子どもが公衆トイレに入りがらない理由を調査。入り口から個室に入るまでの通路の壁や床に、親子で楽しめる絵やオブジェを飾り、思い出の空間になる企画を立案。コンセプトをポスターにまとめた。

「公衆トイレの一部を、子どもの成長を実感でき、思い出に残る空間にしたい」と考えました。そうしたコンセプトを、具体的なデザインとして表現するのは

目標の解説は WebでCheck!



または、
HOME > 教育情報 > 高校向け > コーナー別 記事一覧からお読みいただけます。
<https://berd.benesse.jp>

大変でしたがアイデアを絞り出し、形にしてみました(写真1)「溝口さん」

その授業の経験から、人と人とのつながり、まちづくりに強く関心を持った溝口さんは、長岡市の醸造の町であり、文化財建造物も集中立地している摂田屋地区のまちづくりを支援している渡邊誠介教授の研究室に入った。同研究室では、「目標11 住み続けられるまちづくりを」や「目標1 貧困をなくそう」への貢献を目指し、人口減少が続く地方都市のまちづくりを研究している。

公衆トイレのデザインの経験を通じて、ジェンダー問題にも関心を持った溝口さんは、卒業研究では、男性の育児参加の観点から、女性の地位向上につながるまちづくりにアプローチしたいと考えている(目標5)。例えば、男性の育児休業取得率が100%の地元の建設資材会社への取材などを通じて、男性社員の多い傾向にある建築業界でジェンダー平等を実現する方法を研究するなど、研究計画を立てている。

「私は現在、長岡市男女共同参画審議会に、学生代表として参加しています。行政の視点からも、まちづくりやジェンダーにかかわる問題への理解を深めていきたいです。将来は、地方公務員など、地域に貢献できる仕事に就きたいと思っています(溝口さん)」

スナゴケによる屋上緑化で、地球温暖化抑制に貢献

山岡さんは、都市計画への関心があり、渡邊研究室に所属。卒業研究は、スナゴケによる屋上緑化をテーマにする予定だ。

「建築業界を中心に就職活動をする中で、SDGsに関する取り組みとして、スナゴケを活用した屋上緑化を知り、興味を持ちました」(山岡さん) スナゴケは、一般的な植物と異なり、昼夜を問わず二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する。しかも、二酸化炭素の吸収量が多く、地球温暖化の抑制に大きく貢献できる植物として注目されている(目標13)。ビルなどの屋上にスナゴケを植えることで、二酸化炭素の吸収以外の効果もあるという。



写真2 スナゴケは、緑化に活用できる植物として注目されているが、生育が難しいため、あまり広まっていない。内定先企業のスナゴケの栽培実験に参加し、理想的な生育環境を研究する予定だ。

「コンクリートの建物は、夏や冬の気温差による伸縮で、劣化する特徴があります。スナゴケを屋上緑化に利用することで、室温を一定に保て、建造物の傷みや冷暖房の使用を抑えることができます(目標11)」(山岡さん)

また、工業地域は、緑地を3~5%確保しなければいけない用途地域(*1)として定められている。工場を屋上緑化できれば、緑地にすべき土地にも建物を造ることができ、効率的な土地利用が可能になるという。現在、山岡さんは、スナゴケの生育にも目を向けている(写真2)。

「スナゴケは、屋上に置ける高さに育てるまでには、2~3年かかります。また、生育には、湿度が少ない、風がない、水はけがよいといった環境が必要です。内定を得た建築会社では、休耕地(*2)で緑化用のスナゴケの栽培実験を行っており、私も実験に参加予定です。休耕地での栽培実験がうまく進めば、耕作放棄地の問題解決や地方に新たな雇用を生むことにもつながると考えています(目標1)」(山岡さん)

就職後も、スナゴケの屋上緑化を切り口に、より実践的に社会問題と向き合っていくつもりだ。

学びとSDGs

自ら体験することを大事にし、住むまちに貢献を



造形学部
建築・環境デザイン学科
教授
渡邊誠介
わたなべ・せいすけ

私は、「人の生活のあらゆることが、まちづくりにかかわる」と考え、研究室では、多様な視点からまちづくりを研究しています。そうした研究には、地域に愛着を抱き、人が生活する場としての理解が不可欠です。

最近、インターネットで検索した情報だけで問題を理解したつもりになってしまふ学生が少なくないですが、実際に現地を見たり、体験したりすることで、課題を設定し、自ら答えを見いだしてほしいと考えています。特に、デザイン系の学びには正解はなく、自分に信念があれば、それが正解になります。

学生は、北海道から沖縄まで全国から本学にきていますが、27万人の長岡市よりも人口規模の小さい都市出身者が多いです。卒業後は地元のみまちづくりにかかわりたいと考えている学生に、「どのような形でもよいから自分が住み、働くまちをよりよくしてほしい」と伝えています。

*1 用途地域とは、建築できる建物の種類、用途の制限を定めたルールのこと。 *2 水田として機能していない田畑。

トレンド・ワード

データサイエンス

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「働く」「暮らす」「学ぶ」の観点から解説する本コーナー。今回は「データサイエンス」を取り上げる。行政や企業などで、意思決定をする際に活用されている「データサイエンス」。それを専門に学べる学部・学科がここ数年相次いで大学に新設され、人材育成が強化されている。なぜ、データ分析を基にした意思決定が重視されるようになったのか。データサイエンスではどのような資質・能力が求められるのか。企業のデータ分析及び分析人材の育成に携わる統計家の西内啓氏に話を聞いた。

解説者



株式会社データビークル
取締役副社長
CPO（最高製品責任者）

西内 啓

にしうち・ひろむ

東京大学助教、大病院医療情報ネットワーク研究センター副センター長等を経て、現職。企業向け分析ツールの開発、官民のデータ活用プロジェクトの支援に従事。著書に、『統計学が最強の学問である』（ダイヤモンド社）など。

サマリー

データを分析して根拠を導き、 経験がなくても価値ある意思決定を行う

統計学などを用いて、データから意味ある情報を見いだす

「データサイエンス」は、統計学や情報科学などを応用してデータを活用し、そこから何らかの価値を生み出す技術である。大きく分けると、2つのアプローチがある。

1つは、人間が社会や自然の複雑な挙動を理解するために、データを

収集・分析し、そこから意思決定や問題解決などを行うものだ。例えば、企業が消費動向の分析結果を商品開発に生かしたり、自治体が気象情報や被災記録などの分析結果を基に防災施策を立案したりといった活用がある。

もう1つは、人間を介さずに済むように、作業の自動化や効率化を図るものだ。いわゆるAI開発と呼ば

れるものがそれにあたり、人間の行動に関するデータから「人間だったらどのように処理するか」を高精度に予測できるようにし、機械がその行動を自動的に行えるようにする。

人や社会に関するデータを分析するデータサイエンスでは、統計学や情報科学の知識・技能に加え、人や社会への関心・理解が重要だ。統計家で株式会社データビークル取締役

副社長の西内啓氏は、こう説明する。

「データサイエンスに求められるのは、データから規則性や関連性などを見いだす統計的視点、データを適切に処理する計算機科学的視点、データの活用方法の発想や分析結果の解釈に必要な人間的視点です（図1）。それら3つの視点からのアプローチによって、データを社会に役立つ情報にすることができるよう」

エビデンス重視の意思決定と
ITの進化の両面から発展

データサイエンスが活用されるようになった背景には、「エビデンス

図1 データサイエンスの3つの視点

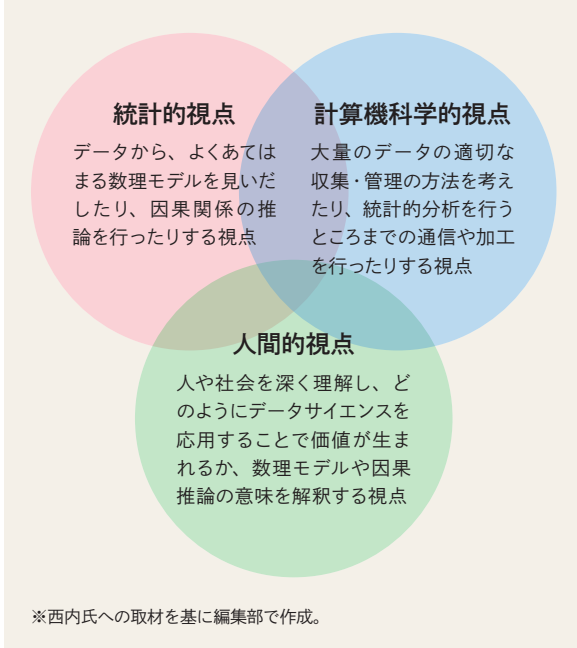
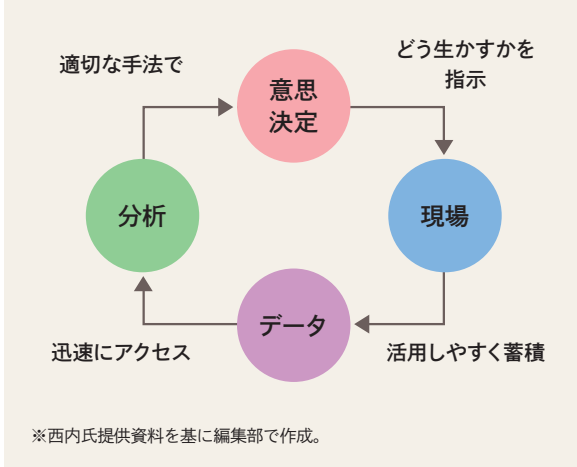


図2 データサイエンスを活用した意思決定のサイクル



ベースド」という考え方が、医療分野を中心に1990年代前半から広まったことが挙げられる。

「人の命を預かる医療では、統計学などの手法を用いてより効果的で効率的な治療法を見だし、科学的根拠（エビデンス）と医師の経験に基づき治療法を判断することが一般的になっていきました。その考え方は、効率的に大きな利益を目指す企業でも活用されるようになりました」

また、ITの進化によって、社会の隅々にまでネットワークが構築され、多様なデータを収集できるよう

になるとともに、膨大なデータも容易に計算することが可能になった。

「科学的根拠を基にした意思決定を重視する考え方も、膨大なデータを活用して有益な情報を見いだせるようになった環境整備が相まって、データサイエンスを活用して意思決定の精度を高め、より大きな成果に結びつける（図2）という動きが広がっていったのです」

データサイエンスは、誰もが身につけるべき素養に

データサイエンスの利点は、経験

がないことでも、データの分析結果を根拠として、最適と思われる意思決定ができることだ。例えば、複数の優秀な販売員の経験をデータ化してよりよい接客方法を見いだせれば、接客が未経験の販売員でも、商品の購入に結びつく接客ができるようになることが期待できる。

「データ分析により、これまで気づかなかった傾向や想定外の関連性などが示されることがあります。それを基によりよい方法を生み出すこともできるのです。そうしたことから、データサイエンスの価値があ

ると言えるでしょう」

どのような業種や職種にも意思決定をする場面があることを考えると、データサイエンスの活用は、行政や企業にとどまらず、スポーツや芸術、教育など、あらゆる分野に広がっていくと考えられる。

また、技術の進歩によって高度なデータ分析の自動化が進めば、専門家でなくても、意思決定や問題解決などにデータを活用する「市民データサイエンティスト」(*)が活躍するようになると思われる。

「統計的視点や計算機科学的視点をITの技術でサポートできるようになれば、データサイエンスを活用するハードルはぐっと下がります。そうならば、仕事や生活のあらゆる場面で活用できるデータサイエンスは、すべての人に求められる素養となっていくのではないかと考えています」

●次ページからは、「働く」「暮らす」「学ぶ」の3つの切り口で、データサイエンスによる社会や生活の変化を具体的に見ていく。

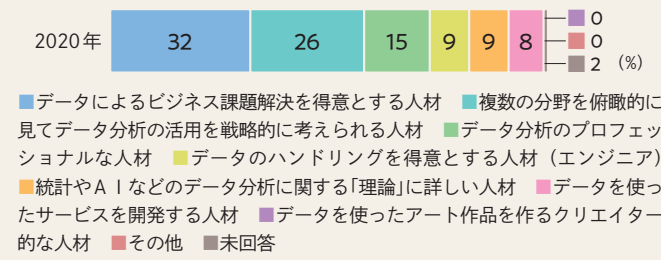
* アメリカのリサーチ&アドバイザリ企業「ガートナー」が提唱した概念。

働く

専門性×データサイエンスで仕事の幅が広がる

企業では、利益に直結する商品開発や販売戦略などに活用できる手法として、データサイエンスが広まった。現在では、社員の勤怠や評価などのデータを分析して、労働環境を改善したり、人員配置や採用を行う

図3 今後3年間で採用・育成したいデータサイエンティストの人材像



※一般社団法人データサイエンティスト協会「データサイエンティストの採用に関するアンケート」(2020年調査)を基に編集部で作成。

たりするなど、企業経営全般に積極的に取り入れられつつある。

それに伴い、複数の分野や全体を俯瞰できるデータサイエンティストの採用・育成のニーズが高まっている(図3)。

「日本では元々、統計学を駆使して、品質の高い製品を生み出し、製造工程を改善したりしてきました。それを強みとして、日本の経済は発展してきたと言えます。科学的根拠を基にした意思決定の文化は、製造の業務では定着していますから、マーケティングや営業、人事などの業務にもその文化が浸透すれば、日本全体の経済成長が期待できるでしょう」

データサイエンスの専門家でなくても、自分のやりたい仕事の専門性に加えてデータサイエンスの素養も身につけていれば、仕事の幅を広げられるだろう。

「例えば、研究者になれば、実験や調査の結果を分析するので、デー

タサイエンスが必要です。また、会社員でも、管理職になれば、部下の過去の業務実績などを基に適性を分析し、誰にどの仕事を任せられるかを判断することが求められます。自分

の専門性とデータサイエンスによる分析力のかけ合わせは、より適切な意思決定や問題解決を可能にし、仕事を上で大きな強みになります」

暮らす

根拠を求める姿勢が、生活の質向上につながる

住民・消費者としてデータサイエンスの視点を持つことは、生活の質向上のためにも大切だと、西内氏は語る。

「日常生活でも、データサイエンスの視点を持つと、自治体や企業から十分な説明がないままに、非効率な施策やサービスが漫然と行われていたら、それに気づけるかもしれません。そこで住民・消費者として、根拠を求める姿勢をさせば、自治体や企業は効果的な施策やサービスの提供に努めるようになるでしょう。多くの人がそうした姿勢を持てば、社会全体がよりよくなっていくのではないのでしょうか」

新型コロナウイルスの感染拡大防

止においてもデータサイエンスは大いに活用されており、それは暮らしに直結している。例えば、いわゆる「3密」を回避する方策が示されたのは、保健所の疫学調査の結果、感染者と非感染者の違いとして、「密閉・密室・密集」の3つがリスクファクターとして見いだされたからだ。

日常生活や人生においても意思決定を行う場面は多々あり、データサイエンスの視点を生かすと有効な判断を下せる場合もある。例えば、様々な学習方法の中から、研究で効果的とされている方法を探し、試してみ、自分に合う方法を見いだすようにすれば、迷いなく効率的に学習を進められるだろう。

新型コロナウイルスの感染拡大防

学ぶ

データサイエンスの素養を育む教育が活性化

高校では、数学や情報で統計学の学習内容が拡充

社会におけるデータサイエンスの活用拡大を受け、大学はデータサイエンスの育成に力を入れていく。17年度、滋賀大学が日本初のデータサイエンス学部を設置。以降、データサイエンスに関する学部・学科の新設が相次いでいる。

19年度、国が策定した「AI戦略2019」では、AIに対応した人材育成の一環として、すべての大学生・高等専門学校生が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを履修するための教育課程の整備が打ち出された。21年度には、そのうちの優れた教育プログラムを認定する制度(図4)がスタートした。高校では、新学習指導要領において、数学科や情報科で統計学やデータ活用などに関する学習内容が拡充される。

て、西内氏は次のように語る。

「数学では、幾何学以外の分野は統計学の基礎となるので、高校時代にしっかり習得しておくことよいでしよう。地理や現代社会では、人口や産業などのデータを用いて学びますから、グラフの表示の仕方やデータの読み取り方など、データ活用を実践的に学べる科目として重要です」

科学的根拠を基に考察する学習としては、仮説を立てた上でデータを集めて分析したり、条件の違いの統計的有意性を実験で調べたりといった活動を行う理科や探究学習が挙げられる。それらの学習で重要なのは、懐疑的な思考力を持つことだという。「つい素直に納得できそうなことでも、あえて立ち止まって、疑問を持つようにすると、理屈の穴を見つれたり、別の方法に気づいたりすることがあります。日頃から、そうした意識で物事を見るようにするといでしよう」

図4 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」概要

種類	主な要件	認定数
認定教育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短期大学、高等専門学校の正規の課程 学生に広く実施される教育プログラム(全学開講) 具体的な計画の策定、公表 学生の関心を高め、かつ、必要な知識及び技術を体系的に修得 学生に対し、履修を促す取り組みの実施 自己点検・評価(履修率、学修成果、進路等)の実施、公表 当該教育プログラムを実施した実績のあること(人文・社会学等を含む複数学部等からの履修) 	大学 66校 短期大学 2校 高等専門学校 10校
認定教育プログラムプラス	<ul style="list-style-type: none"> 上記認定要件を満たすこと 学生の履修率が一定割合以上(全学生の50%以上(3年以内に達成見込みも可)) 大学等の特性に応じた特色ある取り組みが実施されていること 	大学 10校 高等専門学校 1校

認定数は、2021年8月時点。
 ※文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」を基に編集部で作成。

個別最適な学習をより効果的に行えるように

データサイエンスは、学習方法にも変化をもたらしている。その一例は、学習者の理解度や弱点などに応じた教材を自動的に提供するアプリケーションだ。

「データサイエンスを活用したアプリケーションによって、学習者が1人で自分の課題に応じた学習を効率的に取り組めるようになりまし。個別最適な学習の実現は、そうしたアプリケーションの活用が1つの鍵になると考えています」

学習改善や授業改善にも、データサイエンスは有効だ。例えば、学習者を2つのグループにランダムに分け、それぞれ違う方法で学習した結果、どのような違いが生じるかを比較すれば、効果的な学習方法や指導方法を見いだすことにつながる。

「科学的根拠を基にした学習改善や授業改善は、データを活用すれば物事を効果的に改善できると、生徒が実感できる身近な具体例になるでしょう。加えて、社会をよりよくするために既存のことは見直す重要性を、生徒に伝える機会にもなるのではないでしようか」



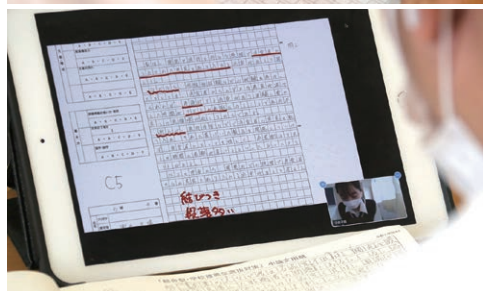
小論文合同学習会

学校や学科、環境が異なる生徒同士で、
視点や考え方の多様性を学び、視野を広げる

近畿地区専門高校3校連携



写真左/今年度は、遠方の福岡県の高校も参加。地域や学科、環境が異なる学校の生徒が、オンラインで一堂に会した。普段接する同じ学校の生徒とは異なるバックグラウンドを持つ生徒との対話を通じて、新たな視点を獲得していく様子が見られた。



写真上/学習会当日は、班で意見を出し合って小論文の構成を考えた後に、各自が小論文を作成。写真下/作成した小論文を送って読み合い、評価し合った。コメントをその場で書き込むなど、デジタルツールの利点を活用した活動を行った。

どんな学び？

1 授業の内容は？

複数の異なる高校の生徒が、同じテーマで書いた互いの小論文について意見を交わすことで、テーマに対する考えを深め、論述力を高め合う活動です。

2 育成を目指す資質・能力は？

他者との対話を通じて自分の強みを発見し、その強みのかけ合わせによって、視野を広げ、自分の考えを表現できる力を身につけてほしいと考えています。

3 なぜ、この学びが必要？

同じ学校の生徒同士の対話では、物事の見方・考え方は偏りがちです。異なる専門性を持つ生徒との学びを通じて、それが広がることを期待しています。

「他校の生徒の小論文を読み、様々な論点に気づく」

生徒が、自分が書いた小論文を他の生徒と評価し合うことは、広い視野と、自分の考えを客観的に捉える力を育む上で有効な方法の1つです。そうした活動を、学校や学科、住む地域が異なる生徒同士で行えば、学習効果が一層高まるのではないかと考え、2015年度、京都府・京都市立京都工芸学院高校、兵庫県の私立神戸星城高校、奈良県・大和高田市立高田商業高校の3校が集まり、小論文合同学習会を始めました。

生徒は、他校の生徒との対話を通じて、実に多くのことを学びます。特に、学科が異なる生徒の視点や考え方に、大きな刺激を受けます。例えば、エネルギー問題をテーマにした小論文では、商業高校の生徒の多くが燃料の経済性に着目して論じていたのに対し、工業高校の生徒はエネルギー効率を中心に論を展開するなど、視点の違いが表れていました。他者の小論文を読み、意見を交わし合う中で、「そういう視点や考え方があるのか」と実感し、視野の広がりをもたらされています。

「言葉にしないと伝わらない。議論で磨かれていく発信力」

学習会では、他者との対話を通じて発信力を高める生徒の姿も見られます。ある年の学習会では、当初は積極的な生徒が議論をリードし、ほかの生徒は沈黙しがちでした。しかし、議論をリードする生徒が堂々と意見を述べる姿に、自分の考えを言葉にして明確に発信していかなければ、相手を納得させることはできないと気づいたのでしよう。遠慮がちにしていた生徒も、次第に積極的に発言するようになっていきました。

学習会は、参加校を増やしなが

毎年実施してきました。20年度は、コロナ禍の影響で、オンラインによる1日での実施となり、今年度も同様の形式にしました。

今年度は、事前に全参加者が同じテーマで書いた小論文を読み合い、よいと思った小論文とその理由を、各自が発表し合うグループワークを行いました(図)。近畿地区のほかにも、福岡県からの参加もあり、例年以上に多様な意見や考えが交わされました。「他校の生徒の意見を知って、視野が広がったと思います。議論の面白さも感じました」といった声も上がり、多くの気づきを得る生徒の姿が見られました。

図 「2021年度 小論文合同学習会」プログラム

開講式	主催者から挨拶と趣旨説明を行った。
講義①	アイデアの出し方や小論文の書き方などを教師が説明するとともに、グループワーク①～③の進め方として、小論文の読み方と評価基準を伝えた。
グループワーク①	生徒は4～6人から成る班に分かれ(以下、グループワークは同じメンバーで実施)、班のメンバーが事前に書いてきた小論文をその場で読み、その中からよいと思った作品とその理由を、班内で発表し合った。
グループワーク②	新たな小論文のテーマについて、まず個人で考えた後、その考えを持ち寄り班で議論し、小論文の構成案を作成した。
小論文作成	休憩後、グループワーク②で提示されたテーマで、各自が小論文を作成した。
講義②	グループワーク①で各班が評価し合った内容に対して、教師がフィードバックを行った。
グループワーク③	休憩後に各自で作成した小論文を、班のメンバーで読み合い、各自がよいと思った作品とその理由を発表し合った。
講義③	グループワーク③で各班が評価し合った内容に対して、教師がフィードバックを行った。
閉講式	主催者からまとめと振り返りを行った。

※有本先生提供資料を基に編集部で作成。

お話を聞いた先生



京都府・京都市立京都工芸学院高校
有本淳一
ありもと・じゅんいち

教職歴26年。同校に赴任して6年目。進路指導主事。理科。



奈良県・大和高田市立高田商業高校
大島利隆
おおしま・としたか

教師歴21年。同校に赴任して21年目。進路指導主事。国語科。

2021年度 参加校

京都府・京都市立京都工芸学院高校、大阪府立今宮工科高校、兵庫県・私立神戸星城高校、奈良県・大和高田市立高田商業高校、福岡県・福岡市立博多工業高校、私立福岡女子商業高校

VIEWn-expressでは、「ウェブで見学 学びのnext」で、小論文合同学習会について、当日の様子や参加校の声も紹介!
< 10月28日公開予定 >

VIEW n-express

検索





今号の「輝く学年団を訪ねて」で紹介した宮城県柴田高校は、2021年3月開催の第93回選抜高等学校野球大会出場校です。同じく青春の日々に白球を追った私にとって（最後の大会は逆転サヨナラで1回戦敗退）、野球部部长でもある2学年主任の佐藤瞬先生は、この春に「聖地」でノックを打った、今風に言えば「神」。校庭から時折聞こえる打球音をBGMに、野球の質問はぐつとこらえ、取材を遂行しました。

取材時は、夏の甲子園の真っ最中、新型コロナウイルス感染による出場辞退の報に胸が痛みました。あらゆる教育活動で、先生、生徒一丸で細心の注意を払っても、リスクはゼロにはならない。でも、時間は待つてはくれない。どうすればよいのか。問いかけてもただ青いばかりの空。球児の味方であるはずの青い空に、拡大防止に努めることを改めて誓い、終息を祈りました。（河野）



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年12月号

12月15日発行

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発行です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2021年8月号へのご意見

進路指導よりも「進路支援」の時代

8月号の特集の冒頭に描かれた「私の大切な2人の生徒のこと」に共感した。多くの学校が進路指導ストーリーをつくっているが、これからは、生徒自身が進路への思いをどれだけ描けるかが重要であり、進路指導よりも「進路支援」が必要だと感じていた。生徒が自己を把握するために必要な、自分の思いを言語化し、客観的に分析する際に教師ができる支援を考える上で、3校の実践事例は参考になった。「生徒を支援」「生徒と伴走」などの言葉が響いた。埼玉県・私立東京農業大学第三高校 小堀健一

大学が求める主体性とは何かを再確認

8月号の特集の課題整理で、大学が入試において、基礎学力を前提とした上で、生徒が学びや活動の事実・結果をただ述べるのではなく、事実・結果に至るまでの過程と今後の展望を自分の言葉で述べられるかどうかを評価することを改めて確認でき、安堵した。新しい入試が、成果物を持つ一部の生徒のための仕組みになってしまうことを懸念していたからだ。実践事例は、節目で振り返りの場を設け、次の行動に何をどのようになかすのかを考えさせることや、生徒同士の相互評価、優れた「マイ・ストーリー」を学年通信に載せて共有することなどが参考になった。

新潟県立長岡大手高校 金澤康雄

すべての生徒に「マイ・ストーリー」は必要

8月号の特集の内容は、生徒の進路が多様な学校での面接指導で感じていた、生徒の発言に「マイ・ストーリー」を感じられない物足りなさを改善することにも応用できると思った。どんな生徒でも、「マイ・ストーリー」を語る素材を持っていて、短い面接練習の時間でも、対話を通じて、生徒は自分の持つ素材を再構築し、ストーリーを紡げるようになっていく。生徒の希望進路にかかわらず、言語化や対話の必要性を感じた。

千葉県立銚子商業高校 田中三郎

自校の「学校教育デザイン」を考えるベースに

ループリックの仕組みや重要性は理解しているが、それを作る労力を考えると、気持ちがついていけなかった。8月号の「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介された東京都立第五商業高校の取り組みは、ループリックの完成度が高いだけでなく、縦横を何度も問い直し、修正し、まとめるという過程が素晴らしかった。同校の事例をベースに、自校なりのループリックを周りの教師と一緒に考えてみたいと思わせてくれた記事だった。

静岡県 匿名希望

生徒一人ひとりが達成感を得られる授業

8月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された北海道浦河高校の舟田彩一郎先生の授業は、深い思考に生徒を導く体育の授業をどうすれば実現することができるのか悩んでいる教師にぜひ知ってほしい内容だった。運動能力にかかわらず、生徒一人ひとりが達成感を得られるようにする工夫に感銘を受けた。千葉県・私立成田高校 佐藤杏奈

VIEWnext 編集部からのお知らせ

本誌特集テーマとも
連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座のご案内

対話を通じてルーブリックを作成するポイントについて伺います!



講師

京都大学大学院
教育学研究科
教授

西岡加名恵

開催日時 2021年12月8日(水)

16時00分~17時10分

形式 オンライン(ライブ配信)

※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み締め切り 2021年12月1日(水)

参加費 無料

参加申し込み
受け付け中!

詳しくは
本誌 26 ページを
ご覧ください。

ニューコンテンツ、続々

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナー VIEWn-express リリース

「VIEW n-express」では、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを「express = 速達」でお伝えします。

アクセスは
こちら!



授業が動画で見られる!

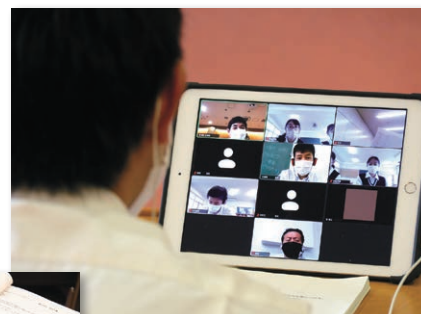
今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した、京都府・私立東山中学・高校・山本晃弘先生の数学の授業を、ダイジェスト動画でご覧いただけます。



動画では、三角関数の微分・積分について、生徒同士で学び合い、ICTを活用して視覚的にも理解を深めていく様子が分かります。

ウェブで見学 学びのnext

今号の「誌上で見学 学びのnext」で紹介した、近畿地区の専門高校3校が連携して実施している「小論文合同学習会」について、指導の留意点や学習会当日の生徒の様子、学校間の連携の進め方などを、さらに詳しくお伝えします。



オンラインで実施した今年度の学習会の様子を紹介します。

生徒が学びを深めるポイントとなっている他校との連携についても、参加校の教師に話を聞きました。

VIEWnextのLINEをご登録いただければ、VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、ダイレクトにアクセスできます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

VIEWnextや教育に関連する最新情報をタイムリーにお届けします。

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。

*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの

「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



次の
一歩

佐藤あやか 先生

Sato Ayaka

東京都・私立かえつ有明中・高校

ともに学び、
高め合う
クラスを築く

生徒の内面から湧き出るエネルギー

を大切にした教育活動を行っている本校は、2020年度より、生徒が自分に合った「学び方」で学べるクラスを選択することができるシステムを導入しました。探究や対話的な学びを中心とした「オーセンティッククラス」、高度な知識の活用力を座学中心で習得する「トラディショナルクラス」、すべての学びを生徒主体で進める「高校新クラス」を設け、生徒が、自分らしさを大事にした学びを追究しながら、希望進路を自ら見つけ、その実現を目指すようにしました。

私が担任を務める「高校新クラス」の生徒は、日々の学習や部活動を頑張りつつ、学校説明会の運営や校内での畑づくりなど、校内外で自分のやりたいことに挑戦しています。新たな体験をする中で、悩みを抱えつつも、「意欲的に頑張っている仲間」に勇気づけられている」と、生徒は言います。クラスでは、「幸せとは何か」「自分が大切にしたいことは何か」といったことをテーマに、対話の場を多く設けてきました。自分の思いを率直に語り、他者の考えに価値観を揺さぶられながらも、互いの考えを認めることで、悩みや弱音を受け止め、助け合い、尊敬し合う関係を築いてきました。そうした仲間の存在が、生徒の前向きな活動を支えていると感じます。

そんな生徒たちに触発されて、私もプログラミングを勉強し、担当教科の授業で取り上げ始めました。身近な題材を通じて、数学的な見方・考え方と自分の生活とが結びつく場面が少しでも増え、生徒が新たな学びに踏み出すきっかけになればと願っています。



生徒より

私 たちのクラスには、日常的に挑戦の場があります。例えば、修学旅行は自分たちで行き先を決めて、旅行会社と一緒に行程を考え、その内容を保護者に説明する会も運営しました。プログラミングの授業では悪戦苦闘していますが、私たちのためにと挑戦し続ける佐藤先生の姿に、日々刺激を受けています。自分では思いつかないことに挑戦できるのは、先生方が様々なきっかけを与えてくれるから。そうした機会を、次のやりたいことの発見につなげていければと思います。

さとう・あやか 教職歴7年。同校に赴任して8年目。生徒会担当。プログラミングト科。数学科。新クラス2学年担任。

東京都・私立かえつ有明中・高校
全日制／普通科／共学／1学年約180人／2021年度入試合格実績（現役のみ）国公立大は、北海道大、東北大、一橋大、京都大などに7人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ439人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル **0120-350455** [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17